

## II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		*	*
		商店街（代表者）	・インバウンドについては、原子力発電所の処理水放出の影響で中国人観光客の動きが低調になっているが、それ以外の国からの入込が堅調に推移しており、好調を維持している。また、現状は富豪層が多いこともあって、消費が活発な上、マナーも良く、安定した環境となっているため、このままの状態に推移してくれる方が有り難い。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ここ数か月、売上が堅調に推移していることから、今後も良い状態が続くことになる。
		百貨店（売場主任）	・今後については、インバウンドが増える分だけ売上も増えることになる。ただし、国内客による売上は、冬を控えて光熱費が上昇していることから、横ばい又は下がることになる。
		スーパー（店長）	・これから気温が下がり始めれば、今まで停滞していた秋冬物の需要が一気に動くことになる。また、旅行関連商材については引き続き伸びるとみられるため、これから冬に向けて、段々と良い流れになっていく。
		スーパー（店長）	・ポイント利用促進企画の増加、ポイント利用範囲の拡大により、客の来店回数が増え、商圏内でのシェア率が上昇している。
		スーパー（企画担当）	・いわゆる130万円の壁に対する政府の対応策が発表されたことで、当社で働くパート従業員も時間を気にすることなく就業できるようになる。他企業も同様であることから、パート従業員の収入確保につながり、消費に回る金が増えるとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・季節的に猛暑が落ち着くことで、今後の景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・10月以降、数車種の新型車発表を予定していることから、今後の景気はやや良くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・コロナ禍から脱却しつつあること、値上げに対する客の過剰な反応が払拭されつつあることから、今後の景気はやや良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・冬季シーズンのインバウンドの予約が好調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・物価や原油価格の高騰などに伴って、宿泊料金や航空運賃なども値上げが進んでいるものの、旅行需要に影響が出てこないことを期待している。
		タクシー運転手	・人手不足は深刻であるものの、タクシーの稼働台数は維持できていることから、これから紅葉シーズンを迎えて景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・人の動きが少しずつ活発になっているため、今後の景気はやや良くなる。
		通信会社（企画担当）	・大型商業施設などにおける出店販売の成果次第ではあるが、通信端末が値上がりしているにもかかわらず、都市部、地方部のいずれも客からの引き合いは減っていない。また、クレジットカードやポイントカードの入会ペースも落ちていないことから、今後については、微増ではあるが、収益増加が期待できる。
	観光名所（従業員）	・各種商品の価格が高騰しているにもかかわらず、観光客の回復基調が続いている。今後に向けて、懸念材料となるようなマイナス要素も見当たらないことから、景気は少しずつ良くなっていく。	
	商店街（代表者）	・当地域のスーパーが9月末で閉店し、区域内で日配品、生鮮食品などを購入できる店舗が無くなることもあって、地域住民による日用品以外の買物が減ることになる。また、燃料価格の動きは落ち着いているものの、依然として生活費に占める割合が高いため、客の節約志向は強まることになる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・売上はコロナ禍前の水準を上回っているが、それは1店舗増えたためであり、日本人客の買い控えは増えている。欧米からの観光客はクルーズ船寄港の効果でやや増えているが、中国人観光客が回復してこなければ、コロナ禍前の状態には戻らないとみられるため、今後も景気は変わらない。
		百貨店(販売促進担当)	・一般客にとって、先行きの見えない状況が続いているため、今後も身の回りの景気は変わらない。今後は2極化がますます進むことになる。
		スーパー(店長)	・競合店対策の施策を行っているものの、景気はほぼ変わっていない。これから冬に向けて、商圈が狭くなることから、来客数が減ることも懸念される。このため、今後も同様な状況が続くことになる。
		コンビニ(エリア担当)	・商品の値上げを極力抑制している一方で、営業コストの上昇を吸収し切れていない競合先もあることから、今後もマーケットのシェアはある程度維持できることになる。ただし、営業コストが上昇するのは当社も同様なため、経営が楽になるわけではない。
		コンビニ(エリア担当)	・コロナ禍が収まることで来客数も回復するとみていたが、実際は期待していたほど、来客数が戻ってきていない。売上は販売価格を上げたことで増えているが、来客数が増えてこなければ、この先の売上が増える見込みが立たない。
		コンビニ(店長)	・客の買上点数が減少しているため、値上げを行っているにもかかわらず、客単価が上向いてこない。
		家電量販店(経営者)	・電気料金高騰の影響で、省エネ商品などは今後も引き続き売上が増加することになる。
		家電量販店(店員)	・猛暑の影響で夏物商材を購買した客が多く、その反動が出てくるのが懸念される。
		乗用車販売店(経営者)	・大手建設業であれば、現在の需要にも組織的に追従できるのかもしれないが、個人住宅などを業としている小規模建設業の経営環境はかなり厳しくなっている。観光関連の回復も人手不足が足かせとなり、需要を取り込みきれていない。そのため、全体的な景気は今後も変わらない。
		乗用車販売店(従業員)	・インバウンドが増えて、様々なところに金が回るようになってきていることで、景気自体は良くなるとみているが、自動車業界については、金額の大きな消費となるため、景気はなかなか上向いてこない。ただし、10月以降、新車種が発表されることから、2～3か月後の景気は多少上向くことになる。現在は、景気の底にあるとみられる。
		乗用車販売店(従業員)	・現状の納期問題が解決しない限り、自動車業界の景気は良くなるならない。また、受注できる車種も限られているため、対応車種が出そろわないと、今後の景気回復にはつながらない。
		その他専門店〔造花〕 (店長)	・年末商戦を迎えて、インボイス制度の影響がどのように出てくるのが不透明なため、今後も景気は変わらない。
		高級レストラン(スタッフ)	・来客数が落ち着き、料理の安定提供ができるようになったことで、店内の雰囲気や和らかなり、店にとっても客にとっても良い傾向がみられている。9月の収支はまだ出していないが、原価高にも少しずつ対応できるようになっている。これから年末にかけて、人手不足やコスト高対応などに向けた体制を整えていきたい。
		高級レストラン(スタッフ)	・秋の紅葉シーズンを迎えて、行楽客の動きが多少期待できるものの、大きなイベントなどはない。現在の予約状況がそれほどでもないことから、今後も現状維持の状態が続くことになる。
		タクシー運転手	・乗務員不足で稼働しているタクシーが減っているため、今後もタクシー1台当たりの売上や乗務員の給与がコロナ禍前を上回る状況が続くことになる。ただし、乗務員不足はなかなか解消できないため、会社の売上はコロナ禍前と比べると大幅な減収であり、利益がなかなか出ない状況は改善されない。
		タクシー運転手	・観光客の予約もイベント関係の予約も例年並みのため、今後の利用状況に変化はないとみられる。
		タクシー運転手	・4年ぶりのイベント開催などもあって、9月の景気は良かったことから、これから冬にかけての動きを注視している。
		通信会社(エリア担当)	・先行きが不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（エリア担当）	・先行きの見通しが立たない。
		観光名所（職員）	・物価の高止まりが続いている一方で、個人所得は物価の上昇率ほど上がっているわけではない。一定程度の消費は行われるとみられるが、生活必需品以外の動向は鈍化することになる。
		美容室（経営者）	・来客数及び売上がコロナ禍前の水準に回復しているため、今後も同じような状況で推移することになる。
		美容室（経営者）	・不安定要素は特にはみられないため、今後も景気は変わらない。
		住宅販売会社（経営者）	・引き続き金利が上昇傾向にあるため、住宅着工数は伸び悩むことになる。今後、非住宅や公共工事の木造建造物の案件が出てくれば、回復に転じるかもしれないが、今の状況では厳しい。
		住宅販売会社（経営者）	・今のところ、経済指標が大きく動くようなことは考えにくい。分譲マンション市場も大きな変化はないまま推移する。ただし、金利の先高観が強まっているため、固定金利を利用する場合に購入を急ぐ動きが出てくる可能性がある。
		商店街（代表者）	・全般的に物価が上昇しているため、商材の動きが悪くなっている。
		商店街（代表者）	・今後も引き続き値上げが行われる予定であることから、景気はやや悪くなる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・国内客については、小団体やシニア層の旅行が増えていることから順調に推移するとみられる。一方、インバウンドについては、例年9月以降、ウインターシーズンまで入込が大幅に落ち込むこと、就航数の多いLCCで減便の判断がシビアに行われることから、冬までは落ち込んで推移することになる。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
		一般小売店（経営者）	・商談の数が減少していること、メーカーの小売希望価格が上昇していることから、今後の顧客離れが不安視される。
		スーパー（店長）	・物価高の影響で、価格の安い店に客が流れ始めていることから、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（店長）	・10月からの商品の値上げに伴って、客の消費支出が伸び悩むことが懸念される。
		スーパー（企画担当）	・前年ほどではないにせよ、今秋も食品関連の値上げが控えていることから、暖房費や除排雪費のかさむ冬に向けて、客の買い控えが一層進むことが懸念される。
		スーパー（役員）	・食品の値上げとエネルギーコストの上昇が続くため、客の節約志向が更に強まることになる。
		コンビニ（エリア担当）	・北海道はこれから光熱費の負担が大きくなる時期に入る。商品の値上げが収まらない現状では、客の生活防衛意識が高まり、節約志向が強まることになる。
		衣料品専門店（エリア担当）	・物価高、特に食品の値上げが続いていることから、日々の生活のなかで食費を確保するために、食品以外の支出を抑える動きが顕著になる。
		乗用車販売店（経営者）	・配車状況が堅調に推移していることから、収益は比較的安定しているものの、毎月の受注台数が販売台数を下回っており、受注残が減る一方である。また、高額商品を販売する上で、燃料価格の高騰や様々な商品の更なる物価上昇が懸念材料の1つとなっている。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
		住関連専門店（役員）	・猛暑の影響で夏物商材がよく売れ、売上を押し上げたが、その他の商品の販売動向は振るわなかった。日用消耗品などの買い控え傾向が改善されるような環境の変化がみられないことから、今後の景気はやや悪くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・全国旅行支援の再開が発表されたが、その効果よりも、全国旅行支援終了後の割高感による買い控えの影響が大きくなるとみられるため、全体的には景気はやや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・今後については、国などによる需要喚起策も予定されていないことから、物価上昇の影響で、旅行などのレジャーにおける消費マインドが低下することになる。インバウンドも、原子力発電所の処理水放出の影響で中国便の増加が見込めない状況となっている。また、周辺地域のホテルでは、工事関係者の増加に伴って、宿泊料金が上昇傾向にあるなど、先行きへの不安材料も見え始めている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・円安及び燃料価格の高騰が落ち着かないことには、景気の回復は難しい。インバウンドが増加しているなか、貸切バスや宿泊などが手配できないケースも散見されており、その影響は今後も続くことになる。
		旅行代理店（従業員）	・今後も、物価高、円安、燃油サーチャージ高騰が続くと見込まれることから、海外旅行が低迷することになる。インバウンドは増加傾向にあるが、その効果を収益に取り込むような仕組み作りが困難であるため、今後の景気はやや悪くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光の最盛期が終わったため、今後の輸送量は減少することになる。
		住宅販売会社（従業員）	・土地の売買相場は落ち着きを見せているが、資材価格や燃料価格が高騰しているため、建築コストの低下は見込めない。また、住宅ローン金利が上昇基調にあるなか、総体価格の低下も見込めない。既に客が借入できる金額が上限近くに達しているため、住宅購入に向けたマインドを維持するのが難しい状況にある。
	×	衣料品専門店（店長）	・スーツ関連は客に見向きもされず、自力での立ち直りが困難な状況となっている。観光業、漁業などのように、国などの支援策がなければ、これからどんどん弱っていくだけである。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスとインフルエンザの感染拡大に伴って、夜の人出が減少している。少なくとも新型コロナウイルス感染症が収束するまで、売上の回復は見込めない。
	×	美容室（経営者）	・物価高の影響で、今後の景気は悪くなる。更なる物価高対策が望まれる。
企業動向関連 (北海道)			
		農林水産業（経営者）	・年未年始になれば、景気はやや上向くと期待している。ただし、現状、その先については見通しが立たない。
		通信業（営業担当）	・人流とビジネス需要が回復していることから、今後の景況感については、現在の上向き傾向がしばらく続く。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・都市部を中心に、民間建設投資が旺盛な状況はしばらく続くことになる。また、国による景気対策が縮小する懸念はあるものの、イベントの開催やインバウンドの入込が引き続き好調に推移するとみられることはプラスである。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・国内の建設投資について、引き続き堅調に推移することが見込まれる。
		食料品製造業（従業員）	・売上が増える要因がないことに加えて、原材料価格やエネルギーコストが上がり続けていることで利益の出ない状況となっていることから、今後も景気は変わらない。
		食料品製造業（従業員）	・今年3月に価格改定と併せて、商品の内容量を減らしたことで、前年割れが6か月継続しているが、販売量が若干回復していることから、今後も景気は変わらない。
		建設業（役員）	・年度内の工事量がほぼ確定しており、計画を上回る完成工事高を確保できる見通しに変わりはない。一方、燃料や建設資材のコストが高止まりしており、利益確保が厳しくなっている。こうした状況は当面続くことになる。
		輸送業（従業員）	・販売価格が上昇している商材がある一方で、低下している商材もあるため、景気が良くなるという判断はできない。同業他社も同様の状況にあるため、今後も景気は変わらない。
		金融業（従業員）	・中国人以外のインバウンドが増加していること、国内観光客がコロナ禍前の水準に回復していることから、観光関連の業況は改善する見通しにある。一方、物価の上昇が続くなか、原油価格が徐々に上昇し、円安とあいまってエネルギー価格が高止まりしており、これから暖房費の増加する季節を迎えて、個人消費に影響が出てくる懸念される。
		広告代理店（従業員）	・電気、ガス、ガソリン、軽油といった生活に欠かせない物の価格が見通せず、政府による支援策なども明確になっていないことから、今後の消費は横ばい又はやや減少して推移することになる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新しい仕事の話があっても、人材不足で受注できない状況にある。需要が飽和状態にあることから、今後も景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・大型建築案件などの工事の進捗が遅れているなか、設計変更の見直しや規模縮小などの条件変更が出てきており、工事の予定時期が更に遅れ始めている。
		建設業（経営者）	・今後については、全体的に新規の受注が減ることになる。手持ち工事は最盛期を迎えることになるが、積雪寒冷期を迎えて、日照時間が減少するとともに、除排雪作業が生じることから、稼働量は落ち込むことになる。また、人手不足の影響がどの程度になるかも不透明である。
		建設業（従業員）	・半導体工場進出の影響が少しずつ出始めている。施工者不足の影響で、施工者待ちの期間が5年と言われているが、その期間が更に伸びる傾向がみられつつある。
		輸送業（支店長）	・農産物の出来が悪いとの情報があることに加えて、水産物の輸出も落ち込んでいることから、今後、貨物量が落ち込むことが懸念される。
		司法書士	・インバウンドが好調であるが、その恩恵を受けるのは一部だけである。円安などの影響による物価高が続くなか、賃上げの効果も物価高で帳消しとなっている。政府の経済対策にも過剰な期待は持てないことから、今後の景気はやや悪くなる。
		司法書士	・原油価格や物価の高騰は今後も続くと思込まれることから、景気はますます悪くなる。インボイス制度などの影響も懸念される。景気を上向かせるような要因が余りないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)		人材派遣会社（社員）	・冬を迎える前に、売上を確保したいと考える企業が増えている。また、次年度に向けて、売上増加を目指したいと考える企業も多い。これらのことから、優秀な人材を確保して、人員体制を整えようという企業の動きに変わりはなく、今後も景気はやや良い状態で推移する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・物価高が企業の成長を阻んでいる。物価高と人件費負担の兼ね合いが取れないことが、結果的に企業の求人意欲を損ねている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・物価高が収まらないことから、企業の経営姿勢が慎重になっている。こうした状況はしばらく続くとみられるため、今後も景気は変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・今後も景気は変わらない。物価高への効果的な対策や将来に期待を持てるような経済政策、金融政策が打ち出されることを期待している。
		職業安定所（職員）	・様々な商材の値上げが止まらず、賃金の上昇もそれに追い付いていない。実質賃金が目減りしているため、今後の雇用環境も厳しいまま変わらない。
		職業安定所（職員）	・原油価格や原材料価格の高騰など、事業環境の悪化を招く要因が多い上、新規求職者数が2か月ぶりに増加し、有効求職者数も1年1か月ぶりに増加しているものの、業況堅調な事業所からは新規求人が引き続きコンスタントに公開されていることから、今後も景気は変わらない。
		職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は5か月連続で前年を下回っている。産業や業種によってその度合いは異なっているが、新型コロナウイルスの感染状況、経済活動や消費行動の動向によっては先を見通せない状態となることも懸念される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・平均的又は平均を下回る偏差値の大学に子供を通わせている家庭では、授業料の負担が重荷になっており、景気の良さを全く感じていない状況にある。ただし、景気がそこまで悪いとも感じていないため、しばらくは現状の景況感のまま推移する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・中小企業においては、厳しい経営状況が続いており、10月1日から最低賃金が改定されることでマイナスの影響が生じることを懸念している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (東北)		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・催事の人出も好調である。年内はこのまま好調で推移するとみている。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染拡大に収束感がみられる。
		商店街（代表者）	・紅葉シーズンを迎えるため、観光客が増えることが予想される。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・10月の選挙が終われば街も落ち着き、人々が出てくるようになるとみている。また、イベントもいろいろと行われるため、消費活動も活発になるとみている。
		百貨店（売場担当）	・気温が下がり始めており、館内での大型施策が続くことから、秋物が本格的に動くともみている。
		百貨店（催事担当）	・アパレル、化粧品ショップ等のリニューアルオープンを控えており、改装効果による売上向上が期待できる。
		スーパー（店長）	・物価は上がっているが収入が少しずつ増えているため、ようやく消費に回り始めている。
		スーパー（店長）	・賃金が上がり、購買意欲が増しているため、やや良くなるとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に移行後初の年末となるため、購買行動が上向くことが見込まれる。
		衣料品専門店（経営者）	・地域のプレミアム付商品券などの活用が見込めるが、灯油など値上がりしたものの購入に充てられてしまうことが懸念される。
		衣料品専門店（店長）	・大学入試の面接や就職活動などがリモート等ではなく対面になっている。いろいろな行事が再開されれば、スーツ等の外出着を求める人が増えるともみている。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の発表があり先行予約も始まって既に予約が入っている。実車の展示が始まれば更に受注が増え、併せて他の車種も売上につながる見込みである。
		乗用車販売店（店長）	・メーカーの生産体制が比較的安定しているため、新車売上が前年を上回る状況が続くとみている。しかし、中古車は在庫が例年の8割程度と少ない状況が続く。
		高級レストラン（支配人）	・年末商戦での来客数の増加と、年末年始商品の販売での売上増加を見込んでいる。
		一般レストラン（経営者）	・コロナ禍でしばらく休止していた団体のイベント等が復活することが予想され、若干上向きになるとみている。
		一般レストラン（経営者）	・真夏の暑さが終わり客足もそろそろ戻るとみている。年末になれば飲食店は忙しくなる。
		一般レストラン（経営者）	・野外イベントなども少なくなってくるため、これからは少しずつ客が戻るとみている。これ以上悪くなることはないため、良くなることを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・宿泊は夏季商戦終了後も販売が好調に推移している。紅葉期から年末年始までの販売も順調である。インバウンド需要も順調に伸びている。一方、従業員不足の問題は解決が見通せない状況であり、オーバーツーリズム問題も含め対策が急務となっている。
		旅行代理店（従業員）	・秋の行楽シーズンを迎え、団体旅行の動きが活発になっている。
		観光名所（職員）	・インバウンドの復活により予約状況が好調で、10～11月の予約は前年の来客数の実績を超えている。インバウンドの好調が続けば、2～3か月先はやや良くなるとみている。
	美容室（経営者）	・国の景気対策が賃上げを後押ししているため、消費を僅かでも促進することを期待している。	
	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器は、残暑が長引きエアコンの問合せはまだ伸びるとみている。リフォームは、コロナ禍で先伸ばししていた工事の問合せが増えるともみている。	
	商店街（代表者）	・祭りやイベント開催により商店街の来街者数は回復傾向にあるが、消費については、物価高、光熱費の高騰により変わらないともみている。	
	商店街（代表者）	・季節感がなくなっており、年末年始の需要は期待できない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・売上は新型コロナウイルス感染症の関連商品が大きく動いた前年と比べても100%と動きが良い。新型コロナウイルス感染症関連商品は前年比80%だが、一般薬及び化粧品が少しずつ伸びている。この状況は変わらないとみている。
		一般小売店〔寝具〕 (経営者)	・寝具業界においては、この低迷期はまだ続くことが予想される。
		一般小売店〔雑貨〕 (経営者)	・衣料品の価格は前年よりも大きく値上がりしているが、客はそれを納得して購入している。景気は変わらないとみている。
		百貨店(企画担当)	・9月に入り、来客数が少なく売上も厳しい状況が続いている。物価上昇の影響もあり、買い控えが懸念される。
		スーパー(店長)	・特に景気が良くなる要因も見当たらず、消費動向は現状と変わらないとみている。
		スーパー(総務担当)	・田舎では物価上昇の反面、給与が上がっていない。平日の客単価は余り変わらないが、販売点数が減っている。特売日や均一祭に集中した買物がみられる。この状況は変わらないとみている。
		スーパー(企画担当)	・気温の高い日が続き、夏物商材の動きはかなり好調である。生鮮食品は振るわなかったが、総菜の売上が著しく上がっており、全体的には前年を上回っている。しかし、今後も値上げは続くので、客が買い控えをする不安がある。
		スーパー(営業担当)	・ここ数か月、来客数に変化がなく、今後も大きく変わることはないとみている。
		コンビニ(経営者)	・来客数と売上は伸長している。しかし、客単価と買上点数が横ばいになったため、伸びにブレーキが掛かるとみている。
		コンビニ(経営者)	・来客数の減少が続いており、増加に転じる要素は見当たらない。
		コンビニ(経営者)	・県外ナンバーの自家用車が増えており、人の動きは良くなっているが、来客数が増えない状況は続くともみている。
		コンビニ(エリア担当)	・エネルギー全般の経費負担増に加え、10月からは最低賃金の引上げもあり、人件費の負担が増加し、利益はコロナ禍の前年と変わらなくなる。中小企業にとっては苦しい状況が続くとみている。
		コンビニ(店長)	・単価低下の流れは変わらない。来客数については、外国人がどのくらい増えるかは未知数だが、それほど悪くはならないとみている。
		衣料品専門店(経営者)	・大雨や台風へ備え、災害対策用品を取りそろえることも重要と考えている。
		衣料品専門店(経営者)	・暖冬の予報も出ており、防寒商品に影響が出るとみている。
		衣料品専門店(店長)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、需要が高まっている商品はあるものの、物価上昇に伴い、必要なものしか購入しない傾向が強くなっている。また、ふだん着需要で高単価商品の動きが鈍くなっている。
		衣料品専門店(総務担当)	・季節の変わり目でありながら、客は必要最低限の購入しかしていない。賃金の引上げ等があったという話もないため、厳しい状況が続くとみている。
		家電量販店(従業員)	・ガソリン価格の高騰等、良くない要素があるものの、観光需要は景気回復の期待が持てる。しかし、家電製品の動きに大きな変動はないとみている。
		家電量販店(従業員)	・売場展示商品は新製品と入れ替わり商品価格が上がる。購入単価は上がるが購入台数が減るため、大きな変化はないとみている。
		乗用車販売店(従業員)	・配車量が大きく変わることはないため、年内は変わらないとみている。
		住関連専門店(経営者)	・現在、受注がなかなか厳しい状況である。受注生産のため、受注が決まらなければ生産もできない。
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・製造業など上向いている業種はあるようだが、飲食店や小売店は次の値上げも控えており、不透明な状況が続く。楽観視はできない。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕 (経営者)	・暖冬の予報が出ており、防寒ジャンパーなど冬物全般の動きが悪くなることを懸念している。飲食店や観光業は客が戻ってきて活気があるが、人手不足があり、制服の需要がどれだけあるかは未知数である。閉店する飲食店も結構あり、その影響も出てくるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・残暑が続き配達灯油が落ち込んでいる。気温にもよるが回復は難しいとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・物価高の影響が未知数である。
		観光型ホテル（スタッフ）	・会議等の団体客は少しずつ戻っているが、忘年会の予約は余りない。
		観光型旅館（経営者）	・物価上昇がまだ落ち着いていないこともあり、大きな変化はないとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・10月の予約数が、現時点で2019年同月に遠く及ばない状況である。年内はこの状況が続くとみている。
		旅行代理店（従業員）	・年末年始時期の個人旅行は増加傾向にあるが、団体旅行はオフシーズンとなることから、平均すれば今月とほぼ変わらない。
		タクシー運転手	・コンサートやイベントが予定されているため、多少活気付くとみている。
		通信会社（経営者）	・放送サービスの一部メニューを10月より値上げする告知をしたところ、若干ではあるが解約の問合せがある。物価上昇のなか多少の解約者は見込まれるものの、現状維持できればよい。年末にかけて、放送サービスのコンテンツにビッグなものが並ぶため、多少の契約増加が見込まれる。
		通信会社（営業担当）	・大きく好転するような材料に乏しいため変わらない。
		通信会社（営業担当）	・景気回復が見込める業種は限定的であり、裾野が広がる傾向はみられない。
		遊園地（経営者）	・エネルギー価格や物価の上昇の懸念がある。また、コロナ禍において上積みされた貯蓄が底を突いたという調査もあり、回復は鈍いとみている。
		競艇場（職員）	・来場促進イベントを開催して客が増えてもその日のみでリピーターにならない。常連客は毎日来場するが金が続かず居座るだけで、売上につながることは少ない。最近の物価高が影響しているとみている。
		美容室（経営者）	・客の来店頻度は決まっているため、変わらない。
		設計事務所（経営者）	・資材価格の高騰、納期遅延など、改善が見込めない。
		住宅販売会社（経営者）	・受注量については構造物の一般建築が好調だが、戸建て住宅に関しては、引き続き客単価と受注額が低い。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	・来場組数は時期や季節、イベントなどで変化するが、2～3か月先は増加が見込める要素がないため、変わらないとみている。
		商店街（代表者）	・いまだに新型コロナウイルス感染症の影響が尾を引いている感じがある。消費は低迷した状態が続いており、客の様子をみても景気が上向き雰囲気はない。この状況は来春まで続くともみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・酒税法改正により来月から一部商品で価格改定がある。また、猛暑と雨不足で野菜価格が高騰しており家計を直撃している。野菜価格の高騰は消費者マインドに大きく影響するとみている。
		百貨店（経営者）	・落ち着いてきているとはいえ、まだ物価上昇は続いており、消費行動にも影響している。購入の優先順位が明確で、複数アイテムの買上は控えられ、客単価が低下するとみている。
		スーパー（経営者）	・10月は一段と円安が進み、輸入品の原価が上がる。また、エネルギーコストの高騰が続いているところに物流費、人件費が上昇する。経費の増加が経営を圧迫するため、売価転嫁を更に進めなければならない状況である。消費行動に悪い影響が出ないことを願っている。
		スーパー（店長）	・青果物の生育が良くないことから、生産者の減収により地域経済に影響が出るのが懸念される。
		スーパー（商品担当）	・生活費の節約志向が高まることで、来店頻度の減少や買上点数の減少が出てくるとみている。
		コンビニ（経営者）	・田舎では賃金が上がらないため、客の財布のひもが固くなり、売上に影響するとみている。
		コンビニ（経営者）	・行事などが完全に復活し来客数が増えたが、それもほとんど終わってしまったので、これからは厳しくなるとみている。
		コンビニ（経営者）	・最低賃金の引上げにより、経営はますます厳しくなる。
		コンビニ（店長）	・良くなる要素が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（店長）	・暑さが続き秋物商材の動きが鈍い。秋物の期間も短くなるため苦戦すると予想している。
		乗用車販売店（従業員）	・今月は大雨による水没車の代替特需があったため、2～3か月後はやや悪くなるとみている。
		住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・物価が上がっており、建設資材や家具なども値上がりしている。買い控えが続くとみている。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・物価や光熱費の上昇があり、景気回復には時間が掛かるとみている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・物価上昇が続くため自動車用燃料は節約の対象となり、販売量は減少するとみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・物価の上昇に歯止めが掛からないなか、実質賃金は低下し家計負担は増加していることで、将来への不安が増している。その影響が、食やファッションなど様々な分野のショップにおいて、必要なものを絞り込んで単品購入するなどの客の動向に表れている。12月のクリスマスや年末商戦における大きな不安材料となっている。
		観光型旅館（スタッフ）	・物価高の影響が大きい。特に光熱費は細かい分析を行っているが、料金に反映させなければならない状況になる可能性がある。新型コロナウイルス感染症の影響はもうない。
		通信会社（営業担当）	・来月からインボイス制度が始まり、一時的に消費者マインドが悪くなるとみている。また、企業の9月末の決算結果次第では、下期は経費削減が強化され景気はやや悪くなるとみている。
		通信会社（営業担当）	・原油価格の高騰、食品の更なる値上げに加え、猛暑による不作で野菜も大幅な値上がりが見込まれる。家計が圧迫され、景気は徐々に悪化するとみている。
		通信会社（営業担当）	・物価が上昇するなか、冬はガソリンや灯油が必要になるため、やや悪くなるとみている。
		通信会社（社会貢献担当）	・新機種の販売が落ち着く時期になる。
		テーマパーク（職員）	・自然災害の影響もあり、平日と休校日で売上に大きな差が出ている。また、物価上昇の影響で、自家用車での来館は減少し、売店での購入率も低下しているため、やや悪くなるとみている。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・中国の景気悪化により、我が国の輸出産業にも悪影響が出るおそれがある。生活必需品の値上げも続いており、年金生活者も生活防衛意識が強くなっている。良くなる要因は見当たらない。
	×	スーパー（経営者）	・インフレの主因である円安が是正されない限り物価高は続き、消費者の節約、倹約も続くともみている。
	×	コンビニ（経営者）	・光熱費が上がり、最低賃金が上がり、除雪代が掛かり、来客数は減り売上也下がっていく。良くなる要素が皆無である。さすがに今年は冬を越せるのか不安しかない。辞めていくオーナーも増え続けることが予想される。
	×	一般レストラン（経営者）	・更なる物価上昇に家計が追い付いていないことを考えれば、消費活動は消極的になる一方ともみている。
企業 動向 関連  (東北)		建設業（従業員）	・年末をめどに交渉中の案件が複数あり期待できる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・半導体の在庫調整にめどが付きつつある。また、2024年度の半導体需要増加に備え、見込み情報が増えている。
		建設業（従業員）	・取引先からの増築・改築計画の相談件数が増えている。
		金融業（広報担当）	・主力一次商品の流通が始まり、地元経済としては活気を帯びる時期である。異常気象による作柄不良や、中国の輸入禁止による水産業への影響など懸念材料はあるものの、地元経済は新型コロナウイルス感染症発生前と同程度に活性化するとみている。
		公認会計士	・小売、サービス、飲食は新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、現在よりも業績が回復するとみている。建設関係は現在の景気を維持し、製造業は部品不足等が解消して売上が計上できるようになれば、全体としての景気はやや良くなるとみている。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・外食、人の移動による消費が回復するとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（経営者）	・売上はイベントの有無にも左右されるが、全体的に人の動きが良いため心配していない。しかし、物流費等経費の増加や人手不足が懸念される。
		食料品製造業（製造担当）	・前年は全国旅行支援やクーポンの利用等もあり、人流や商品の荷動きが非常に良かった。今年は販売促進の施策を打つことで前年実績並みを見込んでいる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・物価高騰による消費低迷が及ぼす影響を懸念している。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・地方経済においては現状維持が精一杯である。働き手である若者の県外流失や高齢化のスピードアップ、格差拡大により、現状より良くなる要素が見当たらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・先行きの見えない状況が続くとみている。当社に声が掛かった案件に対しては受注につなげられるよう地道に努力していくしかない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・半導体関連の顧客の開発スケジュールは全体的に後ろ倒し傾向にあるため、3か月先も変化はないとみている。また、中国市場に関しても規制が更に厳しくなる方向で、市場としての回復が見通せない状況である。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・一部の客先からは発注が横ばいとの情報が入ってはいるものの、良い情報が少なく動きが見えない。
		建設業（従業員）	・受注は引き続き堅調に推移していく見込みである。
		通信業（営業担当）	・顧客と良好な関係を築く努力をし、顧客の反応が上向くのを待つしかない。
		広告業協会（役員）	・円安やエネルギー価格の高騰など不安定要素が多すぎて、新たな施策に取り組めないのが現状である。広告業界は低空飛行がしばらく続く見込みである。
		経営コンサルタント	・人手不足により事業を縮小する店舗が出ている。人手不足が解消されなければ、閉店となる事態も懸念される。
		司法書士	・景気の良しあしを予測できるほどの動きが見られない。
		コピーサービス業（従業員）	・特段の需給変化がない。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経理担当）	・値上げが続いているため、景気は変わらないとみている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・物価上昇が続く、生活に必要な最低限の消費行動になるとみている。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・業績が上向き好材料が見つからない。全体的には特段の変化はないとみている。
		農林水産業（従業者）	・燃料価格や農業資材価格の高騰が続いている。
		食料品製造業（営業担当）	・10月に100近い商品の値上げを控えており、販売量が減少するとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・当社の受注予測は悪くないが、周辺の製造業はどこも仕事量が減っており、当社にもその波が来る可能性がある。
		輸送業（経営者）	・中国を始めとした海外経済の減速の影響を受けて、主要製造業取引先は円安であっても輸出が低迷している。エネルギー価格や物価の上昇などコストの増加により、当社は前年比減益で推移している。加えて、2024年問題や人手不足など業界として抱える喫緊の課題もあり、不透明な状況は当面続くと予想している。
		通信業（営業担当）	・値上げが続く、少しでも生活費の出費を抑える傾向がみられ、携帯電話の安いプランへの変更や格安スマートフォンへの乗換えを検討しているという声を多く聞く。
		広告代理店（経営者）	・ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に加え、物価高や円安による原料費高騰が続くため、やや悪くなるとみている。
	x	農林水産業（従業者）	・これから先はりんごが主力になる。今年は小玉傾向であることや、天候が良すぎて日焼け果が多いことなど、商品にならない品が増えることを懸念している。
	x	窯業・土石製品製造業（職員）	・官需、民需共に受注が減少しており、厳しい状況が続くとみている。
雇用関連 (東北)		人材派遣会社（経営者）	・企業から業種、業態にかかわらず中途採用、新卒採用の相談を受けているが、採用数を減らすという情報は少ない。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、景気は上向きの状態がしばらく続くともみている。
		人材派遣会社（社員）	・上期同等の採用計画で動く会社が多く、下期も好調とみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (経営者)	・売上等は総じて新型コロナウイルス感染症発生前に戻りつつあるが、先行きは不透明である。
		職業安定所(職員)	・年末にかけて賃上げによる所得環境の改善が進み、政府による経済対策が策定されれば、個人消費は持続し景気は良くなるとみている。
		民間職業紹介機関(職員)	・取引先企業から人手不足等の相談が続いている状況のため、生産動向は上向くとみている。
		人材派遣会社(社員)	・求人数は減少傾向になるとみている。中国の景気が悪化していることや、半導体関連製造業に後退の動きがあり、コロナ禍明けの宿泊・飲食業などの回復を相殺している。
		人材派遣会社(社員)	・現状が好転する材料や動向が見受けられないため、悪化若しくは横ばいが続くともみている。
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・明るい材料が少なく、売上の回復は期待できない。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなったため、ほとんどの業種で採用意欲が高くなっている。また、人員が充足できないことから、従業員の離職を避けるための処遇改善の動きもある。この状況はしばらく継続するとみている。
		職業安定所(職員)	・企業の人手不足感は根強く、求人倍率が急激に低下することはないとみている。
		アウトソーシング企業 (経営者)	・これまで当社が請け負ってきた仕事自体が減っているのではないかとみている。
		新聞社〔求人広告〕 (経営者)	・景気浮揚策として賃上げとインバウンド拡大が期待されているが、多くの中小企業は大きな賃上げをできる状況ではない。インバウンドのプラス影響については、業種やエリアによる差が大きく、東北地方では大きな期待はできない。加えて、この夏の異常な高温が農作物に悪影響を及ぼし経済にマイナスになることを懸念している。
		職業安定所(職員)	・求人数は現在のところ求職者数を上回る状態が続いている。しかし、全業種において電気料金の高騰が収益を圧迫していること、及び物価上昇の継続が、個人消費に影響を与えており、先行きが懸念される。
		職業安定所(職員)	・物価高騰に対する対策等、大きく期待できるようなプラス要因が見当たらない。
		学校〔専門学校〕	・政府の経済政策が発表されたが、経済活動にすぐに効果が出ないのではないかと懸念している。
	x	*	*

### 3. 北関東(地域別調査機関:株式会社日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、\* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北関東)		百貨店(店長)	・乗客数の増加傾向が続いていることや、百貨店における主要カテゴリーであるファッション関連の売上回復が継続している。
		旅行代理店(経営者)	・10~11月は年間でも最繁忙期になる。ただし、運転手不足のため、バス事業の仕事がこなせるか心配である。
		旅行代理店(従業員)	・インバウンドも増えており、対応できないために断る案件も出てきている。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・観光地を訪れる多くの人から、旅行を満喫している様子が伝わってくる。外国人旅行者も相変わらず多く、2~3か月後の紅葉シーズンも、旅行マインドは強く維持されるとみている。今後は、受入れ側の態勢作りが急務である。
		一般小売店〔青果〕 (店長)	・10月中旬になり、農作物の中心が東北産から関東産に変わってくれば、野菜価格も下がり、需要も増えてくるのではないかとみている。
		スーパー(総務担当)	・夏の暑さも終わり、電気使用量も抑えられ、ガソリン代も落ち着いてきている頃なので、少し回復するのではないかとみている。
		衣料品専門店(統括)	・祭り等はこれからも実施されていき、それに伴って販売も上向き、客も増える。引き続き、少し良くなっていくのではないかとみている。
		乗用車販売店(経営者)	・当地域の自動車メーカーは、輸出に力を入れているため、現在の円安傾向が追い風になり、電気自動車関連等の巨額な設備投資を進めている。これらが稼働するのはもう少し先になるが、地域では明るい材料だと捉えられている。
		その他専門店(総務担当)	・時期的に良くなる予想である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・催事の開催や週末の問合せ等は増えてきているため、皆、前向きのように感じている。
		一般レストラン（経営者）	・秋に入り暑さも落ち着いて動きやすくなり、宴会も期待できそうである。景気は緩やかに良くなっていく。
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大による外食産業の自粛が取り払われた感があり、日々売上が増加している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・秋の行楽、イベントシーズンを迎え、近隣のコンベンション施設や体育館が稼働率を上げている状況もあり、宴会、宿泊需要共に堅調に推移している。料飲部門では宴会需要が伸びている分をカバーできる調理スタッフがいないため、料飲のスタッフを宴会に投入する必要があり、10月以降、期限を決めずにディナーをクローズすることになった。ランチ営業は堅調に伸びているため、早期の調理スタッフ確保が急務である。
		タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くなってきたので、この先も良くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・猛暑が収まり、ゴルフのベストシーズンであるため、やや良くなる。
		商店街（代表者）	・電気料金やガソリン、食料品の値上がりが続く、景気が良くなる要素は見当たらない、生活必需品以外は絶対と云ってよいほど、買物をしない様子がみられる。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・年末に向かっていくが、物価が安定してくれば人の動きも出てくると思うが、高値安定ではなかなか良い方向には向かわない。新型コロナウイルスの感染状況の影響もあるとみている。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・いろいろなものの価格上昇などで、客の動向が多少鈍っている。
		百貨店（営業担当）	・来客数を始めとして、緩やかにではあるが回復基調にある。ただし、エネルギー価格の高値維持等、物価高は継続するため、慎重な購買動向も変わらない。
		百貨店（営業担当）	・今後2～3か月の見通しも、現在の悪い状況が改善されるとは考えにくい。また、先の見えにくい足元の新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行等、取り巻く商環境は、厳しいまま平行線をたどると考えられる。
		コンビニ（経営者）	・来客数は前年並みで下げ止まりの感じがある。客単価は値上げにより伸びたが、買上点数は減少している。レジ回りの商材のついで買いや衝動買いが減ったようで、財布のひもが固くなった感じである。
		家電量販店（店長）	・3か月後に向けて需要が改善する要素は見当たらない。現状、補助金等がないと前年の売上を超える要素はない。
		乗用車販売店（販売担当）	・観光バスや観光目的の乗用車の交通量が多くなっていると実感している。ただし、受入れ側が人手不足で大変だという話は、来店客からも聞いている。どこも人手不足で、このまま2～3か月先も、客は来るものの人手不足により対応が不十分になってしまうのではないかと心配な状況である。景気は良いままで変わらない。
		住関連専門店（店長）	・物価上昇と値上げは当たり前の状況だが、打開策がないため、変わらない。
		住関連専門店（仕入担当）	・円安による値上げが、更に追加される状況で、プラスになる要因はほとんどない。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	・今の傾向がこのまま続きそうである。メーカー側は円安で単価が上がってきている。低価格商材も値上がりしており、まとめて発注しないと、仕入れできないようになっている。輸入価格プラス送料のアップで、ダブルパンチである。小売側は価格転嫁が難しい状況になっている。
		一般レストラン（経営者）	・報道で様々な感染症が流行しているとあおっているような気がする。外出を自粛する動きにならないか心配である。
		都市型ホテル（総支配人）	・処理水の問題で、インバウンドが今後どのように推移するのか注視していきたい。現状は若干影響が出ているようにも感じられる。
		旅行代理店（営業担当）	・秋の旅行シーズンを迎えるが、夏シーズンはボーナスの影響を受けて良かったが、冬のボーナスまでは下向き傾向になる。
		タクシー運転手	・地方の景気は、良くなるのはまだ先のような気がする。変わらないというのはいい方である。
		通信会社（社員）	・現時点では変わらない。
		通信会社（営業担当）	・現状の物価が続く、実質賃金の減少が続く限りは変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（総務担当）	・人気の新モデルの入荷が安定し、予約販売からフリー販売に移行すると、それなりに販売増加につながる。
		テーマパーク（職員）	・全国旅行支援も終了し、近場の旅行から行動制限のない旅行に戻った反動で、来園者数が大幅に伸びると思えない。
		競輪場（職員）	・社会情勢に良くなる要因が見当たらない。
		美容室（経営者）	・インボイス制度が始まることで、消費税納税を免除されていた店からは不満は出るだろうが、税負担の平等化という観点からは、至極当たり前である。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・広範囲にみて、周辺状況は総じて良くない。緩やかに悪化し、景気回復の兆しがみえない。
		設計事務所（所長）	・少し上向きになった景気ではあるが、諸物価の上昇等の影響で、しばらくは横ばいになるのではないかと。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・例年、年末に向けた動きが出てくる時期で、特別な外的要因がなければ、例年と変わらないとみている。
		スーパー（商品部担当）	・来客数が減少し、1品単価は上昇しているものの、買上点数の減少が続いている状態に変化がないので、現状より良くなることはない。
		コンビニ（店長）	・高温の日が長期間にわたり、客足が増加していた反動が出てくる。
		衣料品専門店（販売担当）	・婦人洋装を扱っており、季節商材が中心なので、季節の変わり目がはっきりしていかないと、なかなか客の購買意欲も湧いてこない。今年は、それこそ新型コロナウイルス感染症発生から続いた自宅待機や行動自粛等を引きずっていたところに、この猛暑で、どうしても人の気持ちの前向きに外しようとするところまでいかない。今後ずっと悪いのではないかと予想している。
		家電量販店（営業担当）	・今年は暖冬が予測されているため、冬物商材の準備、エアコン対策を強化予定である。また、電気料金の高騰もあるため、省エネ家電の提案をしていく。
		乗用車販売店（従業員）	・受注残が減少している。
		自動車備品販売店（経営者）	・身の回りに活気がないと感じている。報道や政治的な話からは、なかなか将来的に良くなるとか、安心してお金が使えるようなムードではない気がする。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・人手不足のところに最低賃金上昇が加わるため、求人面が一段と厳しくなる。賃金水準のクリアだけでは採用確保にはつながらない。企業の魅力度や採用方法の多様化などに、もう一歩踏み込んでいく必要がある。
		旅行代理店（所長）	・冬季はどうしてもオフシーズンになるため、来客数も減少する。宿泊や忘年会の需要も、時代的に厳しくなっていることに加えて、コロナ禍により団体宴会の受入れ可能施設が減少しており、なかなか難しい状況である。
		通信会社（局長）	・今のところ、何か大きなことで変わる見込みがないため、現状のままかやや悪くなる。
		ゴルフ練習場（経営者）	・物価が上がっているものの、まだ企業の給料が追い付いていない。
		住宅販売会社（経営者）	・中国の不動産業界が悪い方向に向かっているため、影響が出てくるのが予想される。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・思った以上に円安、物価高、光熱費高騰が、庶民の重荷になっている。本当に必要な物以外は買わないという傾向が強くなってきている。
	×	家電量販店（店員）	・国内の家電需要には明るい材料が乏しい。
	×	乗用車販売店（経営者）	・いまだに新車の納期は遅延傾向である。
	×	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症対策のゼロゼロ融資の返済がスタートして、中小企業はますます厳しくなっている。食材の高騰や最低賃金の引上げ、円安、インボイス制度導入による相手先の変更等の判断材料からしても、良い要素は見当たらず、景気は悪くなる。
	×	通信会社（経営者）	・電気やガソリンに補助金を出して価格を下げるのではなく、為替介入なり、イールドカーブコントロール撤廃とはいかなくても調整するなりして、少しでも円高に持っていかないと、原料を輸入に頼る企業はますます疲弊していく。物価が上昇しても仕入れや販売経費も上がっているため、そう簡単に人件費に回せないのが現状である。
企業		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連  (北関東)		一般機械器具製造業 (経営者)	・現状が悪いだけに希望も込めて景気が回復してほしい。
		輸送用機械器具製造業 (総務担当)	・今後の受注は増えていく傾向にはあるが、いまだ材料調達面と人材不足に不安がある。また、新たに製品の輸出に関する不安材料が出てきており、減産や生産をストップすることにもなりかねない。当月になってみないと分からない先の見えない状況が続いている。
		広告代理店(営業担当)	・年末に向けて、旅行や会食、イベント等についての話題をよく聞くようになっており、活気はあるように感じている。
		経営コンサルタント	・中小企業の受注と販売の状況は、上流から下流まで、広い業種にわたって上向いている。地域経済全体は、なだらかに回復するとみている。
		司法書士	・法律改正の効果はしばらく続く。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	・出荷等の状況はずっと変わらないが、良くも悪くもないことが、良いことだと思っている。
		窯業・土石製品製造業 (総務担当)	・特段の変化もなく、営業している。
		金属製品製造業(経営者)	・先の様子は分からない。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・内示情報に対する大幅な減産は、主に中国市場の変化を起因としており、短期での回復は見込めないと予想している。
		輸送用機械器具製造業 (経営者)	・取引先の様子、受注量等は余り変わらない。
		その他製造業[消防用品] (営業担当)	・物価高の状況がいまだに続いている。
		輸送業(営業担当)	・秋冬物の衣料品やレジャー、バーベキュー用品、テント、コンロ等や、暖房器具、こたつ、ヒーター等の物量は前年並みを確保予定である。ただし、燃料価格の高騰、ドライバー不足は深刻で、特に関東外への輸送車両確保は厳しい予想で、利益も薄くなりそうである。
		社会保険労務士	・年末消費は、新型コロナウイルス感染症の5類移行後初めての年末なので、ばっとお金を使う人と物価高により消費を控える人に分かれそうである。
		食料品製造業(経営者)	・あらゆる物が値上がりし、増税もあるなか、中小企業は簡単には賃上げができない。そのうち景気が悪くなるのではないか。
		金属製品製造業(経営者)	・例年、秋の今頃が1番忙しいため、2～3か月先はやや悪くなる。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・先行きは少し不透明で分からないものの、何となくこれからはやや悪くなっていくような気がする。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・生産計画によれば、多少落ち込む部署があるため、やや悪くなる。
		建設業(総務担当)	・工事が足りていない上に、この先増えそうな感じもないので不安である。
		その他サービス業[情報サービス] (経営者)	・人件費や物価高によるコスト増から経費が増加し、情報化投資を抑える企業が増えるともみている。
		x	建設業(開発担当)
	x	不動産業(管理担当)	・資機材の値上がりが続いており、空室テナントについても、内見はあるものの契約に至らず、賃料収入の見通しは暗い。
雇用 関連  (北関東)		-	-
		*	*
		人材派遣会社(経営者)	・観光地における旅館等の収容人数が限られている。従業員不足で、アルバイト、パートもなかなか見つからない状況がある。農作業、水産関係は、どうしても外国人の雇用に頼る動きがある。全体的には賃金の格差が非常に大きいので、材料費等の高騰、飲食、食材関係では仕入価格の安いところを探す動きがあるが、いずれも厳しい。人件費はなかなか上げられない状況にある。
		人材派遣会社(社員)	・今のところ当地区の入込客等をみると、稼働率は高く、順調に推移していると思う。ただし、物価高やインボイス制度のスタートもあって、どのような動きになるのか、やや不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（管理担当）	・年末に向けても増産等の話は少ないものの、減産等の話もない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月比で、医療、福祉分野では増加傾向で推移している。一方、建設業や製造業は増加と減少を繰り返している。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・10月から最低賃金の改定があり、また、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の流行の兆しもあるため、景気の回復傾向はやや下がるとみている。
		人材派遣会社（社員）	・物価高騰により、残業規制等の人件費抑制で悪循環となっている。
	x	*	*

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (南関東)		商店街（代表者）	・暑さで落ちた分の反動は必ず来るとみている。イベントのレスポンスはすこぶる良い。9月後半になって昼間帯もかなり活発になっている。気温の低下が人出、マインド、状況を一変させている。いつもの秋シーズンより明らかに反応が良い（東京都）。
		家電量販店（店長）	・処理水の海洋放出以降も訪日客数に影響がないように思えるため、今後もインバウンドに期待している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・ケータリングが徐々に増えてきていること、12月にはクリスマスが控えており、かなり忙しくなるため、2～3か月先は今よりは少し景気が良くなる。1月になると、ぱったり人が動かなくなるため、12月が1番の勝負時である。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・ヨーロッパなどのインバウンドが増え、観光は良くなっている。国内客もマスクをはずし、新型コロナウイルス感染症発生前の日常に戻ってきている感じがする。イベントの誘いがとても多く、元気が戻ってきていることを実感している。飲食はもう少し時間が掛かりそうだが、良い兆しはある（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・前年比で今月は167%で推移しているため、良くなる（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・例年、年末や年度末に向かって動きが出てくるが、新商品の発表も控えており、広告を大々的に行う予定もあるので、集客数、商談数、販売量の増大を見込んでいる。また、建売分譲の販売も進むと考えており、景気は良くなる。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・客は必要な物は必ず買換える。今年もエアコンは安価な物より高単価の省エネタイプが売れていた。これからは物価上昇により高付加価値の商材が売れていく。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・同業他社が今月一杯で閉店するため、その流れで当店で多少仕事が回ってくるのではないかと希望的観測を持っている。悲しいことだが、同業他社が少しずつ閉店している。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・コロナ禍に比べると需要が多くなり、業績もやや上がりそうである。ただし、各種の値上がりが若干響いている。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・文具メーカーでは新商品の発売が多くなっている。その結果、これらの商材により来店客を惹きつけることができ、年末の繁忙期に向けて良い動きとなっている。これから先は中国からのインバウンドも増加すると考えられるため、景気が上向くことを期待できる（東京都）。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・これから過ごしやすい気候になるので、来店への期待が持てる。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・秋雨の時期で降雨日が多くなると思うので、外出せず当店のあるショッピングセンターに来店する客に期待したい。
	一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・この先、特に10月は大口案件が集中しているため、そういった意味では上向いている。また、店頭部でもカレンダーや手帳などの季節商材が順調に売れつつある。周りに競合店が余りないこともあり、これから良くなるのではないかと。	
	百貨店（営業担当）	・ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響による買い控え、酷暑の影響などがあったが、今年は秋物ファッションを始め、秋冬物の買換え、買い足し需要が伸びると予測している（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が再度増加傾向にあるが、消費活動への影響は少ない。2～3か月後は冬物商戦が本格化する。コロナ禍で3年間需要減退が続いていた冬物衣料の買換えに期待が持てる（東京都）。
		百貨店（財務担当）	・インバウンド売上が今後も伸長する（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車の発表があるため、新車販売が増えるかとみている。
		乗用車販売店（店長代行）	・新型車が発売されるが、発表前から受注が好調なので、売行きが上向くのではないかと（東京都）。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・商材の品薄状態は続いているが、年末年始の需要に期待したい（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・コロナ禍の反動がある。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザがかなり流行しているが、経済の停滞を引き起こすまでではない。
		高級レストラン（営業担当）	・法人、団体関連の宴会は、軒並み新型コロナウイルス感染症発生前に近い形式での利用の問合せが増えてきている。全体的には規模の縮小傾向がある（東京都）。
		高級レストラン（役員）	・これからイベントが増え、気候の良い本格的な秋に向かうので、より期待できる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・猛暑の夏が終わり、大分涼しくなってきた。秋は地域の催事や祭りなどもあり、客の動きが夏よりは大部分多くなるため、今月よりも来客数がもっと増えるのではないかと（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・円安による大企業の増収の影響により、消費が増える。
		一般レストラン（経営者）	・景気は上向きになると思うが、価格上昇も同時に起こり、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できるところとできないところとの2極化が進む。一見上向きに見えるが、かたや不景気な面も出てくる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・希望的観測として、12月に向かって、徐々に上向きになる（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・収益改善の基調は今後も続くかとみているが、冬枯れの季節に入っていくので、若干伸びが抑えられるのではないかと（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・近隣の大型コンベンション施設でのイベントが更に増え、また、年末に向けて忘年会等の宴会が増えていけば、良くなると期待している。ただし、1点気になるのは、水道光熱費と原材料費の上昇である。これらについてはなかなか歯止めが掛からないので、政府にはより一層の対応をお願いしたい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・普通にいけば良くなると思うが、原材料費や人件費の上昇、それからいまだに新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることに反応する客もいるため、その辺りがどう影響するのか読めないが、徐々に良くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・秋のトップシーズンを迎え、宿泊を中心に予約が順調に入っており、イベント関連の復活に伴い、先々まで埋まり始めている。また、忘年会の動きも例年どおりで、新型コロナウイルス感染症発生前の水準まで戻りつつある。感染再拡大による自粛の動きが出なければ、景気は良い方向に向かう。
		都市型ホテル（スタッフ）	・団体予約が多く入っていることから、少しは上がってくる。
		タクシー運転手	・中国から日本への団体旅行が解禁され、訪日客が増えている。新型コロナウイルス感染症の問題も慢性化しているため、先行きはやや良くなる（東京都）。
		タクシー運転手	・インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症を予防しながら、隣に乗る客がマスクをしないのを気にしながらの仕事で大変である。利用は平均しており、全体的に増えている。朝から夜は忙しいが、終電後の利用については以前と同様に良いのは週末のみである。
		通信会社（経営企画担当）	・案件数の増加により受注率が伸びると見込んでいる（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・法人関係の電子化の動きが堅調なため、個人向けの減退が10月以降の物価上昇の影響により予想されるものの、緩やかに良くなる（東京都）。
		観光名所（職員）	・これから繁忙期となるため期待してはいるが、回復傾向にはない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [ボウリング場] (支配人)	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行して初めての年末であり、忘年会などが通常に戻ると予測している(東京都)。
		その他レジャー施設 [複合文化施設] (財務担当)	・値上がりが一巡する(東京都)。
		設計事務所(経営者)	・物価、ガソリン、人件費など、個々の生活におけるいろいろな物の単価が上がっており、非常に先が見えない状況ではある。しかし、当事務所としては、チームを作りながら、各方面に大きな営業を掛けている。そういう意味ではプラス思考になっていくのではないかと。
		設計事務所(経営者)	・新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いてきたのか、以前とは比べようもないが、会食の機会が増えてきている。出席者の顔を見ても表情に明るさがある。何かしら明るい見通しになっているのではないかと。
		住宅販売会社(経営者)	・新型コロナウイルス感染症も大分落ち着いてきて、大企業は既に景気が回復しているようだが、我々中小企業はまだ不況のなかにおり、物価が上がっているにもかかわらず、賃金を上げることができない。中小企業に対する景気対策をお願いしたい。
		一般小売店[家具] (経営者)	・内装工事の話も幾らか入ってきているので、少し良くなっていく気もするが、変わらないのではないかと(東京都)。
		一般小売店[傘](店長)	・良くなる材料が見当たらない。
		一般小売店[茶](営業担当)	・マスクを着用する人がまた増えてきているようでは、売上も期待できないのではないかと、年末に向けて会社も心配している。定期的な納品先への数量もさほど増えそうになく、期待できない(東京都)。
		一般小売店[書店] (営業担当)	・円安が引き続き影響し、輸入品の販売量が抑えられると予想している(東京都)。
		百貨店(売場主任)	・行楽シーズンが到来し、人流も盛んになる。また、年末年始に向けて人が集まるイベント等が多くなるため、このまま好調に推移する(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・外国人観光客をターゲットにした売上増加については当面続く。また、食料品の伸び率は落ち着いてきている。今年の1月は新型コロナウイルス感染症も徐々に落ち着き始めていた時期になるため、一巡した来年以降は前年比での伸び率は期待できない。物価上昇もしばらくは続くと考えるが、前年比では微増と予想している(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・消費に対する慎重な姿勢が続くことが予想される。
		百貨店(総務担当)	・コロナ禍後のプラス傾向が一巡するまでは、緩やかな消費の回復を見込める。それに加え、訪日外国人の売上増加が良い影響をもたらす可能性がある。しかし、物価の上昇傾向が続いており、賃金上昇や株高、為替の安定など、具体的な好環境がみえない限りは、いつか頭打ちになるのではないかと危惧している(東京都)。
		百貨店(広報担当)	・大きく下振れする材料は見当たらない。今後、緩やかながらインバウンド需要も堅調に推移すると予想している(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・外国人観光客は年末にかけて更に増加すると考えるが、商材価格高騰が止まらないなか、消費意欲が高まるとは思えない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・郊外店については、来客数は増えているものの売上や客単価が悪化していることから、コロナ禍の反動による伸びがある程度一巡したのではないかと推測している。一方、集客エリアは引き続き好調なことから、総じて変わらない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・為替の影響などによりインバウンドが拡大しつつも、国内客の消費が縮小する構図はしばらく続く(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・インバウンドの好調は今後も継続していく(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・天候の影響による売上不振もあるが、物価上昇が続くことによる消費への影響が大きい。そのため、景気は良くなると思えず、変わらない。
		百貨店(管理担当)	・前年より良くなっている状況がそのまま継続する(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（店長）	・様々な物の値上げや秋のトラベル需要に鑑みて、当店のようないろいろの店舗において、特段景気が好転する要素がない。
		スーパー（経営者）	・7月から9月が変わらず良かったため、変わらないという回答である。1番良かったのは8月だが、9月も引き続き天候にも恵まれて順調にきている。野菜が非常に値上がりしており、いろいろ問題はあつたものの、売上の的には良い方へ転んでいる。
		スーパー（経営者）	・やはり競合店の影響があり、来客数、販売数量が一向に増加しないことが1番の原因である（東京都）。
		スーパー（店長）	・競合店も含めて、価格志向の状況が続いている。客も価格に敏感に反応しているため、価格志向の傾向は続く。
		スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いている。買い控えをしなければならぬが、値上げの影響が大きく、来店頻度も減少しているため、当面は現状と同様の状態が続く（東京都）。
		スーパー（店員）	・所得増加など社会全体に大きな変化がない限りは、現状がしばらく続く（東京都）。
		スーパー（総務担当）	・値上げが激しく、自由に使えるお金が増えるとは思えない。
		スーパー（営業担当）	・現在同様、単価が上がった分、来客数並びに販売量が減少し、相殺される状況がしばらく続く（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・猛暑の影響で夏の電気代が前年を大きく上回っている。異常気象による野菜の価格上昇は、景気にマイナスインパクトを与えている。年末の帰省や外出機会の増加を考えると、可処分所得が変わらぬが、日常の生活費は抑えざるを得ない層が多い。
		スーパー（食品担当）	・物価上昇で節約志向が高まる（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・現在でも来客数の前年割れがずっと続いているため、売上は悪くなる可能性が大きい。
		コンビニ（経営者）	・近隣のイベントは増えているが、人の動きが低迷している。
		コンビニ（エリア担当）	・値上げの影響が一巡したこと、コロナ禍からの戻りもほぼ落ち着いてきたことから、春先のような大幅な販売の増加を見込みにくい（東京都）。
		コンビニ（商品開発担当）	・売上単価の上昇が引き続き見込まれるが、最低賃金の大幅上昇により、実質的な利益は変わらないか、減少する懸念もある（東京都）。
		コンビニ（従業員）	・2～3か月先ではそこまで大きな変化はなさそうである。新型コロナウイルス感染症の影響は春頃から大分なくなっており、イベントや祭りなどもふだんと変わらずに開催されるようになってきている。そこそこの好景気がこの先も続いていく。
		衣料品専門店（店長）	・物価上昇による消費者の生活防衛が強まっている状況は変わらないとみている。ただし、インバウンドの集客環境を整えれば、売上増加の可能性はある。しかし、2～3か月では時間が足りない（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	・気温が下がればそれなりに需要があると思うが、今のところ、そのような雰囲気は全くない。
		家電量販店（店長）	・物価上昇に実質賃金が追いついていないため、消費動向に変化がある。旅行や飲食に掛ける費用が増えたと、身近な生活用品は壊れるまで買換えなかったり、価格重視で低価格帯の商材を選ぶ人が増える懸念がある。
		家電量販店（店長）	・物価高や電気料金の上昇、ガソリン代の高騰などが落ち着かないと、今の状況はまだ続く。
		家電量販店（経営企画担当）	・9月の足元の状況が今後も続くかどうかは分からないが、ここに来ての消費減退とも取れる動きは、注意が必要である。インバウンドが新型コロナウイルス感染症発生前の水準に近づくかどうかにも注目している（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。前年度に比べて2割減少している。
		乗用車販売店（営業担当）	・全てにおいて値上がり傾向のため、買い控えが起きている。客からは値上がり賃金上昇が比例していないため、無理があるという話を聞いている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・円安が続いていることから輸入品が値上がりし、食料品についても小麦粉類はほぼ値上がりしている。こうなったら、インフレを大きくして、給料もどんどん上げるというような思い切った政策を執らないことには、今後の経済状況も良くならない（東京都）。
		乗用車販売店（総務担当）	・中古車市況がまだ不安定であり、上昇に至っていない。
		乗用車販売店（渉外担当）	・販売会社としては安定した工場出荷のめどが立たない限り、楽観できない。
		乗用車販売店（営業担当）	・車の販売領域だと、カーシェア等のシェアードサービスが充実してきているので、都内の販売店ほど販売が厳しい（東京都）。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・良くなるようにと願っているが、実際にふたを開けてみると変わらないため、この先も変わらないのではないかと。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・販売量は少し増加しているが、来客数、客の動向など周囲の環境をみる限り、身の回りの景気は現状と余り変わらない（東京都）。
		その他専門店〔雑貨〕（営業担当）	・ゴールデンウィークから客層の中心は外国人旅行者で変わらず、販売数は好調を維持している。この傾向は年末に向けても続いていく（東京都）。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・賃金の引上げ、定休日の導入や営業時間の短縮、労働時間の厳格運用、DXによる業務効率化、働きやすい職場づくり等に知恵を絞りながら対応を図っているが、慢性的な人手不足で販売を拡大できない（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・今後の経済対策次第かと思うが、エネルギーコストを実感する冬季において、財布のひもが固くなるのではないかと（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・このままでいけば良くなる兆しはあるが、一方、円安傾向の改善や、インフレの好循環が発生しなければ、大きな変化はないと予想する（東京都）。
		高級レストラン（経理担当）	・実質賃金の伸びがマイナスとなっているものの、法人需要が少なくない業態であるため、需要が後退することはないと考える（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・近隣の空き店舗も、高額な家賃にもかかわらず、すぐに埋まる。新業態の店舗が増える傾向にある（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・客は来ているので、3か月後も売上はそこまで悪くはないと思うが、人件費、光熱費、材料費高騰の影響で、収支上はそこまで良くならない。もっと賃金を上げるしかないと思うが、会社がもうからないと賃金も上げられない。悪循環が続いている。
		一般レストラン（経営者）	・コロナ禍が終わったが、なかなか皆で外食するという意識がなくなっているのではないかと。加えて、原材料や光熱費が上がっており、飲食店は相当厳しい。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症に伴う規制がなくなって、ますます外出や外食が増えると考えられるが、物価上昇の余波により、景気への影響はプラスマイナスゼロと予想する（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行して、新規感染者数が多少増えてきている。また、インフルエンザの流行に伴う学級閉鎖などで出掛けられないという人も増えているので、現状と変わらないのではないかと。
		旅行代理店（従業員）	・秋の旅行シーズンに入り、案件が順調に実施されている。団体旅行における秋の需要増加、冬の需要減少は当業界のパターンである。
		旅行代理店（営業担当）	・物価が上昇していても収入が増えないからである。
		タクシー運転手	・客は増えているものの、効率の問題があり、1日の売上は微増である。例えば、駅に客を乗せていっても、時間帯によっては降車場が混み合っていて入れない。入替えが進まないため、自然と運転手も駅に向かわなくなってしまう。こういった問題がいろいろある（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・年末の繁忙期がどうなるか次第である。
		通信会社（経営者）	・今後2～3か月先に極端に受注が増加することもないため、変わらない（東京都）。
		通信会社（社員）	・大口案件が減少した分の売上の回復が見込めないため、コストを切り詰める必要がある。光熱費やインボイス制度導入が採算にも影響している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（社員）	・現状の好調を維持する以上の期待は難しい。人手不足による受入れ態勢のせい弱性が課題である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・物価の上昇が続いており、支出を抑える傾向が続く。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症発生前と比べて、転居を伴う異動が減少しており、住民移動は横ばいであることから、固定インターネットの切替え数も横ばいとなっている。
		通信会社（局長）	・客の経済活動が活発になっていることで、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染者数が増加傾向にある。客との接点の減少傾向が気になるところで、先を読みにくい（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・物価の上昇が収まらない限り、変わらない（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・人によって異なるが、何かを節約しながら生活している様子がうかがえる。
		通信会社（管理担当）	・新規客獲得が余り好転しない状況は続く想定である（東京都）。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（従業員）	・3月から5月までとは問合せの形も変わってきている。予約の問合せ件数も変わらない（東京都）。
		その他サービス[立体 駐車場]（経営者）	・新型コロナウイルス感染症発生前に戻らないと景気は良くならない。
		その他サービス [フィットネスクラブ]（エリア統括）	・物価の上昇傾向に伴い、個人消費の伸び悩みはしばらく続くと予想している（東京都）。
		設計事務所（経営者）	・資材の高騰、職人不足など、建築を取り巻く環境は決して楽観できない。当面、現状維持できればよしと考えている。
		住宅販売会社（従業員）	・価格の見直しがない限り、なかなか上向きには進まない。
		住宅販売会社（総務担当）	・資材高騰に対する具体的な施策がなく、自然解消を待つしかない。
		商店街（代表者）	・最近、物価がどんどん上昇しているなかで、着物はぜいたくとはいわないが、なくても困らないといわれる。そういう物に対する思いはあるだろうが、現実的に一般客の所得ではなかなか購入が難しくなっているのが実情である。
		一般小売店[家電] （経理担当）	・余り良くなる理由が見つからない。
		一般小売店[米穀] （経営者）	・やはりコロナ禍の営業で客のライフスタイルも変わり、業界全体として厳しく感じている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・食品などの物価上昇の影響、暖冬による重衣料の動向不振への懸念、店舗の改装が始まることによる客の商材ニーズへの対応に対する不安がある（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	・暖冬の影響が懸念される。
		スーパー（経営者）	・売上の前年比は、ここ半年くらいは同じ傾向である。商材単価は上がっているものの、1人当たりの買上点数は減少している。可処分所得が増えないことには、この傾向が続くそうである。
		スーパー（仕入担当）	・値上げの影響があり、円安も続きそうなので、輸入原料価格の高止まりが予想され、節約志向がまだ続く。
		コンビニ（経営者）	・余り良い条件がない（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・数字が増える要素がない。近隣住民は高齢者が多いため、ますます来客数は減り、購買量も減っていく。この先良くなるとは思えない。
		コンビニ（経営者）	・賃金が上がっていないなかでの物価上昇によって、コンビニエンスストアにおいても、客の買上点数が減ったり、無駄な物を買わないという影響が出ている。この先は、季節要因として、夏に比べて売上が落ちてくる。寒くなってくると夜の売上も減っていく。
		コンビニ（経営者）	・円安の影響により商材の値上げが続いており、先行きが不透明なため、景気は悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・客が大変慎重な買い方をする状況が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・中小企業にとってはまだ良くない。10月からいろいろな物が値上がりする影響で商材価格も上がる。加えて、インボイス制度の影響もあって、なかなか良い傾向にはならない。
		衣料品専門店（統括）	・生活物価の上昇で買い控えが発生し、来客数、客単価に影響を及ぼす。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（従業員）	・依然として物価上昇が続き、電気代も高騰している。生活に直結していることなので、この先は影響が出て、財布のひもが一層固くなる。
		家電量販店（店員）	・県独自の省エネ家電購入キャンペーンが10月末には終了する可能性があるため。
		乗用車販売店（営業）	・販売できる車種が限られてきている。
		住関連専門店（営業担当）	・リフォーム業界では、補助金効果による需要の押し上げが続いていたが、今後、補助金が終了していくなかで、各種製品の値上げの影響が出てくるため、中期的に余り明るい材料がない（東京都）。
		住関連専門店（統括）	・新型コロナウイルス感染症が収束しないために、やはり景気も低迷している。値上がりも関係してくる。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・通常の年末よりも買い控えがあると予想している。
		旅行代理店（営業担当）	・全国旅行支援が終了したため、やや悪くなる（東京都）。
		タクシー運転手	・ガソリン価格の高騰、食料品や生活用品の値上がりが続く、生活に影響しているという客の声を毎日のように聞いている。何とか今後期待したい。
		タクシー運転手	・あらゆる物価が上昇気味なところで、周りが消費意欲を抑えるようになると、悪くなる。それが気掛かりである（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・徐々に余裕がなくなっている。余り期待は持てない（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・年末年始にかけて、アフターコロナがますます進んで、平常以上に社会が浮き足立ってくると考えられるため、運動には来ない気がする。
		ゴルフ場（経営者）	・年末に向けて気温も下がってくるため、例年同様に来場者数が減る傾向になる。
		パチンコ店（経営者）	・物価上昇、実質賃金の低下がじわじわと個人の消費意欲をそいでいる。
		競輪場（職員）	・今のところ良い兆しや良くなる要因が見つからない。
		その他レジャー施設〔総合〕（経営企画担当）	・処理水問題で中国からの団体旅行客のキャンセルが散見されるようになり、景気鈍化が懸念される。また、新型コロナウイルス変異株やインフルエンザの流行により、企業の宴席自粛や心理的不安による個人の行動制限により、景気悪化の可能性もあり得る（東京都）。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・ますます売上が落ち、回復の兆しがみえてこない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・問合せ件数が少ない。
		設計事務所（所長）	・何か物件の相談があっても、しばらくするとハウスメーカー又はある程度の規模の企業が着工している。また、インボイス制度等の影響もあり大変である（東京都）。
		設計事務所（所長）	・全体の動きは余り良くない。仕事があっても、なかなか単価が上がっていない。
		設計事務所（職員）	・景気回復のきっかけとなる政策に期待するが、急激な回復は見込めない（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・今後の見通しとしては、若干悪くなるとみている。地価の高止まり、建築コストの上昇がまだ続いている上、金利上昇も懸念される。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建築資材の需要が多くなる時期であるが、目立った大型案件が少なく、例年を下回る見込みとなっている。とても景気が良いとはいえない（東京都）。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・人件費を始めとする諸経費の増加、税金、社会保険料の増加、雇用者への優遇措置により企業経営が厳しくなった結果、手取り給与を上げられないため、消費は落ち込む。
	×	一般小売店〔生花〕（店員）	・当店では仏花がよく売れるため、12月はクリスマスがあるが期待できない。最近ではクリスマスに来店する客が少なくなったことに驚いている。新型コロナウイルス感染症発生前から大分少なくなっていて、クリスマス需要はなくなったかもしれないという話は、当店だけでなくいろいろな花屋から聞いている（東京都）。
	×	コンビニ（経営者）	・10月から最低賃金が引き上げられる。人手不足だが、幾ら求人広告を打っても応募はゼロである。家族と役職者の負担が増加し、限界にきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	衣料品専門店(店長)	・物価上昇、特にエネルギー価格の上昇による配送コストが利益を圧迫しているが、価格転嫁は難しい。
	×	通信会社(管理担当)	・物価高の影響はまだ続く見込みである。
	×	ゴルフ場(経営者)	・エネルギー価格や仕入価格が高騰している上、最低賃金アップにより利益が大幅に減少している。
	×	ゴルフ場(従業員)	・外国人旅行者は増えてきてはいるが、思ったよりも増えていない。少子高齢化、地球温暖化も加速し、景気はますます悪くなるのではないかと。
	×	ゴルフ場(経理担当)	・素材、エネルギー価格の高止まりや、業務要員不足の長期化などの構造的問題は解決の見通しが立たず、固定費の回収に苦慮する環境は変わっていない。最低賃金の引上げや要員確保のための賃上げによる人件費負担も大きいなかで、価格転嫁も容易ではなく、利益を創出できるような状況ではない。今後も物価上昇圧力が一段と加速する可能性が高く、景気改善に重大な痛手となることは不可避である。
	×	その他サービス[学習塾](経営者)	・物価等の上昇によりやめる生徒が更に増えている。物価上昇を理由に教育費を削るという方向性は変わらない。
企業 動向 関連 (南関東)		出版・印刷・同関連産業(経営者)	・10月から12月までは例年どおりなら受注量が増えて景気が良くなる(東京都)。
		その他サービス業[ソフト開発](従業員)	・ホームページを見て連絡したという問合せが多くなってきて、受注につながっている。
		食料品製造業(経営者)	・いろいろ動きが始めている(東京都)。
		食料品製造業(経営者)	・大口の注文が入っているため、売上は良くなると思うが、店頭販売が少し心配である。
		電気機械器具製造業(経営者)	・現在、工場の拡充を急いでおり、生産能力が改善する予定である。今後の案件に対応したい(東京都)。
		電気機械器具製造業(企画担当)	・半導体供給不足後の在庫調整フェーズが終盤に差し掛かっている。今後は需要と供給のバランスが図られ、少しずつ景気上昇に向かう。
		輸送用機械器具製造業(総務担当)	・これから年度末にかけても今の勢いは衰えず、増産体制が続く見込みのため、良くなる。
		その他製造業[化粧品](営業担当)	・物価上昇などの不安要因はあるが、涼しくなり、サロンの営業は堅調な模様である(東京都)。
		金融業(従業員)	・値上げに踏み切る事業者は増えているが、原材料価格や光熱費の高騰が長期化しているため、価格転嫁が追い付かず、利益を確保できていないという声も多く、中小企業は依然として厳しい経営環境に置かれている(東京都)。
		金融業(従業員)	・税制改正等により、将来的に家計の可処分所得が増加すれば、景気は良くなっていく。
		金融業(営業担当)	・政府のてこ入れによる燃料価格の引下げだけでなく、各企業からは価格転嫁一巡の声が聞かれ、試算表等の数値からも、売上の増加ではなく収益性の改善がなされている企業が多くなっているようである。年末の繁忙期にかけて、受注の増加による収益向上を期待している。
		不動産業(総務担当)	・テナントから賃料を下げしてほしいとか解約退去したいという話がこのところないので、今後も景気の回復傾向は続くものとみている(東京都)。
		その他サービス業[警備](経営者)	・しばらくはこのままで推移していく。
		その他サービス業[ビルメンテナンス](経営者)	・少しずつではあるが、値上げできそうである(東京都)。
		その他サービス業[ソフト開発](経営者)	・特に悪いことが起こらなければ、景気は上向いていく(東京都)。
		繊維工業(従業員)	・業界の置かれている状況が劇的に変化するとは考えにくい(東京都)。
		出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・インボイス制度に伴うゴム印の注文は、恐らく10月に入っても若干は出ると思うが、10月一杯くらいで一段落すると見込んでいる。個人客の通常の印鑑注文は動きが出ていない(東京都)。
		化学工業(従業員)	・受注状況は変わらない。良くなる兆しは見えない。
	金属製品製造業(経営者)	・受注案件は増えてはいるものの、単価の低い仕事が多く、材料費、人件費などを考えると、景気が良くなるとは思えない。	
	一般機械器具製造業(経営者)	・新規の見積りも行っているものの、いずれも来年以降の案件なので、ここ数か月の状況には大きな変化はない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		精密機械器具製造業（経営者）	・製造業は、半導体関係部品の受注回復が遅れている。自動車メーカーは順調に回復しているようだが、いまだに生産の国内回帰がされておらず、中小企業には恩恵がない。10月以降の過去最高の最低賃金上昇、将来的な電気・ガス価格激変緩和対策補助金の廃止に耐え得るような販売価格の改定が3か月先に急に変わることは望めない。
		建設業（経営者）	・物価は上がっているが、それに対して賃金が上がっていないため、景気が良くなるとは思えない。
		建設業（従業員）	・物価は高止まりしたままで下がることはない。景気が上向きになることを望むが、物価の上昇に歯止めが掛からない状態ではないかとみている。より良い政策に期待する。
		建設業（営業担当）	・大幅な受注増加は見込めない状況だが、客の動向から現状維持はできそうである。
		輸送業（経営者）	・月ごとの取扱量に変化がなく、輸送体系も変わらないため、現状が続く（東京都）。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量が予想より低迷している。また、輸出货量は今年も少ない。今後も現状が続く予想である。
		金融業（従業員）	・原材料や原油価格の高騰が続いているが、円安傾向は一向に改善がみられないため、今後も原材料の価格高騰が続くと予想している。
		金融業（総務担当）	・ガソリン価格の高騰や食品等の値上げが家計に響きつつあり、買い控えや観光地への遠出を控える等の可能性も出てくる。飲食業もある程度戻ってきてはいるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が水面下で増えているため、今後は不透明ではないかとみている。不動産業はまだ地価が高止まり傾向のため、売上自体が減少するとみている。全体的には今後の景気は現状のままで変わらない（東京都）。
		不動産業（経営者）	・当社を含めた近隣商店街、テナントのにぎわいの勢いが続く。
		不動産業（従業員）	・建設費等の物価上昇が続いているが、不動産販売価格は高値を維持している（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・今年度は、年々弱体化し続けていた主力商材から新商材への転換期となっている。一足飛びに結果には結び付かないため、今は我慢のときである（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・年度末なので、通常であれば売上が増加することが想像されるが、円安や原材料の価格高騰がどこまで響くか未知数である（東京都）。
		税理士	・米中の景気には影響を受けるほか、コロナ禍からの回復によって国内の景気は戻ってきているといっても、中小企業は余り良くない。無利子無担保のゼロゼロ融資の返済も始まっており、社会保険料の滞納も結構あり、これから倒産が増えたと報じられている。原料価格の高騰もあり、店なども含めて、以前のように景気が良くなっているのではなく、良くないままで変わらない（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・特に良くなる材料が見当たらない。
		税理士	・コロナ禍を抜けて景気は回復傾向にあるものの、これ以上、上向きにはまだ時間が掛かる。富裕層の購買意欲は堅調だが、物価高のために富裕層以外の層の動きは鈍い。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・年末に向けた動きで、資材価格の高騰が影響し、カレンダー等の案件で中止や部数削減などの見直しが多く出ている。
		化学工業（総務担当）	・中国の景気や関係の悪化が懸念される。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・原材料や経費の値上がり、それに加えて円安で1ドル150円に迫ろうとしているなかでは、今後良くなる要素が少ないため、悪くなる。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・クライアントが中国で生産している化粧品容器や医療品容器の生産が、地政学的な懸念で国内回帰するという新企画が具現化すれば一気に活性化する。
		金属製品製造業（経営者）	・建設機械はアジア、ヨーロッパでの減産がはっきりし始めている。戦争の影響がある。
		建設業（経営者）	・経済的に見て、いずれ金利が上昇することがみえているため、先行き不安である。
		輸送業（経営者）	・原油高による物価上昇、物流の2024年問題などにより、今後も更に物価が上がることが予想される（東京都）。
		通信業（広報担当）	・今月は力強い動きとなったが、今後は伸び率が鈍化する見込みである（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（経営者）	・インフルエンザと新型コロナウイルスの新規感染者数が増えている。酷暑の夏もそろそろ和らいできているが、感染も落ち着くことを念ずるのみである（東京都）。
		経営コンサルタント	・経営者だけでなく従業員も高齢化しており、仕入コストの増大、採用困難、人件費の増加など、中小企業の経営持続に関する環境は悪化の一途をたどっており、今後の見通しは悪くなるばかりである（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・来月より、追い打ちを掛けるように原材料等の値上げがあり、低迷状態がしばらく続く。
	x	建設業（経営者）	・物価の上昇と人手不足の影響がある。
	x	広告代理店（経営者）	・インボイス制度開始による更なる現場の混乱、経理の複雑化で残業が増加するなど、様々な面で悪化しそうである（東京都）。
雇用 関連  (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	・給与待遇を上げるために求職者が増加している。年収アップの転職が成約につながっている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・年末商戦に向けて、更に求人数が増える見込みである。
		求人情報誌制作会社（営業）	・運送業でいえば、2024年問題が有名である。残業を少なくして、労働に制限を掛けるような状態だろうか。残業代などが以前よりも割り増しで多く発生するようになる。そのため、新しい人材枠を増やし、1人当たりの労働時間を制御していかなければならない。求人数が増えること自体は求人会社によっては喜ばしいことかもしれないが、果たしてそれは景気が良くなっているといえるのだろうか。1人当たりの賃金は下がるかもしれない、景気にもたらず影響は、決して良いものとは思えない。
		職業安定所（職員）	・インバウンドの増加により、飲食、宿泊は業績改善が見込まれる。運輸業、建設業では人手不足が顕著になっており、廃業や統廃合が進むものとみられる（東京都）。
		職業安定所（職員）	・最低賃金が引き上げられたことで、消費拡大が多少なりとも進むのではないかと。
		人材派遣会社（経営者）	・季節的なインバウンドの増加により業績は回復しているように思われたが、経費の増加と訪日中国人客の先行きが不透明であることから、現状、雇用拡大には結び付いていない。
		人材派遣会社（社員）	・インバウンドの回復や、アフターコロナの影響で上向いている部分もあるが、給与は増えず、物価上昇等のマイナス要因もあるため、先行きも変わらない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・派遣ビジネスにおいては、原料高など利益圧迫の影響もあり、求人数が抑えられている。9月の契約更改のタイミングで求人数が伸びなかったことから、12月まではこの傾向が続く（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・有期派遣ビジネスの仕組みそのものに、利益が出にくくなってきている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・求人数は大きく変わっておらず、10月以降も大きな変動はない見込みである。物流センターの新規開業による求人が堅調である。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣や正社員紹介などの需要は底堅く、当面は前年を上回る人材依頼が続く（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・取引先からの派遣ニーズは変わらずあり、減少につながる情報は少ない（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・物価上昇と賃金増加が比例していない業界が多いため、景気上昇を感じにくい。
		求人情報誌制作会社（経営者）	・インボイス制度導入の影響が不透明であり、加えて様々な値上げによる利幅の減少におびえている（東京都）。
		求人情報誌制作会社（広報担当）	・人材業界では今のところ景気が悪くなる大きな要素はみられないため、景気が良い状態が続くのではないかと（東京都）。
		求人情報誌制作会社（所長）	・現状をみる限り、先行きは分からない。
		職業安定所（職員）	・物価上昇に見合う賃上げが浸透しておらず、景気の先行きは流動的である。
		民間職業紹介機関（経営者）	・全般的に物の動きに活力がみられず、年内での大きな転換はない（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	・特に良くなる要素がない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・価格破壊の状況に変化が見込めない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（営業担当）	・ 今月は派遣求人数が前月比で減少傾向にある。また、9月での契約終了数が多いこともあり、10月以降の派遣総稼働者数は減少する見込みである。この先数か月、同様に派遣求人数が少ない状態だと厳しい状況になる（東京都）。
		職業安定所（職員）	・ 電気代やガソリン代、ゲリラ豪雨や猛暑による野菜、食料品の価格高騰により、引き続き不景気に向かって進んでいく。
	x	-	-

### 5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (甲信越)		高級レストラン（経営者）	・ 客から、次回来店時の料理内容について相談を受けることが多い。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・ 今月は葬儀が多かったが、問合せや予約も過去最高に多かった。今はWebの会社案内だけで、広告は一切打っていないが、客の口コミなどで当社が知られている。
		商店街（代表者）	・ 秋の観光シーズンは期待できる。ただし、宿泊費の上昇が目立ち、土産等物販への消費は弱い。
		スーパー（経営者）	・ 9月から、保育園と銀行への食品の納品が増えている。日々業務をこなすことで精一杯で、少し気が休まるのは週末のみである。月曜日からは朝6時台に病院、7時には銀行と保育園2～3か所を回り、8時に戻るということで、毎日忙しくしている。
		コンビニ（経営者）	・ クリスマス頃は需要が増える。
		コンビニ（経営者）	・ 今後、増税などがなく賃金が上がれば、それなりに景気は上向いてくる。
		自動車備品販売店（従業員）	・ 新車の納車が早まってきている状況もあり、新たな需要が見込めることから、やや良くなる。
		その他専門店〔酒〕（店長）	・ 今後は、日本酒の売上が伸びていく時期なので、少し良くなると思うが、新型コロナウイルスの感染拡大時とは異なるものの、客が飲食店に足を運ぶ回数が減っており、今後多少なくなる可能性がある。家で飲む酒については変わらないかもしれないが、外に出掛けて飲食をするのは、もう少しすると落ち着くのではないかと。諸物価高騰の関係で、飲食店での外食を控える傾向が見え始めている。
		一般レストラン（経営者）	・ 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染拡大第9波は高止まり気味であるが、インフルエンザの流行がどの程度で収まるか次第である。先行きは好転するかもしれない。慎重にみて、横ばいと見込んでいる。落ち込まないように策を練って対応したい。気持ち的にも落ち込まないようにしたい。
		スナック（経営者）	・ 新型コロナウイルス感染症がピークアウトしたようである。ワクチン接種も再開するため、徐々に落ち着いていく。
		観光名所（職員）	・ 国内一般旅行やツアーが好調である。海外、特に、欧米圏からのインバウンドも、このところ増加している。
		遊園地（職員）	・ 新型コロナウイルス感染症の5類移行により、より万全な受入体制を整えるとともに、積極的な集客施策の実施や情報発信を行うことで、多くの来園客を期待する。
		百貨店（経理担当）	・ 客の動きは活発になっているものの、価格上昇の傾向は変わらないので、消費の鈍化につながっている。
		百貨店（営業担当）	・ コロナ禍からの回復と世の中の物価上昇のせめぎ合いで、基本的には変わらない。
		百貨店（店長）	・ 現状、コロナ禍から平常に戻っているものの、売上は新型コロナウイルス感染症発生前には全く戻っておらず、前年実績並みである。これは景気の問題ではなく、地方百貨店の問題という傾向であると思う。周囲ではホテルは大変良いそうであるが、今後は業種による格差が広がるのではないかと。
	スーパー（経営者）	・ 実質可処分所得が低下しているものの、消費は強そうである。持続的なことなのかどうかは、次回の賃上げの状況に影響されそうである。	
	スーパー（副店長）	・ 今のところ、景気が良くなりそうな理由はない。	
	コンビニ（経営者）	・ ドラッグストア等が24時間営業しているため、我々コンビニ業界の売上は伸びているわけではなく、やや横ばいとみている。状況は余り良くない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・この夏は、祭り等のイベントが復活して、人が動いて売上も上がったように思う。9月は前年と同じような売上だが、物価高になっている分、実質的な売上は下がっているのかもしれない。
		コンビニ（店長）	・今のところ、日々の売上よりも行事の際の売上の伸びが大きく、それに頼っているような状況である。今後も、日々の売上は変わっていかないのではないかと。
		衣料品専門店（経営者）	・期待できない。
		家電量販店（店長）	・家電の売上規模が縮小傾向にある。
		スナック（経営者）	・毎回同じ回答になるが、本当に地方は大変である。
		スナック（経営者）	・アフターコロナで、客はそれなりに戻っては来ているものの、相変わらずのスタッフ不足と、企業で朝の始業時にアルコールチェッカーを導入した企業もあり、皆早く帰る傾向になって、2回転目がなかなか厳しい状況が続いている。今後この状況が改善していくことはないと思うので、何とかしのいでいくしかない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・国内観光客の動きはこれから少し落ち着き、多少下がってくとみている。10月以降、紅葉シーズンにかけて、国内客の代わりにインパウンドの引き合いで予約をもらっている。当地の空港の国際線が、台北線に続き、上海、韓国線も就航再開が決定した影響とみている。
		旅行代理店（副支店長）	・インフルエンザや新型コロナウイルスの感染拡大等のマイナス要因は懸念されるものの、現在の景気上昇傾向は変わらない。今後の受注状況や顧客の様子、海外旅行需要の増加や販売量等からみても、上昇のまま2～3か月先を迎えたとみている。
		タクシー運転手	・乗務員が減っている。特に、夜間に勤務する乗務員が少ないため、なかなか売上が伸びない。値上げがどのように影響してくるか、注視していきたい。
		通信会社（社員）	・試用期間を設けたり、サンプルで使ってもらおう等、まずは実際に触ってもらおう機会を増やしていきたい。
		通信会社（社員）	・前月から厳しい状況が続いており、明るい兆しがみえない。
		ゴルフ場（副支配人）	・周辺のコースや物価の状況が変わらなければ、変化はない。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	・団体予約が戻り始めている。新型コロナウイルス感染症発生前の水準とまではいかないものの、年末年始に向けて明るい材料である。
		その他サービス[クリーニング]（経営者）	・客は大分動き出しているが、原油価格の高騰のほかにも、ガスや電気等いろいろと使っているため、皆、大変困っている。
		設計事務所（職員）	・しばらくは物件数の多い状況が続くとみている。
		住宅販売会社（経営者）	・別荘の見学数はほぼ横ばいで推移しているが、売買契約にまで至るケースは減少している。
		商店街（代表者）	・現状のままでは戻すばかりで、やや悪くなる。
		一般小売店[家電]（経営者）	・値上げムードのなか、消費者は慎重である。必要のない物には興味すら示さない。年末に向かって購入意欲を高めるように仕掛けていきたいところだが、厳しい状況である。
		コンビニ（エリア担当）	・売上は前年比100%を超えているものの、天候と物価高の影響で、来客数は伸びていないため、やや悪くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・供給制約の緩和が続き、バックオーダーが減少することから、売上台数の減少が懸念される。夏から秋に増加した人流により、新型コロナウイルス等の感染拡大で迎える冬のシーズンに、再度外出自粛ムードにならないか心配である。
		一般レストラン（経営者）	・人の流れは多くなっているものの、飲食業なので、物価上昇分をまともに価格転嫁した場合、販売量はそれほど多くはならない。
		観光型旅館（経営者）	・グリーンシーズンはほぼ個人客なので、新型コロナウイルス感染症発生前の水準まで回復したが、年末は、忘年会など会社や官公庁等の需要が多いため、冬季の売上は新型コロナウイルス感染症発生前の水準には戻らないだろうと考えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏の終わりとともに人の動きが落ち始めている。また、これからのエネルギー価格の高騰や食材等の値上げ、加えてインボイス制度施行の報道が多いせいか、全体的に自粛傾向がみられ、先の動きも鈍くなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル(スタッフ)	・例年、2～3か月先は少し悪くなる。団体や大会の情報も余りない。
	x	-	-
企業 動向 関連		-	-
(甲信越)		食料品製造業(営業統括)	・円安の進行により、輸入ワインの高価格化への移行が見込まれるため、国産ヌーヴォーにとっては、有利に働くものとみられる。
		金属製品製造業(総務担当)	・半導体需要が回復し、やや良くなる。
		その他製造業[宝石・貴金属](経営者)	・ようやく涼しくなり、ジュエリーを身につける状況になっている。催事も増えているため、商材も動くようになるのではないかと。
		金融業(経営企画担当)	・世界から多くの観光客が入国し、インバウンドは回復している。物価上昇に対応して、賃金を引き上げる動きがみられる。企業行動が活発化し、賃金が上昇していくと期待ができる。
		食料品製造業(総務担当)	・店頭で、特段、当社商品が売れている実感がないため、変わらない。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	・新商品を展開しても受注にはつながらず、ワークショップの予約も減ってきており、対策に苦慮している。
		電気機械器具製造業(経営者)	・物価高による耐久消費財の買い控えが続くのではないかと。
		電気機械器具製造業(経営者)	・年末に向け受注につながりそうな見積案件が増えている。ただし、物価高や賃金上昇等で、企業としては厳しい状況もあり、堅実さを求められている。
		電気機械器具製造業(従業員)	・官公庁及び民間の工事入札が不調となっている。物価上昇に追い付いていないのかもしれないが、いずれにしろ工事は出てくるだろうと予測している。
		建設業(経営者)	・人手不足はしばらくは続くと考え。今後は、仕事内容及び人員配置を厳しく考えなければならない。
		金融業(調査担当)	・半導体市場の低迷が続くとみられるほか、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染拡大、物価高による節約意識の高まりから、個人消費も弱い見通しで、当面は足踏み状態が続く。
		新聞販売店[広告](総務担当)	・折込広告の出稿は、紙代、インク代の高騰により、依然として控えられている。旅行業では需要が回復してきているものの、人員の募集をしても集まらない状況が続いており、売上増加に結び付けられていない。
		*	*
	x	食料品製造業(製造担当)	・今年の原料農作物は出来が良くなく、2割ほどの減少を見込んでいるため、間違いなく原料価格が高騰してくる。
	x	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連		-	-
(甲信越)		-	-
		求人情報製作会社(総務担当)	・求人情報誌に掲載する求人は依然として増えてこない。当社以外でも同様に求人件数が減少している。人手不足のはずなのに、掲載への動きがない状況はこの先も変わらない。
		職業安定所(職員)	・中小企業において、円安、物価高騰等のダメージやゼロゼロ融資返済の状況が懸念されるところであり、先行きは不透明である。
		職業安定所(職員)	・依然として、人手不足感が強い業種もあるが、有効求人数は減少傾向にあり、先行きはやや不透明である。
		職業安定所(職員)	・物価上昇が止まらず、積極的な消費を控える傾向の影響を受け、企業業績は思うほど伸びないと考えられる。
		民間職業紹介機関(経営者)	・求人をつねに引する製造業において、原材料の価格高騰が影響してか、企業間のばらつきがはっきりしている。海外を商圏とする企業は採用意欲が旺盛だが、国内を商圏とする企業では様子見が目立っている。円安が異常なところまできている。
		人材派遣会社(営業担当)	・年末に向けて出費が増えると予想されるため、一段と買物を控えるのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (東海)		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・懸案の団体バス客も、ゆっくりではあるが回復基調にある。
		百貨店（販売促進担当）	・国内消費の好調に加え、インバウンドの商圏が東南アジア全般に広がるなかで、中国からの旅行客が国慶節をきっかけに今後増加し、インバウンドの売上を底上げするのではないかと予測する。
		都市型ホテル（総支配人）	・期待をしつつも、様々な仕入業者から20%程度の値上げを要求されている。宿泊、レストランや宴会の販売価格に転嫁できておらず、収益は以前よりも悪化傾向となる。
		タクシー運転手	・運転手不足のため稼働率が悪く、タクシー不足で忙しい状態が続く。
		一般小売店〔結納品〕 (経営者)	・秋が深まると当業界の景気は多少良くなる。
		一般小売店〔和菓子〕 (企画担当)	・新型コロナウイルス感染症、ウクライナの問題や円安等の外的要因が、悪いながらも落ち着いてきた。
		百貨店（経理担当）	・夜の飲食についてはまだ良くないが、それ以外はかなり良くなっている。
		百貨店（営業担当）	・来客数は前年を上回っていないが、原材料の価格高騰等による商品の価格上昇に伴い、客単価が上昇傾向にある。
		百貨店（販売担当）	・今後も来客数は増えていくことが予想される。富裕層を中心に国内消費も良くなっていくと期待したい。
		スーパー（販売担当）	・高齢者の買物について、夜は危険なので昼間に来店してもらったための企画を行う。
		スーパー（販売担当）	・これから3か月は年末商戦に向けてますます購買意欲が高まるため、来客数の増加が見込まれる。
		コンビニ（企画担当）	・徐々にインバウンドも増加傾向にあり、悪くなる要因がほとんどない。
		コンビニ（店長）	・10月から最低賃金改定で所得が増えるため、購買意欲は高まると期待される。会社的には人件費が増えるのが懸念事項である。賃金よりも物価高の影響が大きいため、そこまで良くなることはなく、やや良くなるにとどまる。
		コンビニ（店員）	・クリスマスケーキやチキンの予約が始まったので期待したい。
		衣料品専門店（売場担当）	・最近はダイレクトメールよりもスマホアプリを通してセール情報を届けることが多いが、10月中旬にダイレクトメールを配布する。ダイレクトメールを希望する年配客もあり、その来店が見込める。また、これからの季節はスーツの需要も出てくるため、以前より売上は良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・販売、点検・修理共に動きが出てきた。
		乗用車販売店（経営者）	・やはり納期が安定してきたことは大きいため、今後は成約から納車までのスムーズな流れを期待したい。
	住関連専門店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症が収束し、建築関係においても住宅、商業施設のリフォームを含めて今まで保留や延期になっていた物件が動き始めている。	
	その他専門店〔貴金属〕 (経営者)	・不安材料も多いが、全体的な傾向としては上向きと考える。新型コロナウイルス感染症の影響で動きが鈍かった客も復活してきた。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕 (経理担当)	・先行きはやや良くなると期待したい。	
	バー（経営者）	・生活様式はすっかり変わってしまったが、年末年始に向けて人の動きが出てくると予想される。	
	観光型ホテル（経営者）	・4年間社員旅行ができなかったことや当地がテレビドラマの舞台となった影響などから団体客の予約がかなり入っており、景気はやや良くなる。9月までは暑さや会社の繁忙期などで団体客の動きはそれほどでもなかったが、10月から秋の観光シーズンに入り、新型コロナウイルス感染症発生前の活況に戻ると推測する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（支配人）	・年末に向けて忘年会の予約が順調であるなど収益は増加傾向にあるが、それ以上に人件費、水道光熱費や食材原価が上昇し、損益悪化が懸念される。
		都市型ホテル（営業担当）	・法人宴会、インバウンドに伴う宿泊や株高でのレストラン利用などフォローの風が吹く状態が継続している。しばらくは継続することを期待している。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルスもインフルエンザも感染拡大はそれほど大きくない様子のため特に問題ないと考え、2～3か月後の景気は少しずつ良くなる。
		旅行代理店（営業担当）	・急激な景気回復の反面、円安、燃油価格や物価の高騰と不安要素もあるが、新型コロナウイルス感染症の新たな変異株が悪質なものにならない限り、旅行需要は回復していく。
		タクシー運転手	・徐々に国内、海外からの来訪者が増える。ニュースでいわれている我が国に対する風評被害はあるものの、いろいろな場所からの来訪者は必ず増えていき、徐々に良くなる。
		テーマパーク（職員）	・これから紅葉の時期となり、来客数が増加する。
		ゴルフ場（支配人）	・2～3か月先は冬場であるが、温暖化の影響を踏まえやや良くなると見込む。11月の入場者予約数は、前年同日比でみても好調に推移している。
		美容室（経営者）	・今まで暑さのせいで出足が悪かったが、秋に差し掛かりパーマや毛染めをする客が増えると期待する。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・9月に入ってから、数か月先のリフォーム工事物件や店舗改装工事の見積依頼が増えた。
		商店街（代表者）	・クリスマス需要がある。
		商店街（代表者）	・良くなる要素は見当たらない。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	・景況感が変わらない。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・10月から様々な物が値上げされ、将来のためいろいろと考える時期になる。イベント等でも無尽蔵に金を使うのではなく予算を考えながら適宜使うようになるため、大量消費は控えられ、3か月先も今の状況がそのまま続いて変わらない。大きく伸びる要素はなく、値上げのことを考える慎重な行動になる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・物価の上昇が続く限り、景気は良くならない。中小零細企業で給料を上げることは難しい。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・景気回復の明るい材料は依然見当たらない。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・引き続き円安の影響が続く。
		百貨店（売場主任）	・前年11月の売場改装の際、ターゲット年齢層を少し若くして商品内容も変えた。若い客の来店はあるが、サイズだけ確認してインターネットで購入する客が多い。むしろ年配客の来店も多くなっているが、その年代に合う商品を置いていないため、売上は厳しい。
		百貨店（総務担当）	・中国からのインバウンド次第であるが、円安などを背景としたインバウンドの消費は続くと思込む。一方で、円安や旅行代金の高騰などもあり日本人の海外渡航は控えられ、国内を中心とした消費に向かい、10月も堅調に推移すると想定している。このまま暑さが残るか秋が深まるかによって衣料品の動きが左右され、売上にも影響する。
		百貨店（企画担当）	・前年は、年末に向けて新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、日常を取り戻しつつあった。その前年と比べても景気に上向き感はあるが、インフレの影響が大きくあらゆる商品の値段が前年を上回っている。消費者の買い方は、より一層慎重になっている。
		百貨店（営業担当）	・コロナ禍の影響もほぼ無くなり、しばらくは現状が続く。
		百貨店（販売担当）	・暑さが続いていて秋物の動きがはっきりせず、厳しい状況である。
		スーパー（経営者）	・客足は伸びているが、人手不足で対応しきれていない状況であり、売上増加に結び付けるのが困難である。
		スーパー（店員）	・担当商品分野で値上げが予定されているが、直近の実績からみると、売上金額としては前年を上回りそうな状態に変わっていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店員）	・日中の暑さが和らぎ、昼の時間帯の客が戻ると予測する。栗やみかんなど秋の味覚が店頭に並び始めるため、期待している。
		スーパー（営業企画）	・最低賃金の引上げや電気料金補助の減額などは、景気への影響も考えられるが比較的軽微であり、当面は大きな景気変動はないとみる。
		スーパー（支店長）	・長引く暑さと物価の上昇に伴う買い控えにより、景気は現状からほぼ横ばいで年末を迎えるとみる。内閣改造をして活性化させているが、これといった経済対策に乏しく、まだ明るい将来を感じる雰囲気ではない。
		コンビニ（エリア担当）	・前年は全国旅行支援があったため、行楽立地の店舗を中心にその反動で売上の減少があるかもしれないが、それでも客の動きや販売量は変わらず好調を維持するとみる。
		コンビニ（エリア担当）	・前年のような大幅な売価アップはしないため、売上は余り変わらないとみる。
		コンビニ（店長）	・特に期待はしていない。今年のイベントに関する客の動きからみると、年末特有の動きも前年とそれほど変わらないと考える。前年並みかほぼ変わらない状況で2～3か月は推移する。
		コンビニ（商品企画担当）	・年末に向けて商機は見込めるものの、現状と大きく変わらない。
		コンビニ（本部管理担当）	・冬季に向けて一般的に客の購買力は下がる。一方でインバウンドの需要は回復傾向にある。自身を含む小売業界の展開は両者のバランスにおいて決まり、後者が上回れば経費高騰の状況でも利益確保が可能であり現状を維持できる。
		コンビニ（商品開発担当）	・物価高が変わらず、家計に係る負担は厳しい。昨今の高い気温はコンビニにおいてはプラスに働くことが多いが、状況に鑑み慎重に見極めるべき時期である。
		衣料品専門店（経営者）	・なじみ客頼みの商いであるが、これからの季節は1点当たりの単価が高いため、期待している。
		衣料品専門店（店長）	・身の回りの景気は持ち直している様子であるが、作業服や備品の購入額としては増えていない。現在の顧客を分析して、有効な対策を打ち出す必要がある。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・少し消費者の財布のひもが固くなっている印象を受ける。
		衣料品専門店（売場担当）	・10月も食料品の値上げがあるなか、節約志向が続く。
		家電量販店（店員）	・予算は低くないが、無駄な物は買わないという様子である。
		乗用車販売店（営業担当）	・消費マインドが改善してきているとみるが、ガソリン、電気代や食費などの高騰がマイナス要因になり、現状維持ではないか。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の納車は順調になったものの、中古車販売店での不正問題の影響で中古車価格が下がっており、新車と中古車を合わせた利益は前年と変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・人気車種が1年ぶりに受注を再開したため販売台数は増えているが、今の販売状況だと近いうちに受注停止となりそうである。受注を再開した月は売れて、受注を停止すると販売台数が減少するという繰り返しが続いており、先が見えない。
		乗用車販売店（従業員）	・生産が回復してきたが、軽自動車中心で利益の出る車種は相変わらずで、状況が変わってきたとは思えない。
		高級レストラン（経営企画）	・原材料等の値上げは続いている。行動様式も変わり平日の夜や団体利用は以前の形には戻らないとみており、新たな顧客創造が必要と考え開拓中である。
		一般レストラン（経営者）	・地方都市ではインバウンドも見込めず、富裕層は金を使いたがるかもしれないが、庶民は金を使うことを控えるようになる。
		一般レストラン（経営者）	・物価高の影響がある。
		その他飲食[仕出し]（経営者）	・いつ何が起こるか分からない不安がどこかにあるため、良い雰囲気であっても一本調子ではない。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から、先行きは変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・年末年始の海外、国内旅行は価格が高いため、どうしても一部の旅行者に限られる。隣国の大型テーマパークが話題となった効果で問合せが増えており、その方面を敬遠している客層にも受け入れられるかもしれない。学生旅行などに期待している。
		旅行代理店（経営者）	・ガソリン価格の高騰や食品等値上げの影響が続く上に、バス代などの公共料金も上がるため、ますます財布のひもが固くなり消費が落ち込む。
		旅行代理店（経営者）	・徐々に回復傾向とみているが、まだ完全に上向いているとは考えられない。
		タクシー運転手	・横ばいである。
		通信会社（企画担当）	・いろいろと施策を練り出しているが、各施策に対するレスポンスが減っており、客が動かなくなっている。
		通信会社（サービス担当）	・最近ではテレビの視聴チャンネル数を増やすための光回線申込みが増えている。インターネットを主として利用するのではなく、付随するサービスの利用が増えれば、通信業界の景気も更に上昇することが期待される。
		テーマパーク職員（総務担当）	・施策が早急に変わる様子はなく、秋の涼しさが一瞬ではかなく終わり、寒い冬が到来しそうである。
		その他レジャー施設 〔鉄道会社〕（職員）	・夏休みまでは上向いている感があったものの、9月に入ってから臨時列車の募集企画も定員割れでキャンセルになるなど、低調な実績に落ち着いてしまっている。
		美顔美容室（経営者）	・キャンペーンセールが12月まで継続予定であり、その売上が見込まれる。
		住宅販売会社（従業員）	・大きく変わらないと予想する。
		住宅販売会社（従業員）	・更に値上がりが進むため、年末に向けて景気は下降すると考える。年収の壁に対する方針が決まれば、働く側のセーブも減るため期待したい。
		その他住宅〔展示場〕 （従業員）	・悪いまま変わらない。成約につながりそうな来客数が伸びない状況が、ここ1年程続いている。新型コロナウイルス感染症の影響というよりは、物価高、国民負担の増加や将来的な増税の気配が更なる悪化を招いている。経済対策の評価ができない。
		商店街（代表者）	・物価上昇が著しいが、周囲の人に聞いたところ、それ相応の所得上昇はほとんどみられない。
		商店街（代表者）	・定期的に顧客招待セールを開催しているが、客の高齢化などの要因で目に見えて来客数が減少している。若い層に客層を広げたいが、インターネット販売との価格差が大きく対応に苦慮している。その傾向はますます強くなる。
		スーパー（店長）	・10月から酒類を含む食料品の値上げもあるため、ますます買い控えが進む。少しでも単価の低い物を買って求められるため、売上は悪くなっていくと予想される。
		スーパー（店長）	・賃金上昇による実質的な景気回復感が労働者に現れるまでの間、消費マインドは低いと考える。
		スーパー（店員）	・今後も値上げが続くため、購入単価が下落し売上が落ちると予想する。
		スーパー（店員）	・先行きの見通しは難しい。
		スーパー（総務）	・賃上げ、最低賃金の底上げにより収入が増えたかのように見えるが、物価上昇の方がはるかに大きく追いついていない。買い控えが続くとみる。
		コンビニ（店長）	・仕入価格が上昇しているが、なかなか価格に反映しづらい。配送便の減少により、商品の調達も厳しくなっている。
		コンビニ（店長）	・景気が浮上する要因が見つからない。10月から価格が上昇する商品やサービスがあることに加え、増税施策も開始される。
		コンビニ（店長）	・10月のビール類等の値上げを控えたディスカウント店等での買いだめもあるせいか、アルコール類の売上が下がっている。今後も物価高の影響でこの状況は変わらない。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・従業員が減ってしまったため、接客時間が取りづらくなっている。そのため売上も少しずつ落ちている。
		乗用車販売店（従業員）	・景気が悪い原因が不明である。先行きに対する不安は問合せの量の少なさでも分かるが、全体的に相場も下がっている。在庫を抱える身としては、いろいろな意味で心配である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・これからも生活に係る費用の増加が見込まれるため、必要な物を選択して購入すると話す客が多い。まだまだ景気の良い話は聞こえてこず、客の選択の目はますます厳しくなっている。
		乗用車販売店（営業担当）	・例年、行楽シーズンになると来客数が減る。今年は9月から既に減ってきており、先の見通しは良くない。
		乗用車販売店（販売担当）	・円安の影響もあり1番安いモデルでも500万円前後の価格設定となってしまった。見積りを提示するたびに高すぎるという声をよく聞く。全車種で値段が上がっているため、今後厳しい状態が続く。
		一般レストラン（経営者）	・物価高の影響がある。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・今年4月に値上げをしたが、値上げにより消費量が落ちている。販売量は10%程度減っており、影響は長く継続しそうである。
		旅行代理店（経営者）	・今後は原料価格の高騰や円安の影響が波及してくる。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後における団体旅行の実施は、11月をピークに一旦落ち着くと考えられる。それ以降の団体旅行は、今のところ動きが少ない。
		通信会社（営業担当）	・変わらない。
		観光名所（案内係）	・ここ1年、値上げ傾向が非常に強く、恐らくどの家庭も皆困っている。これからますます悪くなるのではないかと。
		理美容室（経営者）	・客との話から、物価だけ上がって給料は上がらないため、景気は悪くなる。
		美容室（経営者）	・円安で電気代や様々な物価が上がりに、ガソリン価格も高騰しているため、美容室への来店周期が月に1回だった客は2か月に1回に抑えるようになった。
		美容室（経営者）	・物価がかなり上がっているため、いろいろな面で工夫している客が多く、必要最低限以外の出費は控えている。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・10月から仕入価格の値上げがあり、最低賃金改定により人件費も増加する。主力事業である介護保険福祉用具貸与事業は、上限価格が設定されているが、その見直しはくも人材不足、物価高や仕入高に価格見直しでは対応できない。最低賃金などと同様に、介護保険制度でも地域区分で価格調整する仕組みはあるが、福祉用具貸与事業は除外されている。サービス品質の維持・向上のため投資も必要となるが、企業努力だけでは負担を強いられるところも出てくる。
		設計事務所（経営者）	・多少は改善しているが、案件数としては例年の比ではない。
		設計事務所（職員）	・円安が進んでおり、中国との関係もうまくいっていないことから、景気が上向くとは考えられない。
		住宅販売会社（従業員）	・一時的な需要はあるものの、新築住宅は価格が高騰したままなので購入に踏み切れない人が多く、受注の増加は見込めない。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・受注の状況は、建設資材、人件費の高騰もあり、どんな工事でも金額には慎重な姿勢がうかがえる。まだこの先も活気は出てこない。
	×	商店街（代表者）	・税金の負担が増えてガソリン代も上がり、その他いろいろな物が相当値上がりしている。所得がさほど増えていないのに支出ばかりが増えていく状況で、この先良くなる要素はない。インボイス制度の影響で零細業者が潰れていくことも懸念され、ますます景気が先細りしていくことは間違いない。
	×	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・10月からのアルコール類や食品値上げのニュースの影響もあり、この先も日常の飲食店利用を控える傾向が続く。
	×	百貨店（経理担当）	・コロナ禍からの反動消費は一服し、物価高に伴う消費マインドの低下や生活防衛意識の高まりが景気に水を差すと考える。
	×	住宅販売会社（経営者）	・物価が上がりに、住宅ローンの利用に影響が出てきている。この先の見通しも不安である。
企業 動向 関連  (東海)		-	-
		電気機械器具製造業（経営者）	・今年は年末にかけて設備投資が増えるのではないかと期待がある。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・業界の見本市なども再開し始めたため、景気は上向く。
		金融業（従業員）	・年末に向け需要の拡大とともに景気が少し良くなると見込む。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（経営者）	・今後も新型コロナウイルス感染症についての不安は解消していくと見込まれることから、外出や遠出をする人の増加が続く。それに伴い今後の売上も増加し、前年を上回る状況が続くと予測する。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・若年層の人手不足による内製化の遅れや、円安はまだ当分続くため、人手不足を解消する自動化がより要求されると考える。いろいろな会社で人手が足りないといわれており、新しい会社からも引き合いがきている。
		食料品製造業（経営企画担当）	・原材料価格や物流費などのコストは依然として高く推移しており、収益を更に悪化させる懸念がある。
		食料品製造業（営業担当）	・原価が上がり販売価格も高くなり、販売数が落ち込んでいる。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・景気低迷は資材等の価格高騰が原因であり、2～3か月先もこの悪い状況が続くと考え、景気は今と変わらない。
		化学工業（営業担当）	・年内に回復の見込みはない。
		化学工業（総務秘書）	・外出に危険を感じるほどに暑い夏であったが、日ざしや気温が和らぎ始め、外出する人の表情も緩んできている。景気が良くなるというほどではないが、過ごしやすい季節のなかで好況感は継続する。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・自動車の生産量が回復してきたため、ハイブリッド自動車用の電池生産量が増えている。しかし、それ以外は停滞気味で、しばらくは現状のままと見込む。
		金属製品製造業（従業員）	・引き続き仕事量が多いのは良いことだが、収益状況が改善する兆しが弱い。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・客への訪問も支障なくできるようになり、プロジェクトなどの詳細情報が入手できるようになった。多くの設備が更新時期を迎えており、今後しばらく高水準な設備投資意欲が継続しそうである。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量の見込みから、先行きは変わらない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・しばらくは新製品の効果が続く。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・まだまだ続く値上がりやガソリン価格の高騰に加え、増税となれば生活が成り立たない。
		建設業（営業担当）	・継続的な仕事はあるものの、大分落ち着いたとはいえコロナ禍で無くなった仕事もある。現状の人員でも足りているということは、景気が良くなっているとか会社がもうかっているとはいえない状況である。新しい分野にも力を入れていく必要があり、まだ景気は上向かない。
		輸送業（経営者）	・物価が上昇して荷主の売上が増加しても、荷量が増える見込みはなく、物流業に恩恵がない。
		輸送業（従業員）	・今後の引き合いも結構入っており、仕事量は少しずつだが増えている。人員や設備・燃料代等、各種経費の増加を補うためにも、値上げ交渉を進めないと賃上げもできない。
		輸送業（エリア担当）	・運送業は他業界の影響を受けるため、景気がどうなるか分かりにくい。物流の2024年問題があって忙しくなると予想するが、利益が出るほどになるかは不明である。
		輸送業（エリア担当）	・過去20年ほどでも会社の業績や景気がこれほど良くないときはなかった。物を作って売るという成長モデルがもう我が国では成り立たないのではないかと。消費の拡大も望めず、新規事業や新製品のイノベーションも望めない状況でどうやって景気を回復するのか、疑問点ばかりである。
		通信業（総務担当）	・物価高がブレーキになっているため、今以上は良くならない。
		金融業（従業員）	・インフルエンザが流行しているとはいえ、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いて、レジャーにおいても皆活発に動いている。物価高の心配はあるものの、周囲では金を使うことや遊びに行くことなどをちゅうちょしている様子はなく、今後は金を使って余暇を楽しむスタイルになる。
		金融業（企画担当）	・企業業績が上がってくることに加えて個人の給与・ボーナスが増えてこないことと消費に向かいづらい。その意味では、賃上げの裾野が広がってこないことと景気は良くならない。
		広告代理店（制作担当）	・年末に向けて各イベントの予定はあるが、様々な値上げ等により、集客にも不安がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		公認会計士	・政府の施策などから考えると、今後賃上げの波が来ることが予想される。コロナ禍からの回復により収益は蓄えている傾向にあるが、収益の回復と労働分配率のバランスが悪い企業が増えている。蓄えた収益を賃上げなどに使うことが予想されるため、しばらくは変わらない。
		行政書士	・現状維持である。
		会計事務所（職員）	・最低賃金が改定され、冬のボーナスも支給される時期ではあるが、収入の総枠は変わらないため、どの支出を重点的に行うかが変化するだけではないか。
		金属製品製造業（経営者）	・市場の縮小による引き合いの減少と価格競争がある。原材料価格は、少し下がっているものもあるが、経費の上昇が大きく、将来の景気は悪くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・数か月前の値上がり分の価格転嫁がこれから実施され、製品の値上がりもあるため、需要が減少する。
		建設業（役員）	・住宅販売に関しては、物価の上昇により建築コストがアップし、こどもエコすまい支援事業が受付終了し、ローン減税も今後減額になるため、好材料がなく厳しい。
		輸送業（従業員）	・燃料費の高騰抑制の政策も、一時的な対応にすぎない。物価の上昇率が高く、賃金の上昇が追い付いていない。
		輸送業（エリア担当）	・先を見て大型投資は実施しているが、会社の方向性が社員に伝わっていない。荷物量も減っている。社員のモチベーションは決して高くない。
		通信業（法人営業担当）	・主婦はどここのスーパーなら何が安いかなど、苦しい現実のなかで非常に厳しい目でみている。路線価が上昇というニュースもあるが、庶民感覚からはかなりずれがある。特に日常生活で精一杯な層にとって物価高が重く申し掛かっており、財布のひもはますます固くなるだろう。
		通信業（法人営業担当）	・ゼロゼロ融資返済が始まり、街の飲食店には再び休業の張り紙を目にするようになった。SNS広告ではサラリーマンの個人にまで、中小企業向けの広告が表示されるようになった。店も企業も淘汰されるのは致し方ないが、人口減少に比例して経済活動が縮退する傾向に気付きながら、打つ手を持たず状況を放置する我が国の経済は、徐々に悪くなるとしか思えない。
		不動産業（開発担当）	・2025年の大阪・関西万博に関連する施工により建築業界の人手不足が加速する懸念がある。
		会計事務所（職員）	・物価高が続き節約志向が強くなっているのか、売上単価は下落している。その一方で仕入価格は上がっており、値上げで価格転嫁をしようにも競争が継続しているため難しい。電気代やガソリン価格の高騰や最低賃金の引上げ等で固定費は増える一方であるため、今後状況は更に悪化すると考える。
	×	鉄鋼業（経営者）	・先行きが良くなるような見直しや引き合いが全くといっていいほどない。
	×	新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込チラシが回復する見込みがない。
雇用 関連		-	-
(東海)		人材派遣会社（社員）	・法人における忘年会の開催に期待している。予約状況も好調である。
		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類へ移行後もしばらく様子を見ていた採用活動が再開すると見込む。コロナ禍で派遣スタッフの自己都合契約終了が減っていたが、求職者側の動きも少しずつ出てきている。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・労働者派遣や構内請負など労働者供給を営む企業としては、求人募集を行っても大手企業のように募集条件で好条件を提示できず、人材採用に苦戦している。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が上昇している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・来年度卒業予定者は、試験の結果待ちを除き全員の内定が得られた。前年より2か月以上早い動きであり、積極的な雇用がうかがえる。追加の募集依頼もあり、医療系人材は売り手市場である。
		人材派遣会社（営業担当）	・求職者数が増加しない状況下で、業種、職種や勤務待遇による応募者数の差が顕著になっていく。
		人材派遣会社（営業担当）	・個人レベルでもすぐに景気が良くなると感じるようなトピックスがない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・良くなる材料が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	・新型コロナウイルス感染症の影響は薄まったが、物価高が心理的に影響し、なかなか景気の本格回復とまではいかない。今以上悪くもならないが良くもならず、このままで推移するとみる。
		職業安定所(所長)	・人手不足は続いており、物価高騰、原材料不足が事業活動に及ぼす影響を懸念している。コロナ禍後は街のにぎわいも戻ってきているが、依然として事業活動の回復は業種・業態による差があり、むしろこの状態が通常になりつつある。
		職業安定所(職員)	・燃料、原材料の価格高騰が続き、先が見えない状況である。業種によっては人手不足が深刻化しており、当面は様子見の状態が続く。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・採用活動が急減速する要因は見当たらないが、ここまで加速度的に採用を進めてきた企業側では、中長期展望を見据えた上で本質的に必要となる人材の採用へとシフトする動きも見られる。
		民間職業紹介機関(窓口担当)	・求人数は増加傾向にあり景気としては順調だが、依然として見合う求職者とのマッチングが難航している。この先の需要に応えるため、ニーズのある求人と見合う人材の育成期間が、ある程度必要になると想定する。
		学校〔大学〕(就職担当)	・求人数の動向のみに着目すれば引き続き堅調と考えるが、各種生活必需品の値上げ等マイナス要因もあり、それらを含めると全体では変わらない。
		人材派遣業(営業担当)	・中小企業経営者は、以前と変わらない同じ温度感で会社事業を行っている限り、値上げラッシュや賃上げラッシュに飲み込まれてしまい、苦しい状況が更に深刻化すると想定している。
		人材派遣会社(営業担当)	・各社の採用熱が下がっているわけではないが、春先はよく耳にした人材紹介会社への成果報酬額アップキャンペーンを聞かなくなっている。欧州で聞こえ始める景気後退を踏まえて国内企業も慎重な姿勢を取り始めている可能性があり、2～3か月先は景気がやや悪くなると推測する。
		職業安定所(職員)	・求人減、求職増の状況はしばらく続く可能性があるが、景気の悪化による大量離職が多く発生するような状況にはならないと考えている。
		職業安定所(職員)	・物価高、資源価格高の影響が企業の経営計画に影響を与え始めているようで、不採算店等の事業整理に伴う解雇等が増加している。今後もこの傾向は続きそうである。
		職業安定所(職員)	・燃料費の高止まりが続く上、今後も物価高が進み経費負担が増加し、企業努力だけでは利益確保が難しくなる。新規求人数は増加しているものの、充足できずに業種全体で人手不足の状態が続くと推測する。
	x	人材派遣会社(社員)	・改善の兆しがみられない。

## 7. 北陸(地域別調査機関:一般財団法人北陸経済研究所)

(- : 回答が存在しない、\* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)		*	*
		商店街(代表者)	・9月に開催された大きなイベントによる人の回遊は、これまでになく大きかった。イベントを利用した各店の工夫や売り込みが大切だと考える。
		商店街(代表者)	・期待していた中国のインバウンドは全く増えていない。来客数は多いものの買上単価の平均が低い。本格的な秋の観光シーズンを迎え、周辺で開催されるイベントも新型コロナウイルス感染症発生前以上に増える見込みであるので、売上の増加を期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・日常生活がほぼ新型コロナウイルス感染症発生前に戻ってきているなかで、旅行需要などが更に増加すれば、外出需要はまだ伸びるとみている。一方で、物価高による生活防衛意識がより一層高まることで、日用品類や生活必需品の購入に関してはより価格重視の傾向が強まるとみられ、注視する必要がある。
		観光型旅館(経理)	・新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いているため、やや良くなるとみている。
		通信会社(営業担当)	・新商品の在庫状況も落ち着き、年末年始の商戦も重なるため販売に期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（役員）	・例年どおりではあるが、年末商戦を迎えて新規契約件数の増加が見込まれ、前年と同様の契約件数を確保できると考える。
		テーマパーク（役員）	・前年同期と比べると団体客が増加傾向で、ややプラスになっているが、物価やエネルギー価格が上昇した影響が個人客の動きが鈍い状況である。全体としてはややプラスで推移するとみている。
		商店街（代表者）	・ようやく涼しくなり衣料品も動き始めたが、今までの売上減少を取り返せるほどの勢いはない。地方ではインバウンドの恩恵もなく回復は見込めない。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・物価の上昇が止まらない。一方で給与は物価上昇に合わせて上がっていないため、必要最低限のものしか購入せず、余分な商品を購入する状況ではないと考える。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・景気が良くなるための対策が後手で、改善もみられず、良くない状態はまだ続くとみている。
		百貨店（売場主任）	・台北やソウル、上海との定期便やチャーター便が再開しているため、アジアからの外国人観光客の増加による売上の増加を期待している。その反面、原材料費やエネルギー関連の価格高騰で、生活必需品の値上げの影響がしばらく続くと見込んでいる。
		百貨店（販売促進担当）	・地下食品階の改装や物産展を始めとする食に関する企画や富裕層に向けた限定企画を予定しており、ある程度の売上が見込める。一方で、この冬は暖冬との長期予報が出ており、冬物衣料の動きを注視しなければならない。
		スーパー（店長）	・客の買物の様子に変化はみられない。客は無駄な商品を買わず、客の買上点数にも変化はない。
		スーパー（店舗管理）	・更なる値上げは避けられない上に、最低賃金の改定により、人件費が大きく経営を圧迫する。生鮮品の差別化により強化するといっても限界があると考え。
		スーパー（経営企画）	・現在と同様の傾向が続くとみている。
		コンビニ（店舗管理）	・新型コロナウイルス感染症の再流行も、来客数の減少にはつながらず、閉塞感もみられない。
		衣料品専門店（経営者）	・物価上昇等の経済環境の変化に伴い、客の購買に対する許容範囲が狭くなっていくとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・天候不順に加え新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行など、悩ましい問題で不透明感が強くなっている。
		乗用車販売店（経営者）	・景気の状態はしばらく変わらないと考える。地方都市では、物価高のなかでも特にガソリン価格の高騰の影響が大きい。マイカーが生活の足となっているため、負担が重くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	・物価高が続く限り、不安定な状況は変わらないと考える。
		乗用車販売店（役員）	・配車が増えなければ売上は増加しないため変わらない。
		自動車備品販売店（役員）	・大手中古車販売店の不祥事から業界全体が厳しく判断されており、価格以上に信頼性を求められている。単価の上昇や追加の販売に抵抗を感じる客が多く、誠実な対応と安心できる価格提案を粛々と行っている状況で、先は見えない。
		住関連専門店（役員）	・同じ業界における9月の動向に回復の傾向はなく、厳しい状態が続くとみている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・光熱費の高騰や物価高が足かせとなっている。消費者は必要な物でさえ買い渋っている。
		高級レストラン（スタッフ）	・前年と比べると県内外の団体予約は2倍近く増加しているが、今年はプレミアム付食事券や県民割などが無いことに加えて足元の物価高もあり、個人客からの受注が大幅に減少している。
		一般レストラン（店長）	・この先は観光シーズンになるため、期待したい。
		一般レストラン（統括）	・中国を中心としたインバウンド需要の更なる増加などの好調要因を打ち消すほど、物価高や円安の継続、原料入手の困難、鳥インフルエンザへの心配等の不調要因が多くあるため、右肩上がりに推移しないとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・生活必需品の値上げで来客数が減少しており、コロナ禍からの回復にブレーキが掛かっている。生活防衛意識の高まりを感じる。
		タクシー運転手	・現状からは人出が増えることがあっても、減ることはないと考え。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・金額が高い乗り物扱いとなれば、タクシーの乗り控えは続くと考え。補助金に期待している。
		通信会社（職員）	・経済が良くなるための打開策が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・新機種の発売で問合せは多数あるが、その状況を継続するのは難しい。
		通信会社（役員）	・変動する要因が見当たらない。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルス感染症とともにインフルエンザの流行期に入り、外出を控える客が増える。
		住宅販売会社（従業員）	・物価が高止まり状態で中級や高級住宅を建てる客層が減り、ローコスト住宅に向かう客が増えている。中級、高級の魅力ある住宅に磨きを掛け、高級住宅志向の客に選ばれる頻度を上げていきたい。
		住宅販売会社（従業員）	・建築資材価格の高騰が続き、不安定な状況が続くとみている。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・デイリー商材の動きが悪い状態が続いている。特にギフト関係の動きが非常に悪く、物価高が影響しているとみている。暑さが続くといわれており、持ち帰り商材の動きも余り良くないと考える。
		百貨店（販売担当）	・電気料金やガソリン価格に更なる高騰の懸念があり、より慎重な消費行動が続くとみている。客の節約志向からセール品や値下げへの要求が増えており、低価格志向がより進んでいるが、要望に添える低価格商材の確保が徐々に困難になっており、厳しい状況が続いている。その一方で、一点豪華主義的なラグジュアリー商材、トラベル需要拡大を見込んだ商材にはまだ明るさがあり、この面の強化が起爆剤になる可能性がある。
		スーパー（仕入担当）	・値上げ額が大きいと、客の意識の変化を懸念している。
		衣料品専門店（経営者）	・年末商戦となる3か月後は、気候が大きく関与してくると考える。暖冬になるとコートやジャケット販売の動きに影響が出てくる。さらに、洋服に対する価値観の低下とともに消費者の購買意欲も低下しており、苦戦が強いられるとみている。
		家電量販店（店長）	・暖冬になり、季節商材の売行きが悪くなると考える。
		家電量販店（店長）	・気温が高いこともあり継続して日中の来客数が少ない。通常は決算期のため故障前でも買換えが多い月だが、今年は故障してからの買換えが多く、決算による買換え需要がみられない。
		家電量販店（本部）	・現状は、季節要因や政府の補助金などの外的要因がないと厳しい。物価高からのマインド悪化はすぐには回復しないと考える。
		スナック（経営者）	・国内外共に不安が先行する情勢で、期待できない状態である。
		都市型ホテル（役員）	・10月は団体予約が見込まれるが、11月以降のオフシーズンは稼働率の低下とともに、販売価格のコントロールが難しくなると考える。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	・会員数が増えず売上も伸びない状態で、経費だけが増加していく状況は確実に続くと考える。経費を抑えた運営の先が見えない。
		住宅販売会社（営業）	・お盆明けより商談の進展が鈍化している。同業他社も同様の状況で、下半期の受注を大いに懸念している。
		×	コンビニ（店長）
	×	住宅販売会社（従業員）	・資材価格の高騰や長期金利の上昇基調、建設業の2024年問題や人材不足等、抱える問題は多い。リフォーム事業が好調であることが、唯一の好材料である。
企業 動向 関連  (北陸)		-	-
		化学工業（総務担当）	・この先の売上は上向きの傾向である。
		精密機械器具製造業（財務担当）	・足元では販売量、受注量共に勢いが弱くなっているが、落ち込むことはなく堅調に推移している。
		金融業（融資担当）	・半導体問題で停滞していた自動車関連の受注に回復の動きがある。インバウンド関連は引き続き好調である。原料価格の高騰やコスト高に対する値上げは、時間差があり不十分な面もあるが、徐々に進行しているとみている。小売業については、生活防衛による買い控えがある様子である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（融資担当）	・県内の主力産業では、製造業は部品不足の解消や採算確保の動きがあり、飲食業、観光業では年末年始を含めた会食の増加やインバウンド需要が継続している。さらに、北陸新幹線延伸による金沢駅より西側の小松や加賀温泉方面の商業や不動産の動きが活性化しており、上向き景気が継続するものとみている。
		税理士（所長）	・新型コロナウイルス感染症対策の借入れ猶予期間が終わり、返済が苦しい会社が出始めているため、今後も倒産する企業が出てくるとみている。しかし、景況感には確実に良い方向に向かっており、環境変化に対応できている企業は良い循環になると考える。
		食料品製造業（経営企画）	・中国の日本産水産物輸入禁止措置が続く限り、会社全体の数字が上向くことはないと思う。
		繊維工業（総括）	・国内市場は、ファッション衣料用途が堅調であることに加えて自動車用途も回復傾向にある。しかし、世界的なインフレの影響により需要が減退した欧州市場のスポーツやアウトドア用途の回復が遅れているため、先行きについて楽観はできないと考える。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・価格改定が一段落しこれ以上の価格転嫁はままならず、今後の利益改善は難しいと考える。売上は回復基調にはあるが、なかなか思うようにはいかず、厳しい状況が続くとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の状況から、変わらないと考える。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・海外向けのオートバイ補修用部品は旺盛な需要により受注が多いが、各企業の設備投資ニーズに左右される産業用分野では、前月までの遅れをばん回できるほどの受注に至っていない。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・為替相場の影響や各種資源のコスト高が続いており、先行きは不透明なため、見通すのは難しい。
		建設業（経営者）	・新聞などで景気は上昇傾向にあると書かれているが、電気料金の50%アップや食料品価格の高騰により、消費者の生活は苦しくなると考える。
		建設業（役員）	・株価上昇など上向きの兆しがあるようだが、建設の受注動向は決して上向きとは考えられない。
		輸送業（経理）	・円安や金利上昇による更なるコスト増加を見込んでいる。
		通信業（営業）	・政府は育児支援等に注力しているが、物価高騰の対策には限定的な支援しかなく、恩恵を受ける業種も一部に限られるため、見通しについては期待が薄い。
		不動産業（経営者）	・個人客からの相談や問合せが、通常より少なくなっている。
		司法書士	・建設業や運送業では建築資材や燃料の高騰、人手不足の問題は継続しているが、見積書等をみると、これらの問題は織り込み済みとする契約が締結されていると考える。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・客の新規案件の開発動向や中国経済の動きから、一般消費者向け商品関連の伸びはほぼ望めないと思う。
	x	-	-
雇用 関連		-	-
(北陸)		-	-
		新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・各企業に対する2025年新卒の求人予定などについてのヒアリングでは、採用予定数については前年並みとする回答が多く、全体的な市場の状況は当面大きく変動しないとみている。
		新聞社 [ 求人広告 ] ( 営業 )	・円安の影響がいつまで続くのか、不安要因が多いと考える。
		職業安定所 ( 職員 )	・人流や物流が回復していることで久しぶりに求人を出す事業所がある一方で、電気料金等の高騰により求人を控える事業所もあり、全体としては求人数の増減幅は少ない状態が続いている。
		職業安定所 ( 職員 )	・新規求人数については底堅い状況である。
		民間職業紹介機関 ( 経営者 )	・人手不足は継続している。多くの行事等は復活しているが、物価上昇などがあり、全体的な景気についての先行きは見通せない。
		学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	・物価の上昇や円安傾向が続き、求人数について状況が変わる要素や気配が見受けられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・求職者数は微増しているが、求人数がさほど伸びていない。また、人材のスキルがより求められていると考える。必要な人材であれば直接雇用に切替えてもいいとの判断があるものとみている。
		職業安定所（職員）	・円安や物価高騰、実質賃金の低下が続いているため、やや悪くなると考える。
	x	人材派遣会社（役員）	・製造業関連の派遣先企業からの依頼数が回復するとは見込めない。また、コロナ禍から回復した販売、サービス関連企業からの依頼も一段落し、減少し始めると考える。

## 8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (近畿)		一般小売店〔雑貨〕（経営者）	・世界情勢をみると、東西冷戦の状況となっている。
		百貨店（サービス担当）	・今後も傾向に変化はなく、新しいショップのオープンや催事の強化に加え、中国の国慶節で訪日客も増えることから、売上の増加に期待している。
		百貨店（服飾品担当）	・中国からの客が更に増えると予想されるなか、在阪球団の日本シリーズ進出の可能性も高いことから、更なる来客数の増加が見込まれる。また、関西ではラグジュアリー商品への関心が高く、大阪・関西万博も控えるなかで、改装計画の話が増えるなど、今後も売上増を計画している店舗が多い。それに伴い、来客数にもまだ増加余地があると予想している。
		百貨店（マネージャー）	・秋の行楽の本格化による衣料品の販売回復や、クリスマスや年末年始での各種会合の増加に合わせて、関連需要も回復することが予想される。
		高級レストラン（企画）	・中国からのインバウンドの回復が進み、宿泊やレストランの収入の増加が予想されるほか、猛暑による出控えも解消される。
		旅行代理店（役員）	・クルーズや海外旅行の更なる回復に加え、年末年始関連の需要も4年ぶりの復活が期待される。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・紅葉の季節となることで、中国からの個人客などのインバウンドが増え、消費の増加につながる。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・インフレがどう進むかによるが、これ以上の物価の上昇がなければ、徐々に回復が進む。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・気候が良くなり、人の動きが活発になれば、多少なりとも販売量のアップが期待できる。
		百貨店（売場主任）	・為替の変動や物価の上昇といった懸念材料はあるものの、国内需要はかつてのライフスタイルに戻りつつあり、更なる回復が予想される。また、今後は中国からのインバウンド需要の増加も見込まれる。かつての状態に戻るかどうかは不透明であるが、現状よりも良くなると予想される。
		百貨店（売場主任）	・当面はインバウンド効果の本格化により、都心店は好調で、郊外店は前年並みという状況が続くそうである。全体としては、やや良い方向に向かっている。
		百貨店（企画担当）	・今月末から始まる、中国の国慶節に伴う購買の動きに注目している。
		百貨店（管理担当）	・中国の国慶節に伴う旅行客も増えており、今後の回復に期待したい。
		百貨店（外商担当）	・以前の勢いからすると、今後は来客数の増加が見込めないものの、販売単価や販売数量の増加は期待できる。
		百貨店（マネージャー）	・期待していた中国人客の訪日が、原子力発電所の処理水問題で冷え込むなか、足元の売上は予想以上に好調に推移している。中国人の訪日への期待はもちろん、まだ国内客の間でコロナ禍やインフルエンザなどの影響も残っていることから、今後の景気回復にも期待している。
	百貨店（外商担当）	・中国からの旅行客の増加により、インバウンド売上はかなり増えると予想される。	
	百貨店（マネージャー）	・10月からの値上げを考慮すると、国内の中間層の間で定着してきた選択的な節約消費により、イベントや趣味、旅行といった意味のある消費が増える。それらに関連する商材の動きが期待できるほか、追い風となっているインバウンド需要の更なる増加により、全体を大きく底上げすると予想される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・自治体によるキャッシュレス決済のキャンペーン特需により、該当店舗では売上の前年比が最大130%となる見込みである。
		スーパー（社員）	・食品価格の上昇と、客の収入の増加がうまくかみ合って、購買額の増加が続いている。当面はこの状況が続くことを期待している。
		コンビニ（経営者）	・欧米からのインバウンドが増えているため、サンドウィッチやパンのほか、ジュースやサラダなどが多く売れている。特に、サンドウィッチの売上が10%ほど伸びている。
		コンビニ（経営者）	・インバウンド需要が更に増えるほか、値上げによる客単価上昇とあいまって、更なる売上の増加が期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・原料価格の上昇や、円安による海外輸入品の原価上昇といったマイナス要因はあるものの、市場での購買の動きはそれを上回っており、しばらくは現状が続くようである。
		衣料品専門店（店員）	・来週頃から朝晩の気温も下がるため、秋物商材の売上が伸びると予想される。
		乗用車販売店（販売担当）	・車自体の輸入が増える傾向にあるため、販売量は増えてくる。
		乗用車販売店（支店長）	・年末にかけて、株価が更に上昇すると予想される。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・年末に向けて良くなるものの、インフルエンザやコロナ禍関連など、消費者の危機感をあおるような報道が最も厄介である。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・食品や日配品、日用雑貨などの生活必需品は、値上げによる影響も落ち着き、順調に推移している。今後に向けた秋冬商材への移行のほか、インバウンドによる売上増に期待したい。
		観光型ホテル（経営者）	・10～11月は行楽シーズンであり、更に需要は増えるが、スタッフの人手不足のため、団体客の需要を取り込めない。予約を制限しながらの営業を続けざるを得ない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・客室の予約は、海外の団体客、個人客共に増えている。年末年始も徐々に埋まりつつあり、この調子でいけば満室は間違いのない。レストランについても、人手不足は否めないが、需要の高まりで営業時間の延長も視野に入れている。また、海外客の利用でバー営業が好調なほか、宴会も高齢者の利用が戻りつつあり、宴会場の稼働も増えている。
		都市型ホテル（管理担当）	・原子力発電所の処理水問題によるインバウンドへの影響が懸念されたが、海外からの問合せが減る様子はない。インバウンド需要は回復が続き、客室稼働率と単価の上昇が予想されるため、売上の増加が見込まれる。
		都市型ホテル（客室担当）	・全国旅行支援は終了したが、紅葉シーズンに入り、予約の受注ペースは順調である。特に11月は予約が順調に増えている。
		旅行代理店（支店長）	・ラグビーワールドカップなどのイベントが開催されるなか、客の間で外出などへの積極性が高まっている。それに伴って旅行の動きが増えるなど、少し状況は好転している。
		通信会社（社員）	・前年と同じ傾向となれば、今後も大きな変化はないが、年末商戦に期待している。
		通信会社（役員）	・大手通信会社のキャリアショップの運営について、今年度下期以降は方針の変更が予定されている。キャリアショップの運営手数料の改善と、販売促進費の負担軽減に期待している。
		競輪場（職員）	・例年の傾向から、年末年始は良くなると予想されるが、様々な商品の値上がりにより、基調としては弱いと予想される。
		住宅販売会社（総務担当）	・客の動きが良くなってきたほか、購入額も上がってきている。
		商店街（代表者）	・コロナ禍によるライフスタイルの変化が大きいため、状況は大きく変わらない。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行により、人の動きが活発になってきたが、最近では少し落ち着いている。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	・生活必需品ではないため、購入をキャンセルする客も出てきている。
		百貨店（売場マネージャー）	・景況感の変化に直結するような要素は見当たらないため、大きな変化はないと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販促担当）	・状況の大きな変化はみられず、購買動向は現状並みと予想している。予報どおりに暖冬となれば、重衣料の動きの鈍さも懸念される。ただし、外出需要に関しては今冬も期待できるため、期待できる部分もある。年末年始の会合需要などの喚起を図っていく。
		百貨店（販売推進担当）	・度重なる値上げにより、生活防衛意識が強まっている。
		百貨店（営業推進担当）	・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、プール熱などの流行はある程度続くものの、人流が止まることはない。現状と同じく、比較的堅調な推移が予想される。
		百貨店（店長）	・米国の政情不安や、ウクライナ危機の継続、円安の進行、物価の上昇、対中国リスクなど、良くなる要因が見当たらない。中国の個人客を含むインバウンドの戻りが救いであるが、購入品が海外の高級ブランド品だけとなれば、国内景気への影響は小さい。
		百貨店（宣伝担当）	・国内売上の伸びが鈍化しており、インバウンド売上頼みとなっている。ただし、中国の国慶節に伴う動きには、原子力発電所の処理水問題で余り期待できない。原材料価格の高騰による物価の上昇が続く一方、賃上げは進まないため、消費者の節約志向が更に強まることが懸念される。
		百貨店（売場マネージャー）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加もほぼ落ち着き、足元の売上や来客数は増えつつあるが、観光客や買物客は県外や都心部に向かっている。特に、ラグジュアリー商品や衣料品ブランドでは、その傾向が強い。一方、地方ではインバウンドが増えており、免税売上が増加している。
		百貨店（マネージャー）	・気温が下がり始めたことで、秋物商材の販売増加を期待しているが、相次ぐ物価上昇の影響で、中間層の消費マインドが回復していないと感じる。
		百貨店（商品担当）	・円相場の動きのほか、中国経済の先行きには不透明感がある。
		スーパー（経営者）	・業界全体では上向き傾向が続いているが、大手企業に限られており、中小企業には回復の様子がみられない。
		スーパー（店長）	・値上げは今後も増える見込みであるため、値上げに伴う買い控えも継続する。
		スーパー（店長）	・インバウンドも現状と同じような動きが続く。
		スーパー（店長）	・まだ値上げが続くことで、現状の傾向が続く。
		スーパー（店員）	・北海道産の食品がメインになってくる季節であるが、入荷がないか、あっても値段が高いなど、状況は今後も厳しくなる。
		スーパー（店員）	・物価が3か月で下がるとは思えないが、収入が増える雰囲気はない。
		スーパー（企画担当）	・競合店の出店はなく、10月の食料品の値上げも大きな影響はないと予想される。
		スーパー（経理担当）	・一部スーパーでの、プライベートブランド品の値下げ報道が出ている。物流コストの低下など、根拠のある場合は別として、体力を消耗するような値下げ競争は、景気の好循環に水をさしかねない。また、不毛な競争は、長い目で見て消費者にもマイナスとなるため、避けねばならない。
		スーパー（企画）	・10月から最低賃金は引上げとなるが、景気が回復するまでには至らず、現状維持が予想される。
		コンビニ（経営者）	・10月からの値上げにより、また節約の動きが始まりそうである。
		コンビニ（店長）	・来客状況は安定しているが、まだ客が増えるかといえば、特に増える要素は見当たらない。季節が変わるため、気温の変化に対応した商材を見極めたい。
		コンビニ（店員）	・良い方向に向かっているため、しばらくはこのまま売上の良い状態が続くと予想される。
		コンビニ（店員）	・物価の上昇が落ち着かない限り、ますます客の財布のひもは固くなる。
		コンビニ（店員）	・近隣に商業施設が開業し、人の流れが大きく変化した。商業施設の工事中は関係者が来店したが、工事が終わると来客数が大きく減っている。
		家電量販店（経営者）	・現状の補助金効果が、今後も続くと期待している。
		家電量販店（店員）	・物価の上昇が続く以上、先行きは厳しい。ただし、各種の補助金制度を強化することで、影響は少し緩和される。
		家電量販店（企画担当）	・起爆剤となる商品がなければ、家電は厳しい状況が続く。リフォームを中心に、エコ関連の補助金制度に期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（営業担当）	・物価の上昇に賃金の上昇が追い付いていない。
		乗用車販売店（経営者）	・個人消費の増える要因が見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	・部品代が上昇する一方で、車検の整備料金は余り上がっていない。新車や修理についても大きな変化はない。
		乗用車販売店（販売担当）	・生産台数が限られているため、大幅増は見込めないが、高水準での推移が予想される。
		乗用車販売店（営業担当）	・好転する材料もないため、変化は期待できない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・化粧品の秋の新商品は予約注文が余り入らず、プラスアルファで買物をする人も少ない。賃金の上昇が約束されれば、生活必需品以外にも手が伸びると期待される。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・補助金の延長が決まり、ガソリンの店頭価格も下がっているが、最近ではガソリン価格と出荷量の相関は薄く、今後も比較的安定した需要が予想される。原油価格の上昇による景気への影響が一旦薄れることで、今後の景況感には大きな変化がない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・円安や物価上昇が続くなかで、宝飾品に消費者の目が向く要因が見当たらない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・物価の上昇による消費の鈍化や、収入の増加に対する期待の薄さ、新型コロナウイルス感染症などの流行が懸念される。
		高級レストラン（スタッフ）	・年末までは、このまま静かな状態が続く可能性がある。
		一般レストラン（経営者）	・残暑の影響のほか、仕入価格もまだ値上げが予定されており、安定した価格を設定することは難しいため、利益の確保に向けた課題と不安が続く。
		一般レストラン（企画）	・エネルギー価格は落ち着きを見せているが、原材料価格は上がる一方で、業績に大きな影響が出ている。また、人件費の上昇や人手不足も業績の懸念材料となるなか、一気に悪くなるとは思えないが、先が読めない状況である。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・気温の上昇がまだ続くなか、来客数に大きな変化はない。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・大きくは変わらないものの、少しずつ首が絞まっていく。値上げが簡単に行われる一方、賃金の上昇は追い付いていない。最低賃金の引上げによる所得の壁に対し、小手先で対応しては意味がない。
		観光型ホテル（経営者）	・物価の上昇や世界的な不況のなか、日本経済はその影響を受けるため、余り良くなる見込みはない。
		観光型旅館（経営者）	・物価の上昇で、客の動きが少し鈍くなっている。
		観光型旅館（経営者）	・景気に左右されつつも、旅行需要はみられるが、物価の上昇によって動きが消極的になっている。
		都市型ホテル（管理担当）	・良くなる材料がない。
		都市型ホテル（総務担当）	・忘年会や新年会が増える時期に期待しているが、インフルエンザの感染拡大により、年配客を中心に控えが続くことが予想される。
		都市型ホテル（客室担当）	・宿泊の予約受注は順調に推移している。客単価の上昇に期待したいが、国内消費はしばらく厳しい状況が続くと予想される。
		旅行代理店（店長）	・今よりも景気が上向くためには、海外旅行の需要がかつての水準に戻る必要がある。ただし、旅行代金が高くなっており、検討中の客が多いため、見通しは厳しい。
		タクシー運転手	・暑さや夏休みなどに伴う特需が無くなってきたため、今後は落ち着いた動きが続く。行楽シーズンになり、人出の増加が見込まれるが、今後は現状の動きが続く。
		観光名所（企画担当）	・前年と比べて来場者数は増えたが、ここ2～3か月は増加率の上昇が止まり始めている。
		遊園地（経営者）	・大手企業以外、賃金の上がりにくい状況に変化はない。一方、10月からの最低賃金の引上げで、アルバイトを多く抱える企業は負担が重くなる。
		ゴルフ場（支配人）	・予約の状況や単価の上昇を考慮すれば、今後も景気は良くなる。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・今後の催事の予定に大きな変化はないが、光熱費や工事費といった、経費の増加が見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [ 球場 ] ( 経理担当 )	・プロ野球シーズンが終了となる10月は、例年は集客が減少するものの、クライマックスシリーズ開催が決まり、日本シリーズの開催も大いに期待できることから、多くの来場者を見込んでいる。 ・中国からのインバウンドがすぐに増えるとは考えにくい。
		その他レジャー施設 [ 飲食・物販系滞在型施設 ] ( 企画担当 )	
		その他レジャー [ スポーツ施設 ] ( 業務担当 )	・様々なスポーツでワールドカップやアジア大会が開催され、スポーツを楽しむ気運は高まるものの、全体的には天候にも左右されやすいため、先行きは不透明である。
		美容室 ( 店員 )	・今のところ、周りで良くなる要素は余り見受けられない。
		その他サービス [ 学習塾 ] ( スタッフ )	・景気が悪化するなか、一時的に入会者は増えたが、ここ最近では落ち着いている。今後は取りあえず、現状維持は可能と予想される。
		その他住宅投資の動向を把握できる者 [ 不動産仲介 ] ( 経営者 )	・今後の金利情勢や販売価格次第では、個人向けの住宅販売は悪化する可能性がある。
		その他住宅 [ 展示場 ] ( 従業員 )	・建築資材価格の高騰は当面続くと予想される。
		その他住宅 [ 住宅設備 ] ( 営業担当 )	・新築住宅の販売が厳しければ、リニューアル物件でカバーしたいが、人手不足の状況がどうしても改善できず、仕事はあっても処理ができない。好転する材料がないまま、年末までは現状維持が続く。
		その他住宅 [ 情報誌 ] ( 編集者 )	・不動産価格の上昇については、2極化の面も強い。価格の上昇エリアでは、今後は住宅の販売が厳しい状況になると予想される。
		一般小売店 [ 時計 ] ( 経営者 )	・相次ぐ物価の上昇に加え、10月が近づいても猛暑日が続くなど、毎日の生活に不安要素が多過ぎる。近隣の個人商店も相次いで閉店し、その後が更地になるなど、地域としても活気が全くない。今後、景気が良くなるとは考えにくい。
		一般小売店 [ 衣服 ] ( 経営者 )	・消費者からは物価上昇の言葉がよく出る。この先、更に物価の上昇が進むなかで、賃金が思うように上がらなければ、生活必需品ではない衣料品の売行きは減少することが懸念される。
		スーパー ( 店長 )	・商品の値上げや電気代の高騰、円安の影響もあり、今後も消費には減少圧力が掛かると予想される。
		スーパー ( 開発担当 )	・具体的な景気対策がみられないなか、物価はどんどん上昇している。賃金は上がっていないため、景気が良くなることはない。
		コンビニ ( 経営者 )	・最低賃金の引上げやコロナ関連融資の返済、物価の上昇などが進むなか、中小企業が今の経営を続けられるかどうかは不透明である。既に企業努力の範囲を超えている。
		コンビニ ( 店員 )	・商品の値上げが相次ぐため、少しでも価格が安いスーパーなどに、客が流れると予想される。
		コンビニ ( 店員 )	・朝晩は涼しくなったことで、冷たいアイス類などの売行きが落ちている。
		家電量販店 ( 店員 )	・物価の上昇が、買い控えにつながっている。家電でいえば、エアコンや冷蔵庫、洗濯機などの価格が高過ぎるという声が、客からよく出ている。
		家電量販店 ( 人事担当 )	・今年の冬は暖冬予想であり、冬支度に必要な商品の売行きが伸び悩むと考えられる。また、10月以降も多くの商品で値上げが控えているため、いかにお買い得感を演出するかが求められる。
		その他小売 [ インターネット通販 ] ( オペレーター )	・寒くなってくるが、物価上昇の影響で、例年よりも買換えの頻度は減る。
		旅行代理店 ( 従業員 )	・為替対策のほか、原油価格や物価の上昇への対策が求められる。
		タクシー運転手	・インボイス制度の問題に加え、物価の上昇に給料の増加が追い付いていない。
		通信会社 ( 経営者 )	・円安の進行による、輸入原材料の価格高騰が懸念される。
		通信会社 ( 社員 )	・消費は、家計の固定費削減による影響を避けられず、景気回復の兆しがみられない。
		通信会社 ( 営業担当 )	・物価の上昇もあり、客の財布のひもが固くなっている。当社のサービスはし好品に当たるため、客単価の上昇は期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（職員）	・インボイス制度の導入で、経済を支えている中小企業の負担が増えることから、明るい見通しが立てられない。
		その他レジャー施設 〔複合商業施設〕（職員）	・現在の好調は、特需によるものである。ガソリン価格や食料品の値上げが大きいため、今後は消費マインドの低下要因となる。
		美容室（店長）	・インボイス制度の導入に伴い、当社の手続きも何かと増えそうである。さらに、担当の税理士も忙しくなっており、当店への影響が出ないか懸念している。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・アロマオイルのマッサージで服を脱ぐため、暑い時期よりも寒い時期の方が来客数は減る。
		住宅販売会社（経営者）	・地価が高くなり過ぎて、下降局面に入ったと感じる。今後は緩やかにバブルがはじけていく。
		住宅販売会社（経営者）	・原価の上昇により、利益の圧迫が予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・新築マンションは、建設費が高騰するなか、工事の着手が遅れる物件が出てきている。事業収支を考えると販売価格を上げざるを得ないが、既に高額であるため、金利動向によっては販売が冷え込む恐れがある。
	×	衣料品専門店（経営者）	・明るい兆しがなく、アフターコロナの社会の姿もはっきりみえてこない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・仕入先に良い商品のない状態が続いている。高いお金を出しても、良い商品が入ってこない。衣類は中国やアジアからの輸入品であるが、今後は商品の不足で売物がなく、悪くなっていく。
	×	家電量販店（店員）	・補助金の活用などで需要を先取りしているため、今後は購買意欲が低下することは明らかである。故障による買換えといった確実な需要を取り込まなければ、更なる売上の減少は避けられない。それと同時に、小規模な案件を確実に、かつスピード感をもって契約しなければ、現状維持すら難しい。
	×	住関連専門店（店長）	・円安や物価の上昇が続いているため、生活必需品ではない高額な輸入住関連商品については、買い控えの流れが止まらない。
	×	一般レストラン（経営者）	・値上げばかりでは、消費者の財布のひもは緩まない。コロナ禍が収束しても、企業や団体客の食事はまだ少ない。
	×	一般レストラン（店員）	・物価の上昇により、値上げせざるを得なくなった。その影響がどう出るか、今後は不安が残る。
企業 動向 関連 (近畿)		化学工業（企画担当）	・コロナ禍による行動制限が無くなってから、食品需要が増加したほか、値上げも浸透している。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・季節要因もあるが、見込み案件が増加している。
		食料品製造業（営業担当）	・インバウンド効果がしばらく続きそうなほか、ラグビーやバスケットボールなどのスポーツ観戦者が増えている影響もあり、飲食店の客が増加傾向にあるため、飲料水の売上も少し良くなる。
		繊維工業（団体職員）	・当産地の需要期を迎えるため、状況は良くなる。
		広告代理店（営業担当）	・Web媒体、紙媒体共に、今年も広告売上が前年を超える状態が続いている。
		広告代理店（営業担当）	・11月頃までは、今のペースで受注が入りそうである。
		経営コンサルタント	・やや良くなることが期待されるが、取引先による相談の多くが、助成金の利用を想定したものとなっている。助成金頼みとまでは言わないが、助成金ありきになっているとすれば、先行きは危うい。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・円安の急伸で物価が大きく上がれば別であるが、当面は現況が続くと予想される。多くの産業で、かつての水準を目指した回復が続く見込みである。
		食料品製造業（従業員）	・家庭用商品は苦戦が続く一方、かなりの値上げをしない限り、業務用の低価格品は今後も伸びる可能性はある。ただし、他社の動きも考慮する必要がある。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・取引先からは、増産の情報が入ってこない。
	化学工業（管理担当）	・各分野の業況はまだら模様であり、先が読めない。	
	プラスチック製品製造業（経営者）	・試作品は地味であるため、成果が出て売上が増えるまでには、少し時間が掛かる。従来の継続的な受注に対応しながら、新規の受注につなげたい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・日米の金融政策の違いで金利差が生じているため、今後も円安傾向が続くと予想される。物価もなかなか落ち着かないが、ガソリン代の補助の延長が決まったことで、3か月先の景気に大きな変化はないと予想される。
		金属製品製造業（経営者）	・自動車関連の受注内示の状況を見ると、大きな変化はない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・ここ数か月は景気に変化はないと予想される。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・依然として先行きが不透明である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・引き合い案件は少し増えているが、受注までには至らない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・消費者物価の上昇に対し、消費者が感覚的に納得できていない。
		建設業（経営者）	・今後は2024年問題などの働き方改革や、大阪・関西万博による技能労働者不足の影響で、従来よりも工期が厳しくなると予想される。建設コストや工期についても、取引先の理解が更に必要となる。
		建設業（経営者）	・現状と同様に、受注した仕事をいかに回していくかが課題である。
		輸送業（商品管理担当）	・毎年10～12月は売上が減るため、今年も同じ傾向となる。
		輸送業（営業担当）	・運賃を段階的に値上げすると、すぐに運賃の安い他社に客が流れるものの、今後も値上げは続ける予定である。
		輸送業（営業担当）	・キャンペーンを行っても、売上が伸びない。
		金融業（営業担当）	・燃料費をどれだけ圧縮できるかが課題であり、販売管理費や原材料費の削減も必須となる。
		金融業（副支店長）	・取引先訪問時に受注状況を確認すると、前月と変わらないとの回答が多い。
		司法書士	・新型コロナウイルスの新規感染者数が徐々に増えており、冬に向けて更に増加する可能性もある。物価の上昇やインボイス制度の開始といった課題があるため、現状が維持できればよい。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・物価が上がる一方、工賃や賃金は上がらない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・商品の動きが鈍いため、困っている。
		繊維工業（総務担当）	・経費の見直しのほか、新製品の販売で単価の引上げを進め、コストの上昇を補っていく。ただし、販売催事での集客の減少が気になる。
		化学工業（経営者）	・値上げの影響で、新規案件が小型化している。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・所得の上昇が鈍いなか、物価の上昇が先行している。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・為替の状況に左右される。
		建設業（経営者）	・10月からの更なる値上げや、電気代、燃料等の高騰によって、住宅価格の更なる上昇が予想される。ただし、年末にかけて人件費もそれに追随するとは考えられない。
		輸送業（経営者）	・今年の4月から、荷物の量は少ないままで推移している。また、日本を代表する大企業が倒産するといった噂も流れるなど、おかしな動きもあるため、積極的に新規の受注を狙いにくい。
		不動産業（営業担当）	・来月以降も、アパレルや着物といった服飾関係の店舗の撤退が続く。それに伴って空室が増え、家賃も下がることで景気は悪化する。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・ガソリンや電気、ガス代への補助が年末まで延長となったことで、一旦は生活費の上昇に直面する事態が回避できている。
	×	繊維工業（総務担当）	・円安の影響で、収益の減少に歯止めがかからない。
	×	金属製品製造業（営業担当）	・大企業は相変わらず、値上げを受け入れない姿勢であるため、価格転嫁が進まない。今後は人件費や資材コストの更なる上昇により、採算の悪化が予想される。
	×	通信業（管理担当）	・10月の値上げで、更に景気は悪化する。
	×	金融業〔投資運用業〕（代表）	・コロナ禍に伴う融資の返済が始まることで、予想されたとおり中小企業の資金繰りが悪化しており、今後は倒産が増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・今後の具体的な経済対策がみえず、全く展望が開けない。
雇用 関連 (近畿)		人材派遣会社（支店長）	・いろいろな状況が見通せる状況になれば、人や企業が動き出すと予想される。
		人材派遣会社（管理担当）	・今後も旅行業界は、訪日外国人の増加によって活発化が期待できる。ただし、物価の上昇といった不安要素があることも否めない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・2024年卒の採用が一旦落ち着き、2025年卒の採用に向けて本格的に企業が動き出す時期であるため、イベント出展やメディア掲載が増えると予想される。また、10月の内定式を迎えると、内定の辞退が出てくる時期となるため、追加募集での広告掲載や、新卒紹介も増えることが予想される。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・年末に向けて、求人数が増える傾向にあるため、現在よりも状況は少し良くなる。
		人材派遣会社（管理担当）	・物価の上昇により、景気が良くなるまでには至らない。
		人材派遣会社（役員）	・景気対策が実施されても、消費者の購買動向が変化するほどのインパクトはないと予想される。
		人材派遣会社（営業担当）	・すぐに悪くなることはないが、事務スキルだけではなく、別のスキルがなければ、時給のアップにはつながらない状況が続いている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・インバウンドはかつての水準に戻っているが、円安の進行や物価の上昇などの課題について、ある程度は解消のめどが立たなければ、景気は良くならない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・関西の地元企業からの積極的な新聞広告や、デジタル関連の販売促進プロモーションの動きは、ほぼ前年並みと予想している。
		職業安定所（職員）	・円安がどこまで進むか分からず、先行きは不透明である。
		職業安定所（職員）	・事業所の慢性的な人手不足のなかで、10月からは最低賃金が引上げとなるが、前年よりも求職者の動きは鈍いことから、先行きの見通しは不透明である。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は前年比で増加となっている。お盆休みの間、新規求職者数は減少したが、その後は増加し、例年どおりの水準となった。特に中高年層の申込割合が高く、求職活動も活発である。
		職業安定所（職員）	・持続的な賃上げへの対策が、うまくいくかどうか懸かっている。
		民間職業紹介機関（職員）	・人手不足の状況が続くなか、労働条件の大幅な引上げが困難な中小企業は、求人を募集しても希望者がいないため、受注規模などを縮小せざるを得ない。
		民間職業紹介機関（支社長）	・これまでの落ち込みに耐えてきたため、今後も大きくは変わらない。
	学校〔大学〕（就職担当）	・週末に繁華街に外出したが、高級ブランド店に長蛇の列ができるなど、インバウンド景気が復活している。今後は中国人客が更に増えることになる一方、国内客の購入意欲は今一つの状況である。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・インバウンド需要が戻りつつあり、観光や飲食などの業種の求人も増えているが、これらの動きで景気が上向くまでには、もうしばらく時間が掛かる。	
	その他雇用の動向を把握できる者	・8月の新規求人数は、季節調整値で前月比2か月連続の増加となり、原数値でも前年比で26か月連続の増加となっている。人手不足が続くなか、求人は今後も底堅く推移する見込みである。ただし、これまでの物価の上昇や、世界経済の鈍化による影響を懸念する声に加え、最低賃金の大幅な上昇を懸念する声もあり、これらの影響を注視する必要がある。今後、特にコロナ禍や物価上昇の影響を受けている中小企業が、新たな人材確保や流出の防止を進めるため、最低賃金への対応を含めて、賃上げを実施できるか否かが、企業の存続や事業運営に大きく影響する。	
	人材派遣会社（営業担当）	・円安はますます進み、物価の上昇も続くと予想されるなど、景気が活気付くような材料が見当たらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (管理担当)	・国内では円安に歯止めが掛からず、国外でも米中共に財政の悪化や景気の減速懸念を抱え、情勢は不安定化している。ウクライナ紛争や世界的なインフレも続くなか、株価も日米共に下落基調に変化した。国内外共に懸念材料が増え、景気はやや下向きへと潮目が変わっている。
	×	学校〔大学〕(就職担当)	・物価の上昇や経済対策の遅れ、増税の予想など、暗い未来しか待っていない。

## 9. 中国 (地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター)

(- : 回答が存在しない、\* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (中国)		*	*
		商店街(理事)	・年末という季節要因で、景気がやや良くなる。
		一般小売店〔眼鏡〕 (経営者)	・最低賃金上昇でパート勤務の客の購買力が上がっていく。
		百貨店(広報担当)	・コロナ禍で中止されていたイベント等が復活し、人が集まる機会が増加しているため、それに伴う消費も喚起される。
		百貨店(営業担当)	・気温の変化と外出需要が重なってくると景気は良くなっていく。
		スーパー(店長)	・物価上昇が続いているが、数字をみると足元の景気が今後やや良くなると想定できる。
		スーパー(販売担当)	・物価高が少し落ち着いてきて、最低賃金の改定もあるため、景気の上向きに期待したい。
		スーパー(販売担当)	・非正規社員の時給単価が上がり、消費に回ることが考えられる。
		コンビニ(エリア担当)	・今後も現状が継続するのではないかと感じている。ただし、ガソリン代や電気料金の負担軽減措置が終了となると先行きは不安である。
		家電量販店(販売担当)	・冬商戦へ期待する。
		乗用車販売店(店長)	・整備入庫が堅調に推移しており、年内は安定と見込んでいる。販売面も新型車が順調に受注できている状態をしばらく維持できると思う。
		乗用車販売店(営業担当)	・ここ数ヶ月の状況をみると良くなりつつある。来期になって現状が維持できているか先が読めないが、期待している。
		乗用車販売店(営業担当)	・様々な車種の生産が開始されると販売量が伸びてくる可能性がある。
		自動車備品販売店(経営者)	・季節商材が動き始めるため現時点よりは良くなるが、前年比では20%減少になると予測する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(支配人)	・暖冬の予報が出ていて秋冬物の動向が心配だが、良くなる流れは続くともみている。
		高級レストラン(事業戦略担当)	・秋の行楽シーズンを迎え、国内の団体日帰り旅行などの予約が目立って入っている。
		観光型ホテル(営業担当)	・秋の観光シーズンが到来するため、景気が上昇すると考えている。
		観光型ホテル(副支配人)	・秋の行楽シーズンの昼の団体予約が堅調に推移する。
		都市型ホテル(宿泊担当)	・航空路線の再開等で、東アジアを中心としたインバウンドの個人需要が見込まれる。
		都市型ホテル(総支配人)	・海外からの就航便が増えてきているため、宿泊は今後更に良くなるが、婚礼関係に一抹の不安がある。特にホテル見学を希望する新規のカップルが増えない限り、将来の予約数改善につながらない。
	都市型ホテル(総支配人)	・12月は例年オフシーズンとなるが、県単独による全国旅行支援が12月中に再実施されることが決まり期待できる。	
	都市型ホテル(企画担当)	・観光のトップシーズンとなり、来客数増加に期待が持てる。	
	旅行代理店(経営者)	・旅行部門はこれからますます需要が高まるが、2024年問題でドライバーの確保がこれから大変になりそうである。	
	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増加しているが、影響は少ないため、景気はやや良くなる。	
	タクシー運転手	・7～8月は観光客が多かったが、9月は少し人出が少なかった。10月以降は人出も増え、景気もやや良くなる。	
	通信会社(工事担当)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、景気はやや良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（経理担当）	・新しくエリアが開通するため、申込みが増えることを期待している。
		テーマパーク（営業担当）	・イルミネーション期間の集客が期待できる。
		観光名所（館長）	・徐々に団体旅行が増えており、今後も回復傾向が続くとみられる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、景気が上向いていたが、インフルエンザの流行等で消費マインドが冷え込んできている。
		商店街（代表者）	・駅前通りの夜の交通量が増えてきているため、人の移動は多くなっているが、街中の交通量、来客数、売上の増加につながっていない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・来年までは予測不可能なことが起こりそうで、しっかりと1日1日を確実にこなすことが大切に感じる。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・人出は多少増えているが、にぎわっているのは飲食関係で、小売関係は今後も余り変わらない。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・円安の進行で仕入コストの上昇は止まらず、売上が回復しても価格競争が本格的になり、収支状況の改善は難しい。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・すっかり秋めいてきて、しばらくは現況が維持できる。
		百貨店（経理担当）	・食品やサービス価格の値上がりにより家計の負担が増加し、景気は停滞する。
		百貨店（営業担当）	・この3年間で客の生活様式が様変わりしている。きっちり系の商品の動きが鈍くなり、ブラックフォーマルでさえ単品で購入する客が増加しているため客単価が低下している。また、温暖化によりコート等の動きも悪くなっているため、更に客単価が悪化する。
		百貨店（売場担当）	・人がある程度動き出した状況で、客が県外で購入する商品群と地元で良く売れる商品群が混在しているため、今後の予測が難しい。景気は総じて大きな変化はない。
		百貨店（外商担当）	・物価上昇の影響が出始めている。ガソリン価格の高騰など今後の見通しも良いとは思えず、今後の景気もやや良くなる程度とみられる。
		スーパー（店長）	・食品の値上げが秋以降も続くようで、消費者の財布のひもが固くなることが予想される。
		スーパー（店長）	・10月からの値上げで売上は好調を維持するが、来客数がどうなるかが不安である。
		スーパー（店長）	・現在、食料品を中心に値上げが継続しており、流れは変わらないとみられる。客の節約志向の更なる高まりや、値上げされる物価に比例していない収入の状況から現状が続くとみられる。年末年始に向けて前年よりは回復すると考えるが、大きく伸長することはない。
		スーパー（店長）	・来客数が減少しているが、3か月後も現状は変わらない。
		スーパー（総務担当）	・商品の値上げ品目の増加に加え、猛暑の影響により生鮮品の値上がりが景気に影響している。
		スーパー（販売担当）	・物価高騰で買物を控えている客が多いため、景気は良くなるらない。
		スーパー（営業システム担当）	・物価上昇が止まらないため年末商戦に影響が出る。ケーキやおせちなどメインとなるものに対する客の購買意欲は変わらないが、雑貨や小物等の消費は抑えられる。
		スーパー（業務開発担当）	・最低賃金の上昇でコストが上がり、必然的に商品単価も上がるため、客の購買動向の予測が付かない。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・従業員の人件費の増加や水道光熱費の冬場の高騰もあり、コスト増加は不可避である。来客数の鈍化が続いていることから、売上についても大きな期待はできない。いかに客単価で稼いでいくかがポイントになる。
		衣料品専門店（経営者）	・特に中小企業では、景気の良くなる要素がみえない。
		衣料品専門店（代表）	・政府による景気対策が発表されたが、減税に関する項目がなかったため、景気の活性化は期待できない。
		家電量販店（店長）	・客が家電製品を故障するまで使用するため、買い替えサイクルが延びている。
		家電量販店（企画担当）	・電気料金の値下げが決まったので、ある程度は商品が売れるかもしれないが、新製品の発売もなさそうなので見通しは良くない。
		家電量販店（副店長）	・来客数は減少傾向だが、単価は上昇しているため、売上は横ばいになるのではないかと推測する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（営業担当）	・半期決算の時期だが、前年同期と比較して30%ほど販売台数が減少している。ガソリン代を始め、物価高騰の影響が大きく、整備代を節約する客が多く見受けられる。
		乗用車販売店（統括）	・メーカーの供給台数が販売台数に影響する。
		乗用車販売店（業務担当）	・物価上昇や10月からの値上がり等で、景気に余り変化はなさそうである。
		自動車備品販売店（経営者）	・やはり物価高では生活必需品の購入が最優先であり、我々の販売しているものの購入は二の次になっている。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・インボイス制度が始まるため、景気が良くなるとは思えない。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・秋になり来客数が増える。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響はみられないが、これ以上の伸びは当面はない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・客の外出意欲は高まってきており、販売機会も増えているが、商品の値上げ基調が、多くの客の消費へのブレーキになっているように感じる。年末を控え、これから外出や買物に出る場面が増えてくる時期でもあり、売上の増加を期待するところである。
		一般レストラン（経営者）	・何に関しても値上げが続いているため、どうやりくりしていいのかわからないところだが、行楽シーズンに入るため外国人需要にゆだねるしかなさそうである。
		一般レストラン（経営者）	・ランチの利用は現状のまま推移するものの、食料品価格の上昇や電気料金、ガス代等の高騰もあり、ディナーの利用を差し控える客が増加する。
		一般レストラン（経営者）	・景気が良くなる要素がない。景気は良くなったり、悪くなったりで、なかなか予測できない。
		旅行代理店（支店長）	・経済環境が改善され、海外旅行需要が回復してこない限り厳しい状況は続く。
		タクシー運転手	・現状が良い状態であり、今以上に良くなるとは思えない。
		通信会社（企画担当）	・営業活動はおおむね変わらない、あるいは良いといえる状況が続いており、変動要素が年末にかけて見当たらない。
		テーマパーク（業務担当）	・ガソリンなど諸物価の高騰で客は外出を控える。
		ゴルフ場（営業担当）	・先の予約の入り方は良い。秋めいた気候になってきたので、このまま来場者が伸びることを期待している。
		美容室（経営者）	・景気は落ち込むこともなく、急激に良くなることもなく、緩やかに回復する。
		美容室（経営者）	・客の給料が増加せず、節約傾向が続いているため、2～3か月では景気は変わらない。
		設計事務所（経営者）	・万博会場の建築計画が進まないニュースが社会をにぎわしているように、材料費、人件費、警備に関する安全費が上昇している状況で、民間も着工の見通しが立っていない。落ち着くにはもう少し時間が必要である。
		設計事務所（経営者）	・物価や金利の上昇傾向がしばらく続くとみられることから、様子見の状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルス感染症に関する制限解除から1年後くらいまでは、現状維持が続く。
		住宅販売会社（営業担当）	・来場数は増えているが、物価高騰の影響から消費者の購入意欲が停滞しているため、現状が続くと考える。
		商店街（代表者）	・景気が回復しているという報道があるが、依然として厳しい状況が続いていく。
		百貨店（営業担当）	・気温の高い日が続いており、暖冬予想であることから、秋冬物の衣料品の販売は苦戦が予想される。
		百貨店（営業企画担当）	・物価高騰が景気に影響する。
		百貨店（売場担当）	・食品を中心とした再値上げが10月から予定されており、また、おせちの予約を開始したが、立ち上がりの売上が前年より遅れているようで、好材料が見当たらない状態である。
		スーパー（財務担当）	・物価の上昇が今後も続き、客の節約志向により買上点数の前年割れが続く。
		コンビニ（支店長）	・売上を維持しても、経費が上昇するという状況が続くとみられる。
		乗用車販売店（店長）	・長納期の影響で、需要が一巡した感がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（店長）	・10月からの値上げの影響が心配である。今までも値上げ後は飲食店への来店を控える傾向があったので、今回もそうなるのではないかと心配である。大きく落ち込むとは思えないが、多少の影響はある。
		通信会社（営業担当）	・継続する物価高騰に賃金上昇が追いついておらず、家計の緊縮財政はより進むものとみられる。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・料金延滞の推移から、物価高による家計圧迫の影響が見取れる。
		通信会社（広報担当）	・値上げが続けば、客の購買意欲は落ち込んだままとなる。
		競艇場（企画営業担当）	・2～3か月後は、舟券の発売時間が短くなり、売上が減少する。
		美容室（経営者）	・インフレ、増税の影響により、客の消費に対する消極性が出てきている。客の2極化が進み苦しい状況が続く。
		設計事務所（経営者）	・客の資金面が厳しいなか、客の資金に応じた商品が提供され、購入につながるにはしばらく時間が掛かる。
		住宅販売会社（営業所長）	・住宅価格の見直し時期が到来してくる。物価高や金利高が先行しているなか、将来不安を払拭できる材料や国の支援施策の強化が必要である。
	×	コンビニ（エリア担当）	・来月から2つの工事が開始する。現在、店の景気は工事の有無によって左右されており、工事が開始すると景気は悪くなる。
	×	乗用車販売店（リース担当）	・ガソリン価格の高騰など物価上昇のため、3か月後は今以上に景気が悪くなる。
	×	住関連専門店（営業担当）	・ガソリン代や電気料金の値上げが止まらない状態では、耐久消費財への支出が後回しになる。
		*	*
企業 動向 関連  (中国)		化学工業（総務担当）	・化学業界全般としては、環境問題に直結するものが多いが、景気を後押しするものも多いため、経済や社会へ貢献できると期待している。
		鉄鋼業（総務担当）	・僅かではあるが、受注傾向は良くなっている。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・販売先の3か月内示が現状と比べやや良くなっている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注量が増える見込みである。
		輸送業	・受注が増えているため、景気はやや良くなる。
		輸送業（営業担当）	・半導体の安定供給に伴い、製造数量の増加が予想される。
		通信業（営業企画担当）	・必要投資、計画投資のため、大幅に需要が拡大することはない。電気料金などの高騰が落ち着き、価格も安定していることから、取引先の購買意欲も更に良くなる。
		金融業（外交担当）	・地元自動車メーカーの関連企業の設備投資が活発化しており、資金需要が旺盛となっている。
		広告代理店（営業担当）	・客の受注に関して先付けの対応の内容が来ており、良くなる方向で進行する。
		農林水産業（従業員）	・景気が好転する要素も悪くなる要素もない。
		食料品製造業（経営者）	・10月からの最低賃金上昇に伴い、全社員の賃金の見直しを実施することになるため、一段と厳しい状況になる。
		繊維工業（財務担当）	・海外からの訪日需要が望めない。
		木材木製品製造業（経理担当）	・円安の状態が続く、原油を始め輸入資材が高騰し、景気の回復がみえない。景気は低いまま横ばい傾向が続くとみられる。
		化学工業（総務担当）	・ウクライナ情勢や尖閣諸島情勢など緊張が高まっていることから、景気の回復が見込めない。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・建設用生産がしばらく継続するため、現在の生産水準は継続する見込みである。
		鉄鋼業（総務担当）	・人手不足の影響は大きい。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・電子材料素材関係の受注や販売量は、今後、数か月大幅な伸びは期待できない。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・原材料費、物価の上昇など、市場全体が大きく変わる要素が見当たらない。
		建設業（経営者）	・建設工事受注量は余り変化がないが、資材高騰や人材不足等の不安材料が多々あり、企業側の設備投資も様子見から脱していない感がある。
		建設業（総務担当）	・物件量と現在の資材や協力会社の稼働状況を考えれば、ある程度の利益予想は立つが、資機材の高騰など、予測できない部分もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（業務推進担当）	・景気に関する大きなプラス要素や各取引先の目立った動きはなく、状況は余り変わらないと判断する。
		会計事務所（経営者）	・活動を活性化させたいが人手不足が解消されていない。DX化が進んでいるが、インボイス制度導入に伴う手間の増加を懸念している。落ち着くまでDX化、合理化と相反する部分があるのではないかと。
		金属製品製造業（総務担当）	・取引先の案件数が減少しており、今後の受注が減ることは確定的である。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・個々の受注量の状況に加え、取引先の生産調整の影響により、予定していた液晶パネル製造装置の販売の時期がずれ、また、半導体向けパッケージ基板の需要も減速している。
		金融業（経済産業調査担当）	・名目賃金の減少や買い控えの動き等から、個人消費が弱まる懸念がある。
		不動産業（総務担当）	・10月以降の来客数と成約件数は今月よりやや減少し、年末までにほぼ横ばいとなる予測である。
	x	-	-
雇用 関連  (中国)		人材派遣会社（支社長）	・秋以降、自動車や半導体の業種で生産活動が活性化する。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・長いコロナ禍を経て、企業も人も動きが活発になっている。どこに行っても人が多く、海外からの旅行者もこれまでのアジア系中心から欧米系が急速に増加している。業種により異なるが、新卒採用、中途採用のニーズは新型コロナウイルス感染症発生前よりも増加傾向であり、今後しばらくはこの動きが続くとみられる。
		人材派遣会社（社員）	・依然として世界情勢による物価高は続くが、評価が変わるほどの前向き、後ろ向き話題はない。
		人材派遣会社（経営企画担当）	・限られた求職者をマッチングさせるため、自社内の生産性を向上させることができるか否かが鍵となる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・当面、景気が好転する要素が見当たらないため、大きな変化は見込めない。
		職業安定所（事業所担当）	・コロナ禍からの脱却はみられるものの、ゼロゼロ融資の返済期限到来や10月からの最低賃金引上げ等により、しばらくは景気にマイナス影響がある。
		民間職業紹介機関（職員）	・採用条件を緩和してもなお、採用できない企業も多く見受けられる。採用できない企業は売上の上昇が見込みにくく、景気底上げや活性化には至らない。
		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・新年度の体制変更に向け、企業ではこれから中途採用の募集が活発化し、同時に転職希望の潜在層も今後具体的にアクションを起こすタイミングとなる。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・現状から変わる要素がないため、景気に変動はないとみられる。
		人材派遣会社（副支社長）	・新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの感染が広がる傾向にある。
		その他雇用の動向を把握できる者	・物価高騰が続いており、生活に支障を来している。当面この動きは変わることがない。
	x	-	-

#### 10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (四国)		*	*
		商店街（代表者）	・秋冬のイベントも、新型コロナウイルス感染症発生前のように行われる予定で計画が進んでおり、かなり消費者マインドも上がってきているようにみられる。
		商店街（代表者）	・人々の行動が活発になっており、年末年始の時期になると更に行動欲が活発になってくるのではないかとみられる。久しぶりの行動規制のない年末年始での忘年会や新年会が期待される。
		乗用車販売店（従業員）	・自動車メーカーの生産台数が増加傾向にある。
		乗用車販売店（役員）	・今後発表になる新型車による市場活性化が予想される。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・10月は秋祭りもあり、また、年末に近づくとお歳暮等もあるため、景気は少し良くなるとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	・ 今月は残暑、インフルエンザ・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加の影響を受けた部分もあるが、それらがある程度収束すれば、季節商材等を中心に、従前の消費回復傾向に戻ってくるものと期待される。
		旅行代理店（部長）	・ 円安傾向がみられる。
		タクシー運転手	・ 10月の頭から四国遍路の仕事が結構入ってきている。四国遍路に行っている人たちは売上はかなり貢献することに加え、四国遍路にタクシーが出掛ける分、街のタクシーは台数が減ることから1台当たりの売上は伸びてくるとみられる。
		美容室（経営者）	・ 12月頃には人が動き出すとみられる。
		商店街（常務理事）	・ 秋から冬にかけてイベントや催しがますます増え、外出機会が多くなり、身の回り品や関連商品、季節物の需要は高まると期待されるが、景気が良くなり売上が増加するとはみられない。
		百貨店（販売促進）	・ 長引くウクライナ問題と円安の影響で物価が高く、消費に結び付かないとみられる。
		スーパー（店長）	・ 商品価格上昇の負の影響が今後もしばらく継続するとみられる。
		スーパー（企画担当）	・ 10月に入れば、かなりの商品が値上がりする状況となっており、購買の前倒し、買上単価の上昇が発生するとみられる。
		コンビニ（店長）	・ 金を使う時と使わないときの差が以前より大きくなっており、財布のひもはかなり固いとみられる。
		コンビニ（総務）	・ 物価高は相変わらず続いており、電気、ガソリンなどのエネルギー価格は補助が出ても状況は激変しないとみられる。したがって、景気は良い方向へは向かっておらず、変わらないとみられる。
		コンビニ（商品担当）	・ ウクライナ情勢が良くなると、全体的に業況は厳しいとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・ ここ3か月先は余り変わらないとみられる。従来なら年末に向けて、衣料品などが売れていないといけませんが、今年はインバウンドが来ないとなかなか厳しい状況が続くと予想される。
		家電量販店（店員）	・ 価格上昇が続いているため、販売数が増えない状況がしばらく続くとみられる。
		家電量販店（副店長）	・ 景気が良くなる要因が見当たらず、現状が続くとみられる。
		乗用車販売業（営業担当）	・ 長納期化がまだ解消されないため、この状況が続くとみられる。
		乗用車販売店（従業員）	・ メーカーの生産台数増加に伴う受注残の登録により、新車販売台数は確保できるが、新車受注台数の減少は今後もしばらくは続くとみられる。
		観光型旅館（経営者）	・ 平日でも旅行ができるお年寄りの新型コロナウイルス感染症への警戒は一部継続しており、地方空港のインバウンド受入れが更に拡大しないと、地方の観光産業の景気は本格的な上昇には向かわないとみられる。
		タクシー運転手	・ 通常であれば、11～12月は忘年会等が開催されるが、新型コロナウイルス感染症の3年間は客の頻度は少なくなっていたため先が読めない。また、10月1日よりインボイス制度が実行されるため、知り合いの飲食店でも、今月末で閉店する店が2～3店舗あるなど、インボイス制度が始まってからの状況も不透明であり、景気は変わらないとみられる。
		通信会社（営業部長）	・ 来客や販売数に大きな変化がみられない。
		通信会社（支店長）	・ 引き続き物価は上昇傾向であるものの、来客数や販売数は変わっていない。
		通信会社（営業担当）	・ 前月頃から客の動きも安定しており、大きな変化はないとみられる。
		観光遊園地（主幹）	・ 何か特別なプラス要因がなければ、今の状況が続くとみられる。
		競輪競馬（マネージャー）	・ 2～3か月の期間ではまだ、他の遊興から公営競技の投票へ資金が回り販売金額が回復するとはみられず、半年は必要であるとみられる。
		設計事務所（所長）	・ 観光や飲食関係については、客が戻ってきているようだが、業界を問わず、人手不足が非常に顕著であり、これに対応できていないとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・日本を取り巻く環境とそれに対応できる政策がいろいろな状況に振り回されている気がする。株式市場もいつ暴落があっても不思議ではなく、景気の不安要素が積み上がっている。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・仕入れメーカー各社より値上げの連絡があり、それまでの間に取引先より、駆け込み注文があるとみられる。ただし、商品の値上げの後、取引先からの注文が減ることが予想されるため、現在その対応を協議している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・商品の仕入価格が上がり続けている上に予約数が少しずつ減ってきている。客が問合せをするものの購入を迷っている様子であり、買い控えがみられる。
		スーパー（店長）	・仕入価格の値上がり大幅に伸びた前年10月から1年が経過し、1品単価の伸びが止まると予想される。
		スーパー（統括担当）	・物価高は落ち着きそうになく、買い控えは定着するとみられる。
		スーパー（財務担当）	・価格志向が一層強まり、買い回りが更に進むとみられる。
		コンビニ（店長）	・前年、何度か実施された電子決済の還元キャンペーン等の施策の予定がなくなり、購買を促す施策等がなくなったことによる売上減少と、購入単価の低下がみられる。購買力の低下は特に改善される見通しが立たない。
		衣料品専門店（経営者）	・衣料品だけではないが、商品の単価上昇が1つの問題である。1番の大きな問題は残暑が厳しいことであり、長期予報も暖冬で心配している。
		一般レストラン（経営者）	・物価高に所得が追い付いておらず、購買意欲は上がっているが、客単価の高い店は敬遠される傾向がみられる。
		都市型ホテル（経営者）	・全国旅行支援終了の反動以外にも貸切バスの乗務員不足から団体旅行の催行ができない事例が発生しており、宿泊客数が伸び悩んでいる。
		通信会社（社員）	・テレビ離れが進んでいる。
		美容室（経営者）	・客との会話で景気の悪い話ばかり出ている。
		× 一般小売店〔酒〕（経営者）	・物価高騰に輪を掛け10月からの値上げ品目もあり、生活しにくくなっており、今後も買い控えは続くと思われる。
		× 衣料品専門店（経営者）	・物価高が続いており購買意欲が低いとみられる。
企業 動向 関連  (四国)		繊維工業（経営者）	・食品やガソリン価格が上昇していることもあり、生活雑貨についてもある程度の値上がりを肯定的に受け止めている消費者もいる。そのため、生活雑貨は必需品ではなく小売店側も値上げについては慎重ではあるが、しばらくの間は値上げ後も景気は悪くないとみられる。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・キッチンペーパーの売行きが良く生産量より受注量が上回っている。そのため2交替制勤務を採用して増産し、値上げも今後行うためキッチンペーパーに関しては売上が更に上がるとみられる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今の状況をみていると、脱炭素、SDGsの実行は絶対しなければならぬと国民は思っており、意欲はみられるが、経済的な理由でとどまっている。希望も込めて景気は良くなると予想される。
		通信業（企画・売上管理）	・主に東京を中心とした大手企業のCM投下について、上期は不調だったが、下期は上期と比べると好調であると各社から情報を得ている。
		農林水産業（職員）	・ここに来て朝晩の気温は低下してきたが、昼間の気温は依然高めで推移している。夏秋産地も作況不良が見込まれ、例年と比較すると卸売価格は全般に高値推移する一方、消費に力強さはなく、出荷量も少ないことから農家収入は少ない状況が続くと予想される。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・我が国は、大型公共工事を中心とした順調な稼働を背景に、需要は堅調に推移しており、海外も、緩やかな景気回復を背景に、欧州を除く全ての地域で需要は増加傾向である。一方で、ロシア・ウクライナ問題の長期化やインフレ・円安進行などにより、原材料・エネルギー価格は高止まりし、調達・物流環境は厳しい状況が続くとみられる。
		電気機械器具製造業（経理）	・政府による経済対策のてこ入れの話はあるが、相変わらずの原動費の高騰、円安基調の解消時期が不透明であり、今後の景気改善は見通せない。
		建設業（経営者）	・9月の補正予算も期待を上回らなかった。
		輸送業（経営者）	・周りの雰囲気を含めて、景気が変わるとはみられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（総務担当）	・社外でのボランティア活動、セミナー等の参加者数の増加は一服しており、新型コロナウイルス感染症流行以前の状態にある程度近づいたと考えられることに加え、直近では更に人の流れが大きく増えるようなイベントが見当たらない。
		広告代理店（経営者）	・ホテル・旅行業等観光関連の客先の広告は少し戻ってきているが、エネルギー等の価格高騰の影響が大きく、多くの客先の販売促進活動は依然として慎重で低調である。したがって、全体としては景気は余り変わらないと予想される。
		木材木製品製造業（営業部長）	・住宅の販売価格が高いまま推移している。給与もアップしたが住宅の販売価格の上昇率が高く、その差を埋めるのに2年は掛かるのではないかという声が出ている。
		化学工業（所長）	・OPECプラスの減産で下落気味であった原油価格が反発し高値維持が予想され、また、円安も重なり、原料価格が高騰する材料がますますそろってきたとみられる。
		鉄鋼業（総務部長）	・産業用機械関連の受注回復は、当面見込めない。
		建設業（経営者）	・受注量、販売量の減少がみられる。
		金融業（副支店長）	・円安の進行による原材料価格の値上がり懸念があること、販売価格転嫁を何回も実施していることで値上げをしづらい状況となる可能性があること、また、人材不足が発生していること等から景気はやや悪くなると予想される。
		税理士事務所	・新型コロナウイルス感染症関連の融資が返済開始になる企業が増加するとみられる。
	x	-	-
雇用 関連 (四国)		人材派遣会社（役員）	・年末に向けて秋の行楽シーズンをどう盛り上げていくか、人手不足にどう対処していくかが課題となるが、消費者ニーズは更に高まっており、景気は良くなっていくとみられる。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・冬休みのアルバイト募集が増加する反面、正社員の募集が減少することが予測される。
		民間職業紹介機関（所長）	・採用の動きは大きく変わらないとみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・構造的な人手不足感が続いているが、為替相場が円安方向のため訪日客が引き続き拡大するとみられる。一方で国内の物価高が企業経営に悪影響を与えるため、その綱引きで景気は変わらないとみられる。
		人材派遣会社（営業担当）	・工場での増員求人数は減少傾向であり、派遣に登録するスタッフも減少しているため、今後の景気を不安視する。
		求人情報誌（営業）	・業種・職種問わず地元中小企業では、中途採用での人員の充足が見込めないため、事業計画を変更せざるを得ない企業が増加している。そのため景気はやや悪くなると予想される。
		職業安定所（求人開発）	・冬場に向け、新型コロナウイルス感染症への警戒感が広がり、今後、宿泊業等が冷え込むことが予想される。
		x	-

### 11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)		観光旅館組合（職員）	・乗客数が増加しているため、景気は良くなる。
		観光型ホテル（専務）	・団体客の予約が増えており、先行きが明るい。
		通信会社（社員）	・手数料が増えているため、景気は良くなる。
		観光名所（職員）	・秋の深まりとともに食を中心とした各種イベントが実施され、また、今後も計画されていることから、一層来客増加が見込める。
		商店街（代表者）	・来街者数の増加は見込めないため、月々の販売促進企画を実行し、来客数と販売量の増加に期待をしている。
		商店街（代表者）	・これから秋祭りが多く催される。価格高騰の影響が考えられるものの、食品や衣類の売上は若干良くなると予想される。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・台風の影響がかなり心配だが、これから気温が落ち着くこと、県外野菜から地物の野菜に切り替わることから単価は下がっていく。また、利益率が良い果物の種類が増加するため、販売がしやすい状況になっていく。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・当店は切り花メインであるため、例年、暑い季節より晩秋の方が売上が良くなる。
	百貨店（企画担当）	・中国からの客が増えると予想している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経理担当）	・美術品や宝飾等高額品の売上が徐々に回復傾向になっており、また、衣料品の売上も回復が期待できる。
		百貨店（営業担当）	・スポーツ大会の開催や秋の行楽シーズンの準備で、周辺地域を含め人の動きの増加が予想される。また、人気の物産催事の開催や友の会で来店機会が増加し、各階への購買回遊の増加が見込める。スポーツ大会関連の選手、役員、国内外観光客需要の増加で土産需要も始まっており、特産品等の工芸品需要が期待できる。紳士雑貨やインテリア、スポーツ関連が堅調となっており、し好性の高いブランド品・舶来雑貨は、依然、価格の上昇はあるものの購入意欲は高い。クレジット利用などにより、来客数や購入量の減少は客単価、商品単価の伸びで補えると予想している。
		スーパー（企画担当）	・商品値上げの傾向が落ち着き気配がないため、買上単価の上昇は続くと予想される。一方、物価高に対する節約志向になることが予想されるため、状況次第で景気の動向も変わってくる。
		コンビニ（経営者）	・商品値上げが続いており、節約志向になることが懸念される一方、そのような傾向はみられず、現状が続くと予想される。
		コンビニ（店長）	・景気が一度深刻な状況に陥ったため、若干は改善していくと考えている。
		家電量販店（従業員）	・この先、寒くなり暖房器具の需要が増えてくるため、景気はやや良くなることが予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン代は徐々に値下げが始まっており、更なる経済対策があると予想しているため、景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（役員）	・来月から年内にかけて人気車種の新型車発表を控えており、市場の活性化、新規の客の動きに期待したいところである。販売供給量は今のところ維持できる見通しのため、今月からの受注量の改善を見込んでいる。
		乗用車販売店（総務担当）	・当面はメーカーの新車生産が順調に進むとみられる。自動車販売店は、新車が配給されることで売上と利益は確保できるため、下期の決算は好調な実績が予想される。
		乗用車販売店（役員）	・新型車の発表を控えているため、多くの来客数や注文数が期待できる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・季節要因が大半を占めるが、今後気温は下がっていくためホットコーヒーの需要が多くなる。2～3か月先の販売量や来客数の増加は見込めるため、やや景気は良くなる。
		高級レストラン（経営者）	・観光客も増え、マスク着用をせずに会合などに出席する人が多くなっている。何かアクシデントが起こらない限りは、12月までどうにか今の状態を保てると考えている。
		高級レストラン（経営者）	・10月はフグの季節になる。気温は落ち着き、客の予約が入ることを見越しており、今月より景気は良くなると予想している。新型コロナウイルス感染症は落ち着いているが、コロナ禍が続いているような感覚である。景気が良くなることを望んでいる。
		観光型ホテル（支配人）	・宿泊は前年とほぼ同じであるが、宴会や婚礼が増加傾向にある。
		旅行代理店（職員）	・年末年始と春休みの国内外旅行需要が増加すると想定している。
		通信会社（企画担当）	・足元の受注や見込みは順調である。また、客の見積り相談意欲も旺盛である。
		通信会社（営業担当）	・スポーツ大会が終わると、いよいよ街全体が新型コロナウイルス感染症発生前の状態に戻ると期待している。
		ゴルフ場（従業員）	・これから冬にかけて韓国からの来場者も見込まれることから、引き続き良い基調である。
		美容室（経営者）	・2～3か月先になると秋も深まり、美容業界は活気が出てくる。コスチューム、ヘアスタイル、化粧品などが秋仕様になり動きが出てくる。また、新型コロナウイルス感染症も落ち着き、行動範囲が広がることで景気が上向きになってくる。
		美容室（店長）	・気候が良くなると外出する機会も多くなるため、少し景気が良くなると予想される。
		商店街（代表者）	・気候変動が景気を下げていると考えられるが、景気が悪い要因をはっきりとはつかめていないため、心配している。飲食店の景気にも差があり、同様な印象を受けている。
		商店街（代表者）	・インボイス制度による特需は減少すると考えられるが、10月になると年末の動きが徐々に出るかと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・景気はすぐに回復せず、今後も同じ状態が続く。
		商店街（代表者）	・気候も良くなっていくと客の食欲も出てくるが、現状の商店街の状態をみるとインバウンドや地域の客が減少傾向にあり、売上増は見込めない。
		商店街（代表者）	・物価が上昇しているが所得が上がり、先行きが不安な状況では景気の回復は望めない。
		商店街（代表者）	・商店街全体ではインバウンドの影響を捉えにくい。外国人は増加傾向となっているものの、以前のような中国人の爆買いは当地ではみられなくなっている。インボイス制度が始まるが、非課税業者にとっては職業的差別にもつながりかねない大きな問題である。非課税業者に対して取引をやめないようにしていくことが、社会全体として重要である。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・客単価や販売量は増加すると想定しているが、働き手が不足しており、需要に対応できるか先行き不透明である。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・サンマの価格はまだ高値が付いているが、形が良くなっており、徐々に供給しやすい状態になりつつある。他の魚も良い状況になってくると期待をしているが、対策をしなければ、当地から魚屋が減少していくことになり危惧している。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・これから涼しくなり多少売上は伸びると予想されるが、景気回復はまだみられず、厳しい状況は続く。
		百貨店（企画担当）	・前年はインバウンドの回復はある程度あったが、現状はその勢いを上回っている。現時点で大きな案件が予定されておらず、また、国内客の買上状態も安定しており、景気は変わらないと判断している。
		百貨店（経営企画担当）	・地元消費の喚起としてプレミアム付商品券が発売されたため、売上への一定の効果が見込まれる。今年の秋冬は気温が下がりにくいとの予報も出ており、衣料品関係の売上への影響が懸念される。
		百貨店（業務担当）	・高齢客の消費は慎重となっており、若い層はより通信費が増え、ファミリー層は食費の高騰やガソリン代の高騰などで財布のひもは固くなっている。所得の上昇は地方の中小企業まで及んでおらず、地方の個人消費が活性化するにはまだ時間が掛かりそうである。
		スーパー（店長）	・今後の景気は横ばいと判断しており、プラス要因はないため状況は変わらない。
		スーパー（総務担当）	・一部の大企業を除けば、物価上昇により消費者の実質賃金は減少しており、今後も生活防衛のための買い控え等、節約志向が続くと考えられる。
		スーパー（経理担当）	・スーパーマーケットでは必需品以外の購入を控えている高齢者と若年層が多く、現在の人口構造ではすぐに景気が変化しない。
		コンビニ（経営者）	・物価上昇により客がコンビニエンスストアを避け、ディスカウントショップに流れる動きが活発である。しかし、デイリー商品、飲料、生活用品等のコンビニエンスストア主力商品は安定しており、来客数は減少しているものの、売上は維持することができると考えている。
		コンビニ（経営者）	・今後の社会情勢に景気上昇の要素があるとは考えにくく、景気は横ばいで推移する。
		コンビニ（経営者）	・来客数は全体的に大きな変化がないと予想され、商品の値上げが落ち着かなければ、客の動向にも大きな変化はないと考えられる。
		コンビニ（エリア担当）	・最低賃金の引上げにより、実質賃金が上昇し景気回復につながることに期待している。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・残暑が長く続いており、しばらくは飲料や冷たい食品が売れると予想される。冷麺等の売上が前年より伸びており、おでんや中華まん売上が伸び悩んでいる。天候や気温により商品の需要が変わってくる状態である。
		衣料品専門店（取締役）	・年末の状況が想像できないが、値上げが一段落するという情報もある。先行きが読めないため景気が良くなるとはいえないが、買物に外出する人は多くなると予想している。
		家電量販店（店長）	・8～9月は、季節の影響が強く、比較的景気は好調である。しばらくは景気の先行きが不透明のため、景気は変わらないと予想している。
		家電量販店（店長）	・現状では一部分野の需要が落ちていると考えられ、しばらくはこの状況が続くと予測される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店員）	・前月と同様に商品単価は上昇しているが、販売量は減少しているため、全体的には変わっていない。この状態がしばらく継続すると予想される。
		家電量販店（従業員）	・来客数の増加が続いているが、販売単価の下落も続いている。この傾向は今後も続く予想される。
		乗用車販売店（代表）	・景気が変わるような好材料が見当たらない。
		住関連専門店（経営者）	・円安や原油価格の高騰等で原材料の値上げが続いており、高値の仕入れで経営を圧迫している。加えて、人件費の高騰と人手不足も深刻になっている。また、消費者も置き家具等の耐久商品の購入に慎重になっており、先行き不透明である。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・冬商戦では物価の高騰が景気に悪影響を及ぼすと考えている。このまま物価の高騰、実質所得の悪化が報道されると、商圈の消費者心理に大きなマイナスの印象を与えると予想される。一方で、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことから、旅行業界の回復に期待をしており、また、映画のヒット作品が出れば明るい材料になり得ると考えている。
		一般レストラン（スタッフ）	・原材料などの値上がりによる利益の切迫や人口減少、高齢化の問題がある。インバウンドや県外からの観光客を対象としたビジネスは好調であるが、他の分野の地元客対象の企業の景気は悪化の一途である。
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・原価の高騰が当面続くと想定すると、3か月後の景気状況は変わらない。しかし、インバウンド需要が増えると改善してくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・人手不足により宿泊稼働に制限があるが、旅行シーズンや週末にはイベント等が多く開催されるため、人の動向は多くなり、景気は上向くと考えられる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの更なる大流行がない限り、円安が続いている現状は一定のインバウンドが期待できる。そろそろ物価の安定を期待したい。
		タクシー運転手	・タクシー台数と運転手が減少しており、他社のワゴン車等を利用するなど対策をしなければ売上が上がらない。
		通信会社（企画担当）	・現状同様、光回線販売件数の低迷が続く。
		観光名所（従業員）	・9月の大型連休はお盆期間より来客数が多く、連休終了後も来客数が減少することがないため、景気は変わらない。
		理容室（経営者）	・市内の人口は減少していること、駅周辺の工事が2～3か月先には落ち着くことから、仕事量が変わってくる。様々な業種によって、景気は変わってくると考えられるため、特に景気は変わらない。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・円安基調の改善もなくウクライナ情勢も今のままという状況では、エネルギー高騰で物価高がまだ続くことが予想され、景気回復には程遠い。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・病院の入院患者の確保はしばらく継続することが想定されるため、在宅サービスの利用者確保が厳しい状況は変わらない。
		設計事務所（所長）	・業務の結果は3か月後に出る。今月の結果は良くないため、3か月後の景気は現状が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・こどもみらい住宅支援事業の交付申請の終了で一旦落ち着いた状況が続くが、次年度の子育て世帯への住宅支援強化の継続が具体化してくれば、再度、動きが活性化してくる。
		住宅販売会社（代表）	・業界全体としては完全に景気が悪くなっていくと予想される。人口などが縮小しており、若い世代の昇給が少ないことも含め、新築で建てることは厳しいと考えている。業況が上向きになるように自社で工夫しながら、購買意欲が上昇傾向になるよう戦略を組んでいる。
		百貨店（販売促進担当）	・物価高騰による客単価の低迷が予測される。
		スーパー（店長）	・商品やサービス単価が上昇し続けており、可処分所得は減少し続けている。このことから消費は冷え込むことが予測され、景気は後退すると考える。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・賃上げが広がっていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スナック（経営者）	・今後、気温が下がるにつれ新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが流行することが予想され、再び企業の宴会や外食を自粛する状況になるのではないかと心配している。
		通信会社（役員）	・引き続き生活必需品や燃料費等の値上げが続いており、良くなる兆しがみえない。
		ゴルフ場（営業）	・10月から再び値上げが実施されるが、賃金の上昇率が追い付いておらず、購入意欲が低下すると予想される。
		競馬場（職員）	・物価上昇の影響を賃金の上昇につなげていくことができれば景気が良くなる見通しもあるが、現状では不透明である。
		設計事務所（所長）	・材料や製品単価の上昇がまだ続きそうである。生活必需品の価格上昇も懸念されるが、それに対して仕事の対価は上がりそうにない。
		設計事務所（代表）	・今後も物価や金利の上昇傾向が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・代わった内閣の顔ぶれをみると、景気対策より防衛に重点を置いているため、景気は悪くなる。
		x	衣料品専門店（店長）
企業 動向 関連  (九州)		経営コンサルタント（代表取締役）	・大きな問題が発生しない限りは、ここ数か月の動きがそのまま順調に推移していくと予想している。
		家具製造業（従業員）	・繁忙期を迎える時期であるため、比較的、案件情報も多くなっている。また、受注単価も回復傾向にある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・原材料やガス等の資源価格の値上げによる今後の流れは、取引先も予測が付いていると考えている。値上げが浸透しており、受注関係の見直しを行った状態から景気回復傾向となっているため、若干景気は良くなっていく。
		金属製品製造業（事業統括）	・インバウンドの回復による需要拡大が期待できる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・材料費や人件費の上昇は今後も続く予想されるが、そのための生産体制の確立、受注量の確保などの対策をしていくと、徐々に景気は良くなっていくのではないかと取引先と話している。
		電気機械器具製造業（取締役）	・事業再構築補助金申請が採択された。8億円超えの申請であったが、主に高機能の検査装置導入と周辺環境の整備費用となっており、2024年度中の稼働を目指している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客からの情報から、景気はやや良くなることが予想される。
		その他製造業 [産業廃棄物処理業]	・継続して原料調達が好調であるため、今後の生産についても増加傾向が見込まれる。金、パラジウム、その他非鉄金属の価格も上昇しており期待が持てる。
		金融業（営業）	・行動制限はほぼ解除され、数年ぶりの日常に戻っている。ホテルに忘年会の予約をしたところ、前年は直前まで予約できる余裕があったが、今年は引き合いが多い状況ようである。
		新聞社 [広告]（担当者）	・高額物件の案件の出稿が回復している。
		経営コンサルタント（社員）	・仕入価格が上昇している。売上のため価格を抑える努力はしているが、価格転嫁で値上げを余儀なくされている。しかし、高価格商品は売れており、2極化している。
		農林水産業（経営者）	・10月まで原料が少なく、販売先に迷惑を掛けることになるが、11月以降は年末対応を含め、対応ができそうな状況である。現状から予想すると、販売が急に落ち込む業者は少ないと考えられる。しかし、暖冬の影響で冬場の消費が不安であると同時に、鳥インフルエンザも引き続き懸念される。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・1～3月の景気が良くなる見込みである。
		化学工業（総務担当）	・今年度の売上はほぼ前年度並みで推移する予想のため、年間を通じて、状況に余り変化はない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客の予想では年末までこの状況が続くとのことで、他の産業分野に営業展開を行う必要がある。
輸送用機械器具製造業（営業担当）	・上期は計画よりも受注量や販売量が上乗せの傾向で推移しており、下期の受注量や販売量は計画並みに推移していくことが予想される。		
建設業（従業員）	・3か月後の景気は変わらないと予想されるため、公共工事の受注に向けて取り組んでいく。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（社員）	・現状のままではコロナ禍より悪い状態になることも考えられ、下請工事でも引き合いが少ない状態である。官公庁には早期の発注を望んでいる。
		通信業（職員）	・民間企業が施主の営業案件数は多少伸びているものの、官庁が施主の営業案件数と受注予想額が伸びておらず、今年度の受注目標に対して厳しい状況となっている。
		通信業（経理担当）	・売上がやや低調傾向であることはここ数か月変わっていない。しかし、下期にかけて予定外の大きな案件がまとまりそうであるため期待をしたい。
		金融業（従業員）	・自動車や住宅の販売が回復しており、百貨店やスーパーマーケットの売上も増加傾向である。また、公共工事は高水準で推移しており、飲食店や旅行関係の売上も上向いている。一方、原材料費の値上げや人手不足などで、一部の企業では経営状況が厳しくなっている。
		金融業（調査担当）	・物価の上昇が企業活動の活性化や消費マインドの回復の足かせとなっている。多くの企業が人材確保にも苦慮しており、当面の景気は現状程度の推移となると見込んでいる。
		金融業（営業担当）	・物価高、人手不足、人件費の負担が今後中小企業にのしかかると考えられる。一部の不動産業者では物件の高値が続いているため仕入れに慎重になっており、今後の景気は全体的に横ばいである。
		不動産業（経営者）	・2～3か月先の受注内容等は変わりがなく、増加する見込みはない。
		広告代理店（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の第9波が発生しており、新規感染者数が3か月ほど増加している。ロシアによるウクライナ侵攻も長期化しており、中国の不動産業界に端を発した中国経済の不安定化もあることから、景気については当面足踏み状態が続く。
		広告代理店（役員）	・業績を押し上げるような話題を欠いているため、景気に変化はない。
		経営コンサルタント（社員）	・前月は動きが見られたが、今月は新たな情報がないため、今後も特に変化がないと予想される。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・Webのアクセス数や問合せ件数に大きな変化がないため、現状は変わらない。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・DXなどデジタル需要の拡大による投資や観光需要などプラス材料も見られる。しかし、資源価格の上昇や円安の進行に伴う資材の値上げなどもあり大きく上昇するとは考えにくく、当面は横ばいで推移すると考えている。
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・今後、市町村から子育てに関係するニーズ調査の委託業務の発注が予測される。予算が少ない市町村が多いため、入札を考慮すると受注金額は多くは見込めない。このため、景気が良くなることは考えにくく、変わらないと判断される。
		繊維工業（営業担当）	・廃業や倒産が増えると予想される。中小企業では、最低賃金の上昇やインフレなど、慣れていないことが多く対応できない。加えて、インボイス制度など煩わしい処理も増えている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現状より一層受注が減る見込みである。
		輸送業（総務担当）	・10月からの更なる物価高、エネルギー高などが家計の消費を抑える要因となりかねない。中国の景気後退も影響し、最低賃金上昇によるパート社員の仕事の抑制、インボイス制度開始に伴う事務作業の煩雑化、電子帳簿保存法への対応による経費増加など課題は山積みである。
	金融業（調査担当）	・為替相場が27日に1ドル149円台と年初来の安値圏まで進み、前月より円安傾向が高まっている。今後、過度に変動が生じることがあれば、景気はやや悪くなると予測している。	
	x	-	-
(九州)	雇用関連		
		人材派遣会社（社員）	・秋のイベントシーズンを迎えるため、売上増加が見込める。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染症関連の業務も一旦終了となるが、新規委託や派遣業務などの案件確保の流れが強く、求人数増加を見込んでいる。
		人材派遣会社（社員）	・年末年始に向け時期的な需要があるが、観光客も増加しており、接客業からの依頼も多いため、今後も増加が大いに見込める状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・経済活動の正常化を背景に、内需を中心に緩やかに持ち直している。このため、一部の業界によっては働き手の不足があるため企業の新卒採用意欲は底堅く、今後もしばらくは現況が続くと予想している。
		人材派遣会社（社員）	・秋のイベントから年末商戦に向けた求人数は増加傾向にあるが、若年層の減少は続くため、紹介が困難になる。そのため、シニア人材の活用を強く推奨している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・期待していた9月の求人の動きが良くないため、10月以降も求人数の増加には期待ができない状況である。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・人出が見込める季節であるが、物価上昇による買い控えが懸念される。
		職業安定所（職員）	・人手不足が続いており、受注を抑える対応をしている事業所もあるため、景気は変わらないと判断している。
		民間職業紹介機関（職員）	・既に新卒の就職戦線は大学3年生にシフトしており、旺盛である。現在、求人を出している企業は採用を継続しながら大学3年生に目を向け始めており、しばらくこの状況が続く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染拡大も続いており、新型コロナウイルス感染症発生前のような活動は難しい。値上げも続いており、生活防衛で余裕がない状態である。
		職業安定所（職員）	・物価上昇による実質賃金の低下が続いており、個人消費の冷え込みが懸念される。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・物価動向や依然続いている物価高や気候の影響、今後のウクライナ情勢や資源価格の動向など、経済的な面において不確実性が高いため、景気はやや悪くなることが予想される。
	x	-	-

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (沖縄)		一般小売店〔酒〕（店長）	・新型コロナウイルス感染症の重症者も少なくなり、今より海外の観光客も期待できる。
		観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの9月の販売室数は前年比7%減少とマイナスなのに対し、9月末時点での12月の予約室数は前年比1%増加とプラスに転じている。
		スーパー（企画担当）	・3か月後には、クリスマス、正月といった大きなモチベーションを控えており、今回の動向をみると、新型コロナウイルス感染症の5類への移行による制限緩和で、更に人流が活発化すると予想される。今後もイベント需要が好調に推移し、景気は良くなるのではないかとみられる。
		コンビニ（経営者）	・来客数が順調に増加しているため、販売量が期待できる。
		家電量販店（営業担当）	・来客数の底打ち感と単価の上昇、外国人観光客の増加などの影響があるとみている。
		乗用車販売店（営業担当）	・新車生産ラインは正常に戻ると予想されるため、良くなるとみられる。
		一般レストラン（代表者）	・忘年会の問合せなどが増えているため、期待している。
		百貨店（経営担当）	・生活必需品など物価の先行きが不透明であり、節約志向は今後も継続するものと予想される。
		スーパー（販売企画）	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いた状態が今のように続けば、2～3か月先の景気も変わらないと考えられる。
		コンビニ（店長）	・今の状況がしばらく続くとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は少し期待していたが、客の動きが思うほどには良くない。売上も上がっていない。今後もまだ景気が上がる気配はない。
		衣料品専門店（経営者）	・やはり物価や燃料費の高騰の影響で何もかもが少しずつ値上がりしている状態だが、賃金は相応には上がっていないため、節約意識が働いている。
		乗用車販売店（経理担当）	・目新しい動きがない。
	その他専門店〔陶器〕（製造）	・テレビ、ラジオなどで物価高や節約についての情報が多く流れている印象があり、それが客先の来客数や売上減少として出ているのではないかと考えられる。一方、コロナ禍明けで旅行が増えている話も聞くので、何とも予想しにくい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・観光客はコンスタントに入ってきているが、慢性的な求人難で人件費の上昇、食材、ビールの値上げで売価を際限なく上げるわけにもいかず、利益を圧迫している。
		観光型ホテル（代表取締役）	・宿泊部門の予約状況は、修学旅行などの予約があり先行して良い状態にある。これからの個人客の伸びに期待している。料飲部門は予約は増えているが、2019年と比べて1組の人数は減る傾向にある。また、調理、サービス部門の人材不足により100%の稼働ができない状況が続いている。物価や人件費上昇により、黒字になるかは微妙な状況である。
		旅行代理店（マネージャー）	・観光業界が人手不足に陥っているなか、インバウンドも回復傾向となり運送機関や宿泊の単価も上昇し高止まり気味である。旅行がしにくい金額になってきている。
		通信会社（営業担当）	・これから年末にかけては現在の新商品による好調が続く。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は2019年を上回っており回復傾向を維持している。特にインバウンドの需要増加は顕著で、今後フライト便数の増加があれば更に受注の伸長が期待できる。
		住宅販売会社（代表取締役）	・消費者物価などに賃金の上昇が追い付かない状況が続くと、当面好転は望めない。
		住宅販売会社（役員）	・相変わらず住宅建設のコスト高が継続し、販売価格が高く顧客層が限られつつある。
		商店街（代表者）	・店によっては、新型コロナウイルス感染症の影響もまだ結構ある状態である。長い間のコロナ禍で、店離れしている客もいる。
		コンビニ（副店長）	・新型コロナウイルス感染症5類移行後の初めての年末ということもあり、消費の活発化が見込めるが、来月からの賃金改定や電気代の値上げ等、必要経費の増加などに対する危惧もある。現状、国内消費者より訪日外国人の消費額が多いため、そこに依存する店舗運営は避けたい。
	x	-	-
企業動向関連		-	-
(沖縄)		食料品製造業（役員）	・年末や冬場のイベントに向けて引き続き観光関連を中心に良くなるとみている。
		窯業土石業（取締役）	・見積依頼が若干増加傾向であり、今後2～3か月先は受注増加が期待できる。
		建設業（経営者）	・見込みの高い客の来客が止まったままである。
		広告代理店（営業担当）	・円安による原材料や人件費の高騰が続くなかで、県内企業の販売促進投資は消極的である。
		-	-
	x	-	-
雇用関連		-	-
(沖縄)		職業安定所（職員）	・人材不足のため賃金を増やす企業が多くなっている。また、最低賃金の改定もあり、今後の景気は良くなっていくだろうと想定している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・2025年卒に向けての求人が出てくるため良くなると考えるが、先日来校されたエンジニア派遣のSES企業より、新卒の受入先が決まらない状況があるとの話があった。受け入れたとしても工数にカウントされないこともあるようで、人手不足で人は欲しいものの技術のある人材を採用したいという企業の思わくがみえてくる。今後の動き次第では新卒求人数に影響が出るものとみられる。
		人材派遣会社（総務担当）	・働き方の変化により、直接採用へと移行しているようにみられる。
		求人情報誌製作会社（営業）	・9～10月にかけて、社員としての転職者が増加する時期であり、それに伴い求人数は増加すると予測している。また、その求人数が増えた段階から年末に向けて減少すると予測している。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・物価高騰がしばらく続くとみられる。
		-	-
	x	-	-